1 準　備　編

2 基　本　編

3 機能編 撮影

4 機能編 再生

5 各種設定編

6 接　続　編

DIGITAL CAMERA

FinePix S3 Pro

使用説明書

このたびは、弊社製品をお買い上げいただきありがとうございます。
この説明書には、フジフイルムデジタルカメラ
ファインピックス S3 Proの使い方がまとめられています。
内容をご理解の上、正しくご使用ください。

本製品の関連情報はホームページをご覧ください。
http://www.fujifilm.co.jp/または http://www.finepix.com/

BL00430-101(1) J

目次

1 準備編

2 基本編

3 機能編 撮影

露出モード

ストロボ撮影

撮影ファンクションメニュー

4 機能編 再生

再生ファンクションメニュー

1
2
3
4
5
6

目次

再生メニュー

5 各種設定編

6 接続編

はじめに

▶ご使用の前に必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みください。

■撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）をするときには、必ず試し撮りをし、画像を再生して撮影されていることを確認してください。

＊本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。

■著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで記録したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像やファイルの記録されたメディアの転送は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外はご利用いただけませんので、ご注意願います。

■液晶について

液晶パネルが破損した場合、中の液晶には十分にご注意ください。万一以下の状態になったときは、それぞれの応急処置を行ってください。

- 皮膚に付着した場合：
  付着物をふき取り、水で流し、石けんでよく洗浄してください。
- 目に入った場合：
  きれいな水でよく洗い流し、最低15分間洗浄したあと、医師の診断を受けてください。
- 飲み込んだ場合：
  水でよく口の中を洗浄してください。大量の水を飲んで吐き出したあと、医師の手当を受けてください。

■ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

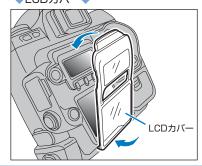
- 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品を飛行機や病院の中で使用しないでください。
  使用した場合、飛行機や病院の制御装置などの誤作動の原因となることがあります。

■製品の取り扱いについて

本製品は、精密な電子部品で構成されておりますので、画像記録中にカメラ本体に衝撃を与えると、画像ファイルが正常に記録されないことがありますのでご注意ください。

■商標について

- xD-Picture Card（ロゴ）、xD-Picture Card™、xD-ピクチャーカード™は富士写真フイルム（株）の商標です。
- Macintosh、iMac、iBook、Mac OSは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国々における登録商標です。
  Windows の正式名称は、Microsoft® Windows®Operating System です。
- その他の社名、商品名などは、日本および海外における各社の商標または登録商標です。

◆LCDカバー◆

液晶モニターの破損や汚れを防ぐため、カメラを使用しないときや持ち運ぶときは、付属のLCDカバーをカメラに取り付けてください。

LCDカバーをカメラの液晶モニターの下側に引っ掛けてから、取り付けます。

カメラの特長/付属品

カメラの特長

- 新開発の大サイズ“スーパーCCDハニカムSR II”搭載により超高解像度、高感度、広いダイナミックレンジ、高S/Nを実現
- 有効画素数1234万画素(S画素:617万画素+R画素:617万画素)
- 記録画素数4256×2848(約1210万画素)
- 非圧縮データとしてCCD-RAW14bitデータ出力対応
- ISO100〜1600まで幅広い感度を設定可能
- ISO感度、色味、階調、シャープネスを独立して設定可能。さらに、フィルムを選ぶ感覚で選択可能な新機能「フィルムシミュレーションモード」を搭載
- ヒストグラム表示機能、ハイライト警告表示機能により撮影後、即座に露光状態を確認可能
- 視野率100%の2.0型23.5万画素、低温ポリシリコンTFTカラー液晶モニター
- プロフェッショナルの要求に応えるマルチファンクション
- 5点測距AF機能
- 30秒から1/4000秒のシャッタースピード
- シンクロターミナル装備
- 起動0.5秒、撮影間隔最短約0.4秒の軽快な操作感
- **xD-ピクチャーカード** とCFおよびマイクロドライブ用スロットのダブルスロット搭載(FAT32対応)
- IEEE1394、USB2.0接続により簡単高速に画像ファイル転送が可能

付属品

- 単3形ニッケル水素電池(4本)

- 充電器(1個)

- ストラップ(1本)

- アクセサリーシューカバー(1個)
  本体装着

- アイピースキャップ(1個)

- LCDカバー(1個)
  本体装着

- ボディキャップ(1個)
  本体装着

- ビデオケーブル(1本)
  φ3.5mmミニプラグ×ピンプラグ:約1.5m

- IEEE1394ケーブル4ピン−6ピン(1本)
  約1.5m

- USBケーブル(mini-B)(1本)

- ケーブルホルダー(1個)

- クランプフィルタ(1個)

- シンクロターミナルキャップ(1個)
  本体装着
- リモートレリーズ端子キャップ(1個)
  本体装着
- 電池ホルダー(1個)
  本体装着
- CD-ROM
  Software for FinePix AX(1枚)
- 使用説明書(本書1部)
- ソフトウェア取扱ガイド(1部)
- 安全上のご注意(1部)
- 保証書(1部)
- 充電器使用説明書(1部)

各部の名称

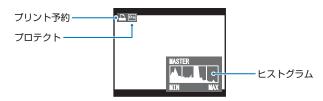
＊（　）内のページに詳しい説明があります。

視度調節レバー
接眼目当て
ファインダー
F4ボタン
F3ボタン
F2ボタン
F1ボタン
AE-L/AF-Lボタン
測光モードダイヤル
シンクロモード
ボタン（P.66）
オートブラケティング
ボタン（P.62）
メインコマンド
ダイヤル（P.31）
十字ボタン
背面表示パネル
（P.12）
十字ボタン
ロックレバー
FUNCボタン
（P.74、82）
MENU/OK
ボタン
BACKボタン
PLAYボタン（P.41）
液晶モニター（P.10）
スロットカバー
ロック解除つまみ
三脚用ねじ穴
CF／マイクロドライブ
イジェクトボタン
アクセスランプ（P.114）
xD-ピクチャーカード用スロット
CF／マイクロドライブ用スロット
スロットカバー

ストロボ（P.68）
ストロボポップアップ
ボタン（P.68）
レンズ取り外しボタン
ストラップ取り付け部
MSC
電池ホルダーロックレバー
電池ホルダー
フォーカスモードレバー（P.44）
デジタル端子カバー
USB（mini-B）端子
IEEE1394端子
VIDEO OUT（映像出力）端子
リモートレリーズ端子（P.60）
（10ピンターミナル）
DC IN 5V（電源入力）端子
リモートレリーズ
端子キャップ
端子カバー

上面表示パネルの表示例

上面表示パネルの液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

液晶モニターの表示例

液晶モニターの下側に明るさムラがあります。これは液晶の照明ムラであり、故障ではありません。

背面表示パネルの表示例

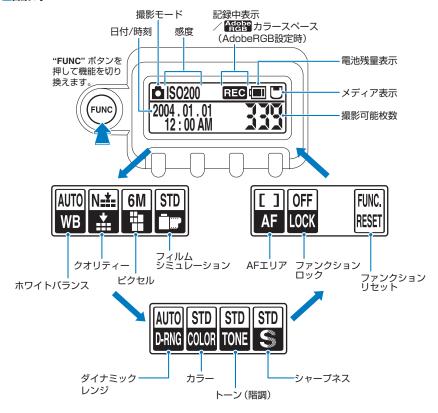
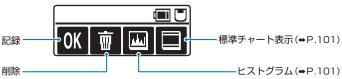
■撮影時

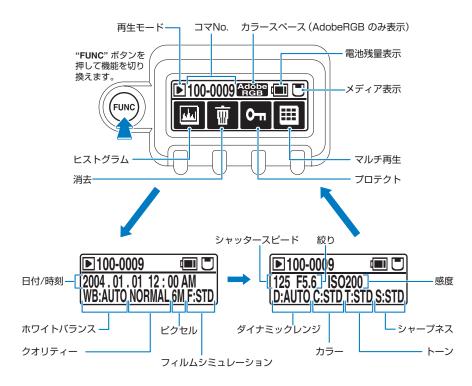
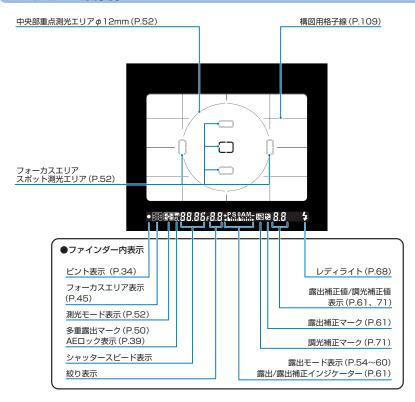
撮影モード
記録中表示
／ Adobe RGB カラースペース
（AdobeRGB設定時）
日付/時刻
感度
"**FUNC**" ボタンを押して機能を切り換えます。
FUNC
電池残量表示
メディア表示
撮影可能枚数
ISO200
REC
2004.01.01
12:00 AM

AUTO WB
N
6M
STD
[ ] AF
OFF LOCK
FUNC. RESET

ホワイトバランス
クオリティー
ピクセル
フィルム
シミュレーション
AFエリア
ファンクション
ロック
ファンクション
リセット

AUTO D-RNG
STD COLOR
STD TONE
STD S

ダイナミック
レンジ
カラー
トーン（階調）
シャープネス

●撮影画像表示：確認時

背面表示パネルの表示例

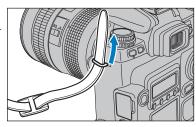
■再生時

ファインダーの表示例

- カメラに電池が入っていない、あるいは電池容量が全くない状態では、ファインダー全体が暗くなっていますが、故障ではありません。新しい電池を入れると明るくなります。
- ファインダーの上方（フォーカスエリア、構図用格子線）の液晶表示は、高温下では薄くなり、低温下では濃くなって液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。
- ファインダー内表示（マークや数字の表示されるところ）の液晶表示は、高温下では黒くなり、低温下では液晶の応答速度が多少遅くなることがありますが、常温時には正常に戻ります。

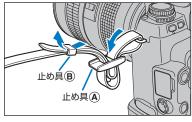
◆バリブライト・フォーカスエリア/マルチディスプレイ・スクリーンについて◆

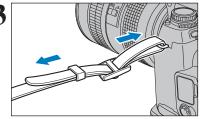
このカメラはフォーカスエリアを選択すると、選択されたフォーカスエリアがファインダースクリーン上に鮮明に表示される、バリブライト・フォーカスエリアを装備しています。この機能により、周囲が明るい場合はフォーカスフレームを黒く表示し、周囲が暗い場合にはフォーカスフレームを瞬間的に赤く照明しますので、選択されたフォーカスエリアを素早く確認することができます。さらに、カスタムセッティング（➡109ページ）により、構図用の格子線を表示させるマルチディスプレイ・スクリーンも装備しています。この構図用の格子線は撮影時の構図決定に効果的で、風景撮影やPCニッコールを使用してあおり撮影などを行うときに便利です。

※これらの機能に使用されている液晶の特性により、選択されたフォーカスエリアから外側に延びる細い線が見える場合やフォーカスエリアを照明する際にファインダー内が赤くなる場合がありますが、いずれも故障ではありません。

ストラップの取り付け

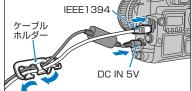
1

ストラップの先をカメラ本体のストラップ取り付け部に取り付けます。

2

ストラップの先に止め具Ⓐ、Ⓑを図のように通します。

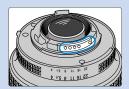
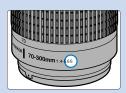
3

長さを調節します。反対側のストラップ取り付け部にも同様の手順で取り付けます。

取り付け後、ゆるみがないか確認してください。

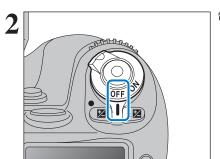
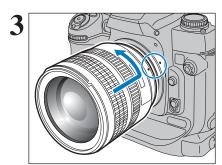
◆ケーブルホルダーの使い方◆

ケーブル類をケーブルホルダーに通します。

ケーブルホルダーを、ストラップ取り付け部に取り付けます。

レンズの取り付け

1 レンズの種類を確認します。

CPU内蔵ニッコール
レンズにはCPU信号接点
があります。

Gタイプニッコール
レンズ（絞りリングなし）

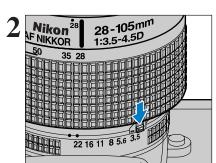
Gタイプ以外の
CPU内蔵ニッコール
レンズ（絞りリングあり）

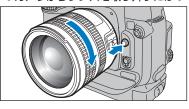
詳細は「このカメラに使用可能なレンズについて」（➡17ページ）をご参照ください。

2 電源レバーを“OFF”に合わせ、電源を切ります。

3 カメラとレンズの着脱指標を合わせて、レンズを矢印方向にカチッと音がするまで回します。

- レンズの交換は必ずゴミやほこりの少ないところで行ってください。
- レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズが装着されていないとき、またはCPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、電源レバーを“ON”にすると上面表示パネルとファインダー内表示に“F- -”が点滅して警告し、シャッターが切れません。CPU内蔵ニッコール以外のレンズを使用する場合は、18ページをご参照ください。
- レンズをカメラに対して傾いた状態で取り付けようとすると、カメラのレンズ取り付け部分を傷つける可能性がありますのでご注意ください。

Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを使用する場合

1 絞りリングを最小絞りにセットします。

2

絞りリングをロックします。最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットされていないときは、電源を入れると上面表示パネルとファインダー内表示に“FE E”が点滅し、シャッターが切れません。

◆カメラからレンズを取り外すには◆

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回して外します。

カメラからレンズを外しておくときは、ミラーやファインダースクリーンへのゴミやほこりの付着を防ぐために、付属のボディキャップを装着して、カメラの内部を保護してください（ニコン製ボディキャップBF-1Aもご使用になれます）。

このカメラに使用可能なレンズについて

このカメラには、CPU内蔵ニッコールレンズ（IXニッコールレンズを除く）をご使用ください。特に、DタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを装着すれば、全ての機能が使用できます（➡15ページ）。

■CPU内蔵ニッコールの種類と使用できるその他のレンズ等について

	レンズ ＼ モード	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	M以外	M	マルチパターン測光 3D-10分割	マルチパターン測光 10分割	中央部重点測光 スポット測光※1
CPU内蔵ニッコール※2	Dタイプ AFレンズ ※3 GタイプAFレンズ ※3 AF-Iレンズ AF-Sレンズ	○	○	○	○	○	○	—	○
	PCマイクロ 85mm F2.8D ※4	—	○ ※5	○	—	○	○	—	○
	AF-I/AF-S テレコンバーター ※6	○ ※7	○ ※7	○	○	○	○	—	○
	DタイプおよびGタイプ以外の AFニッコール（F3AF用を除く）	○ ※8	○ ※8	○	○	○	—	○	○
	Ai-Pニッコール	—	○ ※9	○	○	○	—	○	○
CPU内蔵ニッコール以外のレンズ等※10	Ai-S、Ai、シリーズEレンズ、 改造Aiニッコール	—	○ ※9	○	—	△ ※11	—	—	—
	メディカル120mm f /4	—	○	○	—	△ ※12	—	—	—
	レフレックスレンズ	—	—	○	—	△ ※11	—	—	—
	PCニッコール	—	○ ※5	○	—	△ ※11	—	—	—
	Ai-S、Ai テレコンバーター	—	○ ※7	○	—	△ ※11	—	—	—
	ベローズPB-6 ※13	—	○ ※7	○	—	△ ※11	—	—	—
	オート接写リング （PK-11A.12.13.PN-11）	—	○ ※7	○	—	△ ※11	—	—	—

※1：CPU内蔵ニッコールレンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動ができます（➡52ページ）。
※2：IXニッコールは装着できません。
※3：このカメラはVRニッコールレンズのVR（手ブレ補正）機能に対応しています。
※4：カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには、正しく機能しません。
※5：あおり操作を行っていない場合のみ可能です。
※6：AF-Sレンズ、AF-Iレンズ専用です（ただしAF-S ED 17～35mm f/2.8D、AF-S ED 28～70mm f/2.8D、AF-S 12～24mm f/4G、AF-S DX ED 17～55mm f/2.8G、AF-S DX ED 18～70mm f/3.5～4.5G、AF-S ED 24～85mm f/3.5～4.5G、AF-S VR ED 24～120mm f/3.5～5.6Gは使用不可）。
※7：合成絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用できます。
※8：AF 80～200mm f/2.8S　AF 35～70mm f/2.8S　AF 28～85mm f/3.5～4.5S（New）　AF 28～85mm f/3.5～4.5Sレンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※9：開放絞りが f/5.6以上明るい場合のみ使用できます。
※10：一部装着不可能なレンズ（➡18ページ）があります。
※11：露出モードは "M" マニュアルで使用できますが、露出計は使用できません。
※12：露出モードは "M" マニュアルでシャッタースピードは1/60秒以下で使用できますが、露出計は使用できません。
※13：オート接写リングを併用すると装着できます。
●複写装置PF-4はカメラアダプターPA-4を併用すると装着できます。

次ページにつづく

◆GタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズについて◆

Gタイプニッコールレンズは、レンズ本体から絞りリングをなくしたレンズです。このため、このカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要はありません。
Gタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズには、絞りリングがあります。本機に使用する場合は、絞りリングを最小絞りにセットしてロックします。絞りリングが最小絞りにセットされていないときは、電源レバーを“ON”にすると上面表示パネルとファインダー内表示に“FE E”が点滅し、シャッターが切れません。

◆CPU内蔵ニッコール以外のレンズ装着時には◆

露出モードを“M”マニュアルにセットした場合のみ、CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着して撮影できます（“M”マニュアル以外の露出モードでは、シャッターは切れません）。ただし、カメラの露出計の使用や、コマンドダイヤルによる絞りのセットはできません。上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示は、“F- -”となりますので、絞りのセットと確認は、レンズの絞りリングで行ってください。

◆使用できないCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等について◆

下記のCPU内蔵ニッコール以外のレンズ等は使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AFテレコンバーターTC-16AS
- Ai改造をしていないニッコールレンズ（Ai方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニットAU-1を必要とするレンズ（400mm f/4.5　600mm f/5.6　800mm f/8　1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6　7.5mm f/5.6　8mm f/8　OP10mm f/5.6）
- 旧21mm f/4
- K1リング、K2リング、オート接写リングPK-1、PK-11、BR-2リング、BR-4リング
- ED180～600mm f/8（製品No.174041～174180）
- ED360～1200mm f/11（製品No.174031～174127）
- 200～600mm f/9.5（製品No.280001～300490）
- F3AF用（80mm f/2.8　200mm f/3.5　テレコンバーターTC-16S）
- PC28mm f/4（No.180900以前の製品）
- PC35mm f/2.8（製品No.851001～906200）
- 旧PC35mm f/3.5
- 旧レフレックス1000mm f/6.3
- レフレックス1000mm f/11（製品No.142361～143000）
- レフレックス2000mm f/11（製品No.200111～200310）

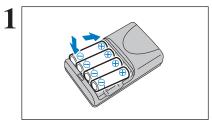
電池を充電する

同梱の単3形ニッケル水素電池を充電します。

充電できる電池

●弊社製充電式 ニッケル水素電池（FNH HR AA）

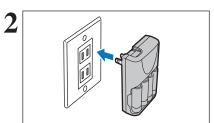
! 必ず指定の電池（弊社製）をご使用ください。指定外の電池（マンガン乾電池、アルカリ乾電池、リチウム電池）は絶対に充電しないでください。充電すると、電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因になります。

1

同梱の急速充電器にニッケル水素電池を、表示に従って正しくセットします。

! 工場出荷時に同梱のニッケル水素電池はフル充電されていません。お使いになる前に必ず充電してください。

! 購入後初めてお使いになるときや長時間使用しなかったときは、充電してから「充電池放電」機能を使って電池を放電し、もう一度充電してからのご使用をおすすめします（➡105ページ）。

! 電極に汚れがあると充電できない場合があります。充電前に電池の電極、充電器の端子を乾いたきれいな布などで清掃することをおすすめします。

2

充電器を電源コンセントに差し込み充電します。充電完了後、充電ランプが消灯します。使用しないときは電源コンセントから抜いてください。

! ニッケル水素電池の容量が残っている状態で充電を繰り返すと早めに電池残量警告が出ることがあります。その際は「充電池放電」機能を使用してから充電してください（➡105ページ）。

電池を入れます

使用する電池

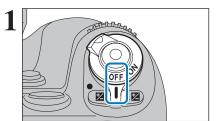
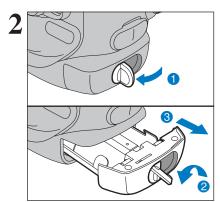
●単3形ニッケル水素電池（4本）

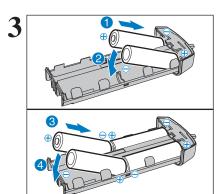
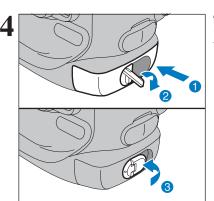
◆電池について◆

- ニッケル水素電池以外は使用できません。
- 電池の液もれ、発熱により重大な事故の原因になるため、以下の電池は絶対に使用しないでください。
  1. 外装チューブが破れたりはがれたりしている電池
  2. 種類の違う電池や、新しい電池と使用した電池を混ぜての使用
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると、使用可能時間が極端に短くなることがあります。電池の電極を乾いたきれいな布などで清掃することをおすすめします。
- 電池についてのご注意は127ページをご参照ください。
- お買い上げ時や長い間使用しなかった単3形ニッケル水素電池は、使用可能時間が短くなることがあります。詳細については127ページをご参照のうえ、ご使用の直前（1週間程度以内）に充電することをおすすめします。

1

電源レバーを “OFF” に合わせ、電源を切ります。

2

❶電池ホルダーロックレバーを起こします。
❷電池ホルダーロックレバーを反時計方向に回してロックをはずします。
❸電池ホルダーを引き出します。

3

電池ホルダーの⊕⊖表示に従って、電池を入れます。図のような順番で電池の先端を合わせ、ゆっくりと押しながら入れてください。

❗電池ホルダーロックレバーの反対側のすき間から電池を押し上げると、電池は簡単に取り出せます。

4

電池ホルダーを押し込みながら電池ホルダーロックレバーを時計方向に回して確実にロックします。

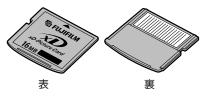
メディアを入れます

本機では記録媒体として、 **xD-ピクチャーカード** またはCF/マイクロドライブを使用できます。

- **xD-ピクチャーカード** とCF/マイクロドライブを同時にセットした場合は、SET-UPの「メディア」で設定されているメディアに記録されます（➡100ページ）。
- 本機で両メディア間のコピーは行えません。

xD-ピクチャーカード™（別売）

- DPC-16 （16MB）
- DPC-32 （32MB）
- DPC-64 （64MB）
- DPC-128（128MB）
- DPC-256（256MB）
- DPC-512（512MB）

表　　　　裏

- 本カメラでの動作保証は弊社製 **xD-ピクチャーカード** のみとなります。
- **xD-ピクチャーカード** は、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- **xD-ピクチャーカード** についてのご注意は129ページをご参照ください。

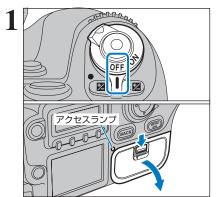
マイクロドライブ™（別売）

- マイクロドライブキット MK-1（340MB）
- マイクロドライブキット MK-2 （1GB）

- マイクロドライブはハードディスクです。 **xD-ピクチャーカード** に比べ振動や衝撃に強くありません。マイクロドライブを使用する場合は、カメラに振動や衝撃を与えないよう十分にご注意ください（特に記録中や再生中にはご注意ください）。
- マイクロドライブについてのご注意は129ページをご参照ください。

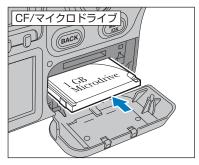
その他のメディア

動作確認済みのメディアは、ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/）に紹介していますので、ご覧ください。またはサポートセンター（➡裏表紙）にお問い合わせください。

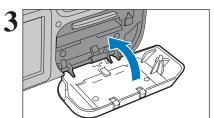
1

電源レバーを“OFF”に合わせアクセスランプが消灯していることを確認してから、スロットカバーを開けます。

スロットカバーは、絶対に電源を入れたまま開けないでください。メディア、または画像ファイルなどが壊れることがあります。

2

xD-ピクチャーカード用スロットの金色のマークと、xD-ピクチャーカード の金色の接触面を同じ向きに合わせて、確実に奥まで差し込みます。

CF/マイクロドライブ用スロットにCF/マイクロドライブを確実に奥まで差し込みます。

- xD-ピクチャーカード やCF/マイクロドライブのスロットに適合メディア以外を入れないでください。故障の原因となります。
- 向きが間違っていると奥まで入りません。また、無理な力を加えないでください。
- メディアが確実に奥まで入っていないと“カードエラー”が表示されます。

3

スロットカバーを閉めます。

◆ xD-ピクチャーカード を交換したいときは◆

xD-ピクチャーカード を押し込んだあと、静かに指を戻すとロックが外れて xD-ピクチャーカード が押し出されます。
押し出されたあと、 xD-ピクチャーカード を引き出すことができます。

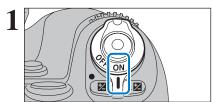
- xD-ピクチャーカード を保管するときは、専用ケースまたは専用キャリングケースに入れてください。
- ロックが外れた直後に xD-ピクチャーカード から急に指を離すと、 xD-ピクチャーカード が飛び出す場合がありますのでご注意ください。

◆CF/マイクロドライブを交換したいときは◆

スロットカバーを開け、CF/マイクロドライブイジェクトボタンを押し、CF/マイクロドライブを取り出します。

- CF/マイクロドライブを保管するときは、必ず専用の保護ケースに入れてください。

電源のON/OFF、日時の設定

1

電源を入れるには、電源レバーを “ON” に合わせます。
電源を切るには “OFF” に合わせます。

2

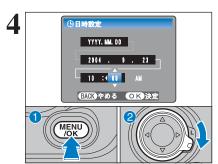
ご購入後初めて電源を入れると、日時がクリアされています。“MENU/OK” ボタンを押して日時を設定します。

- 確認画面（左図）が表示されない場合は、「日時の修正」（➡25ページ）を参照して、日時を確認、修正してください。
- 電池を取り外してカメラを長期間保管したときも確認画面が表示されます。
- あとで設定するときは “BACK” ボタンを押します。
- 日時を設定しないと電源を入れるたびに確認画面が表示されます。

3

❶十字ボタンのロックを解除します。
❷“◀▶” で年、月、日、時、分を選び、“▲▼” で修正します。

- “▲” または “▼” を押し続けると、数字が連続して変わります。
- 時刻表示で “12：00” を越えると、自動的にAM（午前）/PM（午後）が切り換わります。

4

❶日時を設定したら必ず “MENU/OK” ボタンを押します。
❷誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

- ご購入時および長期間電池を抜いて放置したあとは、日時設定などの各種設定がクリアされてしまいます。各種設定は、ACパワーアダプターを接続または電池を入れて約2日間以上経過していれば、カメラから両方とも取り外しても、約半年間保持されます。

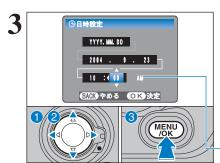
日時の修正、日付の並び順の変更

1

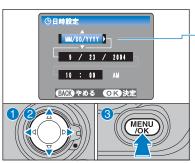
❶十字ボタンのロックを解除します。
❷“MENU/OK” ボタンを押します。

2

❶“◀▶” で見出し番号3に切り換え、“▲▼” で“日時設定” を選びます。
❷“▶” を押します。

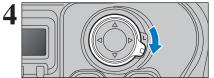
3

日時を修正するには

❶“◀▶” で年、月、日、時、分を選びます。
❷“▲▼” で設定します。
❸設定が終了したら、必ず “MENU/OK” ボタンを押します。

! “▲” または “▼” を押し続けると、数字が連続して変わります。
! 時刻表示で “12：00” を越えると、自動的にAM（午前）/PM（午後）が切り換わります。

日付の並び順を変更するには

❶“◀▶” で “日付の並び順” を選びます。
❷“▲▼” で並び順を設定します。設定については下記の表を参照してください。
❸設定が終了したら、必ず “MENU/OK” ボタンを押します。

日付の並び順	説　明
YYYY.MM.DD	「年.月.日」の順に並びます。
MM/DD/YYYY	「月／日／年」の順に並びます。
DD.MM.YYYY	「日.月.年」の順に並びます。

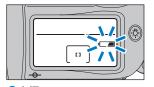
4

誤作動を防ぐため十字ボタンをロックします。

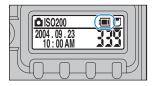
電池残量の確認

電源を入れ電池残量表示を確認します。

上面パネルの電池残量表示

❶表示なし
電池の残量があります。

❷点滅
電池の残量がなくなり、動作終了の処理をしています。

❸点灯
電池の残量がなくなり、動作終了の処理が終わると点灯します。必ず電池を交換してください。

背面パネルの電池残量表示

❶電池の残量は十分です。
❷電池が消耗しています。予備の電池を準備してください。
❸電池の残量がありません。必ず電池を交換してください。

❸の表示後に、電源を入れ直すと、❶の表示に戻るときがありますが、電池の残量はありません。必ず電池を交換してください。

- 露出中や画像保存中に電源が切れてしまうと、撮影した画像を保存することができません。バルブ撮影など長時間露出撮影や画像の保存に時間がかかる撮影（連写やクオリティーを "HIGH" にして撮影）をするときは、電池残量にご注意ください。
- 室内などで、長時間使用する場合は、別売のACアダプター（AC-5VX）の使用をおすすめします。
- ACパワーアダプターを使用すると、電池残量は表示されません。

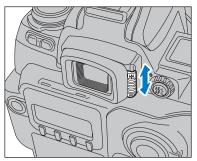
◆オートパワーオフ機能◆

電源を入れたまま放置すると、自動的に電源が切れる機能です（➡109ページ）。
オートパワーオフした場合は、上面のシャッターボタンを半押ししたり、イルミネーターボタンを押すと、電源が入ります。

縦位置撮影用シャッターボタンでは、オートパワーオフを解除できません。

視度調節機能、イルミネーターについて

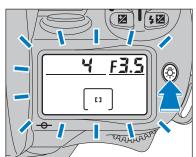
視度調節機能

視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。

ファインダーをのぞきながら、ファインダー内のフォーカスフレーム、またはファインダー内表示が最もシャープに見える位置まで視度調節レバーをスライドさせてください。

●視度調節は−2.0〜+1.0m⁻¹（近視〜遠視）の間で可能です。また、ニコン製の接眼補助レンズは−5〜+3m⁻¹の間で9種類が用意されています。

ファインダーをのぞきながら視度調節レバーをスライドさせる際、目に近い位置での操作となりますので、指先やつめで目を傷つけないように注意してください。

イルミネーターについて

イルミネーターを点灯させると、暗い所で表示パネルの表示が確認しやすくなります。

“☼”イルミネーターボタンを押すと、上面および背面表示パネルが照明されます。

●イルミネーターは次のときに消灯します。
- “☼”イルミネーターボタンをもう一度押したとき
- シャッターを切ったとき
- オートパワーオフで電源が切れたとき

！シャッターボタンを半押しすると一時的に消灯します。

CSM 14：イルミネーターが、各ボタンの操作と同時に点灯するように変更できます（➡110ページ）。

1 準備編

基本操作ガイド

●アクセサリーシュー
ここに外部ストロボを取り付けます。
●ストロボポップアップボタン
内蔵ストロボを使うときに、このボタンを押してストロボをポップアップします。
●電源レバー
電源をON/OFFします。
●レンズ取り外しボタン
このボタンを押しながらレンズを取り外します。
●シンクロターミナル
シンクロコードを必要とするストロボを接続するときに使用します。
●フォーカスモードレバー
AF-S（シングルAFサーボ）、AF-C（コンティニュアスAFサーボ）、M（マニュアル）を切り換えます。
● リモートレリーズ端子
10ピンのリモートレリーズを接続するときに使用します。
●露出モードダイヤル
露出モード・カスタムセッティング・ISO感度を切り換えます。
P プログラムオート
S シャッター優先オート
A 絞り優先オート
M マニュアル
CSM カスタムセッティング
ISO ISO感度
●レリーズモードレバーロック解除ボタン
このボタンを押しながら、レリーズモードレバーを動かします。
● 上面表示パネル
ファインダー内に表示されている情報や、その他の情報が表示されます。
●レリーズモードレバー
1コマ・連写・セルフタイマー・多重露出を切り換えます。
●メインコマンドダイヤル
シャッタースピード、その他の設定値を変更します。

●オートブラケティングボタン
ダイヤルと併用して、オートブラケティングを設定します。
メインコマンドダイヤル：オートブラケティングのON/OFF
サブコマンドダイヤル：撮影枚数・補正値の組み合わせを選ぶ

●シンクロモードボタン
メインコマンドダイヤルと併用して、シンクロモードを選択します。

●視度調節レバー
ファインダー内の像を見やすくします。フォーカスエリアが最もシャープに見える位置にあわせてください。

BKT

AE-L
AF-L

FUNC

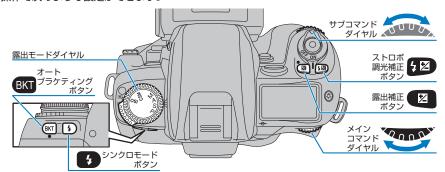
●測光モードダイヤル
マルチ・中央重点・スポットを切り換えます。

●AE-L/AF-Lボタン
押している間、露出とピントを固定します。

2
基本編

● FUNCボタン
背面表示パネルの表示内容を切り換えます。
● 背面表示パネル
撮影と再生時の情報を表示します。
● F1～F4ボタン
背面表示パネルでの選択に使います。
●十字ボタン
メニューの選択、フォーカスエリアの選択を行います。
●十字ボタンロックレバー
十字ボタンを使用するときに、解除します。
●MENU/OKボタン
メニュー画面で、決定するときに、このボタンを押します。
●BACKボタン
メニュー画面で、取りやめるときに、このボタンを押します。
● PLAYボタン
再生画面の表示・非表示を切り換えます。
● アクセスランプ
メディアアクセス中に点灯します。
FUNC
PLAY
BACK
MENU /OK
●再生・メニュー・SET－UPでの操作
撮影
液晶モニター OFF
PLAY
MENU /OK
シャッター半押し
再生
メニュー
SET-UP
消去
全コマ
戻る
SET-UP
1 2 3 4 5
撮影画像表示 OFF
カスタムWB設定 :設定
カラースペース :sRGB
D-レンジ :ワイド
BACK やめる OK 決定
コマ送り ：
再生ズーム ：
①メニュー選択 ：
②設定の選択 ：
③決定：MENU/OK
取りやめ：BACK
①項目選択 ：
②設定の選択：

コマンドダイヤル

このカメラには2種類のコマンドダイヤルがついています。各操作ボタンと併用、または単独操作で次のような設定ができます。

設　定	露出モード設定	操　作
プログラムシフト	“P”	メイン
シャッタースピードの設定	“S・M”	遅　メイン　速
絞り値の設定	“A・M”	開　サブ　絞
露出補正量の設定	“P・S・A・M”	＋　メイン
オートブラケティングのON/OFF	“P・S・A・M”	BKT ＋　メイン
オートブラケティングの撮影枚数と補正ステップの設定		BKT ＋　サブ
シンクロモードの設定	“P・S・A・M”	＋　メイン
ストロボ調光補正量の設定		＋　メイン
感度の設定	“ISO”	メイン
カスタムセッティングの項目の選択	“CSM”	メイン
カスタムセッティングの設定の変更		サブ

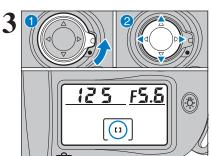
撮影してみましょう（Pマルチプログラムオート）

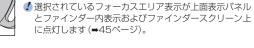
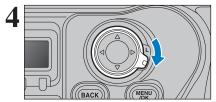
1

フォーカスモードレバーを“S”シングルAFサーボに合わせます。

フォーカスモードレバーの操作は、カチッと音がするまで確実に行ってください。

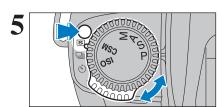
2

❶“FUNC”ボタンを押して、背面表示パネルにAFエリア設定を表示させます。
❷“F1”ボタンを押して、“[ ] AF”シングルエリアAFに設定します。

3

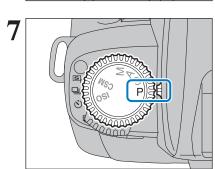
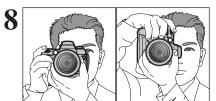
❶十字ボタンのロックを解除します。
❷“▲▼◀▶”でフォーカスエリアを中央に合わせます。

選択されているフォーカスエリア表示が上面表示パネルとファインダー内表示およびファインダースクリーン上に点灯します（➡45ページ）。

4

誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

5

レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを“S”1コマに合わせます。

6 測光モードダイヤルを “ ” マルチパターン測光に合わせます。

❗ ファインダー内表示に “ ” が点灯します。

7 露出モードダイヤルを “P” マルチプログラムオートに合わせます。

8 両脇を締め、両手でカメラを構えます。

❗ 縦位置で撮影するときは、縦位置撮影をご参照ください（➡34ページ）。
❗ レンズに指や、ストラップが掛からないようにしてください。

9 被写体を中央のフォーカスエリアに重ねます。

❗ 被写体がフォーカスエリアから外れてしまう場合は、フォーカスエリアを移動するか、AFロック撮影を行ってください（➡38ページ）。

次ページにつづく

10

シャッターボタンを半押しすると、ピントが合い、ファインダー内表示に“●”ピント表示が点灯します。

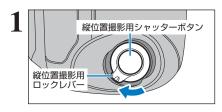
ピント表示が点滅の場合は、ピント合わせができず、シャッターは切れません。

11

半押しのままさらにシャッターを押し込むと（全押し）、撮影されます。

縦位置撮影

縦位置撮影用シャッターボタンを使って、横位置撮影と同じような感覚で撮影できます。

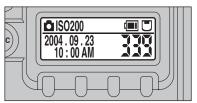
1

縦位置撮影用シャッターボタンのロックを解除します。

2

カメラを縦位置に構えて撮影します。

縦位置撮影用シャッターボタンを使用しないときは、誤動作防止のため縦位置撮影用ロックレバーをロックしておいてください。

縦位置撮影用シャッターボタンでは、オートパワーオフを解除できません。上面のシャッターボタンを押すと解除できます。

撮影可能枚数について

背面表示パネルに撮影可能枚数が表示されます。

- ピクセル（画像サイズ）/クオリティー（圧縮率）の変更は、76、77ページをご参照ください。
- 工場出荷時設定は、6M、N（クオリティー：NORMAL）です。

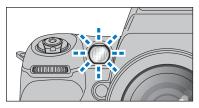
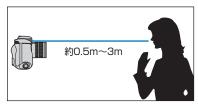
■メディア標準撮影枚数

被写体によって記録されるデータ量が一定ではないため、記録後の撮影可能枚数が減らないか、または2コマ減る場合があります。また、撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル（記録画素数）	RAW RAW		12M 4256×2848（約1210万）		6M 3024×2016（約610万）		3M 2304×1536（約354万）		1M 1440×960（約138万）	
クオリティー	HIGH D-レンジ ワイド	HIGH D-レンジ スタンダード	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL
画像1枚の ファイルサイズ	約25MB	約13MB	約4.7MB	約2.4MB	約3.0MB	約1.5MB	約1.7MB	約880KB	約1MB	約520KB
DPC-16MB（16MB）	0	1	3	6	5	10	8	17	14	29
DPC-32MB（32MB）	1	2	6	13	10	20	17	35	30	59
DPC-64MB（64MB）	2	4	13	26	21	42	36	72	61	120
DPC-128MB（128MB）	5	9	26	53	42	84	72	144	122	241
DPC-256MB（256MB）	10	19	53	107	85	169	146	290	245	484
DPC-512MB（512MB）	20	39	107	214	170	339	292	580	491	967
MK-1（340MB）	13	27	73	146	116	232	200	396	338	671
MK-2（1GB）	41	81	220	437	349	698	597	1173	995	1932

＊メディアをフォーマットした状態の撮影可能枚数です。

AF補助光について

このカメラは、AF補助光ランプを搭載しています。被写体が暗い場合でも、シャッターボタンを半押しすると自動的にAF補助光を照射し、被写体を照らしてオートフォーカスでのピント合わせが可能となります。

以下の条件を満たしているときに自動的に照射を行います。
フォーカスモードがAF-Sで、AFニッコールレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態かまたは至近優先ダイナミックAFのとき。

使用可能なAFニッコールレンズの焦点距離は24mm〜200mm、AF補助光が届く距離範囲の目安は約0.5m〜3mです。

CSM 15：AF補助光の照射を禁止することができます（➡110ページ）。

AF補助光を連続的に使用すると、照射ランプを保護するため一時的に照射が制限されます。少し時間をおくと照射可能になります。また、短時間に何回も使用すると、AF補助光の窓が熱くなることがありますので、ご注意ください。

◆ニコン製ストロボとアクティブ補助光について◆

ニコン製ストロボSB-28／28DX、27、26、25、24、800、600を使用して、撮影した場合、アクティブ補助光の発光条件が満たされると、ニコン製ストロボ側のアクティブ補助光が自動的に照射を行います。その他のニコン製ストロボでは、カメラ側のAF補助光が自動的に照射を行います。

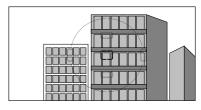
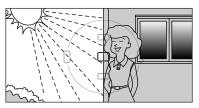
◆ケラレが発生するレンズ◆

- 下記のレンズではケラレが発生し、撮影距離1m以内では内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
  - AF マイクロ ED 200mm f/4
  - AF-S ED 17〜35mm f/2.8
  - AF ED 18〜35mm f/3.5〜4.5
  - AF 20〜35mm f/2.8
  - AF 24〜85mm f/2.8〜4D
  - AF-S DX 18〜70mm f/3.5〜4.5G
  - AF-S VR ED 24〜120mm f/3.5〜5.6G
  - AF 24〜120mm f/3.5〜5.6
  - AF-S ED 28〜70mm f/2.8
  - AF マイクロ ED 70〜180mm f/4.5〜5.6
  - AF 24〜85mm f/2.8〜4
  - AF-S DX ED 12〜24mm f/4G
  - AF-S ED 24〜85mm f/3.5〜4.5G
  - AF ED 28〜200mm f/3.5〜5.6G
- AF-S DX ED 17〜55mm f/2.8G (IF) は、撮影距離2m以内では内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。
- AF-S ED 80〜200mm f/2.8、AF ED 80〜200mm f/2.8、AF VR ED 80〜400mm f/4.5〜5.6、AF-S VR ED 70〜200mm f/2.8D、AF-S VR ED 200〜400mm f/4Gは内蔵AF補助光を使用してのオートフォーカス撮影は行えません。

オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスでピント合わせができない場合があります。このような場合は、フォーカスモードレバーを“M”マニュアルフォーカスに切り換えてマニュアルでピントを合わせて撮影するか、AFロック（➡38ページ）を利用しておおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせ、そのまま構図を元に戻して撮影してください。

明暗差がはっきりしない場合
（白壁や背景と同色の服をきている人物等）

フォーカスエリア内に遠いものと近いものが混在する被写体
（オリの中の動物や木の前の人物等）

連続した繰り返しパターンの被写体
（ビルの窓等）

フォーカスエリア内の被写体の輝度差が著しく異なる場合
（太陽が背景に入った日陰の人物等）

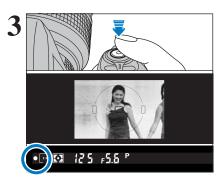
AFロック撮影

1

シングルエリアAFでフォーカスエリアが中央のときにこのような構図で撮影すると、被写体（この場合は人物）からフォーカスエリアが外れているためピントが合いません。

2

被写体が中央のフォーカスエリアに重なるようにカメラを少し動かします。

3

そのままシャッターボタンを半押し（AFロック）し、ファインダー内表示に“●”ピント表示が点灯されるのを確認します。

フォーカスモード“AF-C”のときは、シャッターボタンを半押ししたまま“AE-L/AF-L”ボタンを押します（➡39ページ）。

4

シャッターボタンを半押し（AFロック）のまま最初の構図に戻して、さらにシャッターボタンを押し込みます。

AFロック操作は、シャッターを切る前なら何回でもやり直せます。

AFロック撮影は、どのような撮影方法でも有効です。AFロックをうまく活用しましょう。

◆AF（オートフォーカス）でピントが合わないときは◆

- フォーカスエリアをほぼ同じ距離の他の被写体に合わせシャッターボタンを半押しし、構図を決め直して撮影します。
- フォーカスモードを“M”マニュアルに設定して、ピントを合わせて撮影することもできます。

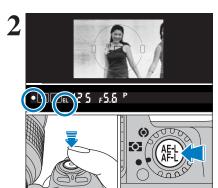
AEロック撮影

特定の被写体に露出を固定して撮影できます。露出を合わせたい部分とその周囲とで、著しく明るさが異なるときなどに便利です。

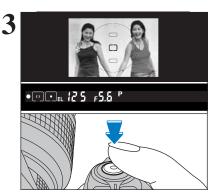
1

測光モードダイヤルを“●”スポット測光または“◉”中央重点測光に合わせます。

●マルチパターン測光は十分なAEロックの効果が期待できないため、おすすめできません。

2

露出を合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押ししたまま、“AE-L/AF-L”ボタンを押します。ファインダー内に“EL”AEロック表示が点灯します。

●“AE-L/AF-L”ボタンを押している間は、露出とピントが固定されます（工場出荷設定）。
●フォーカスモードがAF-S/AF-Cのときに、ピントが合っていないまま“AE-L/AF-L”ボタンを押すと、ピントがずれたまま固定されます。必ず“●”ピント表示の点灯を確認して下さい。

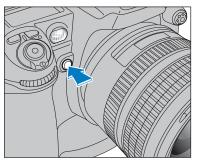
3

“AE-L/AF-L”ボタンを押したまま、構図を決めて撮影します。

●撮影後も“AE-L/AF-L”ボタンから指をはなさなければ維持されますので、同じ設定のまま構図をかえて撮影できます。
●“AE-L/AF-L”ボタンを押している間、次の操作ができます。
  1. 露出モードが“P”のとき、プログラムシフト。
  2. 露出モードが“S”のとき、シャッタースピードの変更。
  3. 露出モードが“A”のとき、絞りの変更。
●AEロック中は測光モードを切り換えても変わりません。AEロックを解除してください。

CSM 5：シャッターボタンの半押しでAEロックが行えるように変更できます（➡109ページ）。
CSM 9：“AE-L/AF-L”ボタンを押したときの動作を変更できます（➡109ページ）。
動作：AF・AEロックを行う（工場出荷設定）/AEロックだけ行う/AFロックだけ行う/AEロックの維持/AFの作動

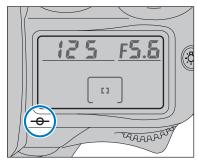
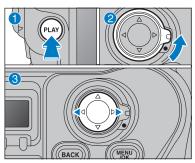
被写界深度確認ボタン、距離基準マークについて

被写界深度確認ボタン

被写界深度確認ボタンを押すと、カメラのファインダーをのぞいて被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

被写界深度確認ボタンを押し続けると、露出モードが“P”マルチプログラムオート、“S”シャッター優先オートのときは制御される絞りまで、露出モードが“A”絞り優先オート、“M”マニュアルのときはセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

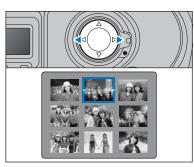
被写界深度確認ボタンを押すとシャッタースピードの表示とイルミネーターが消えます。

距離基準マークについて

距離基準マークは、カメラ内のCCD面の位置を示しています。

距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内のCCD面の位置を示しています。接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。
レンズ取り付け面（レンズマウント）からCCD面までの寸法は46.5mmです。

画像を見るには（▶再生）

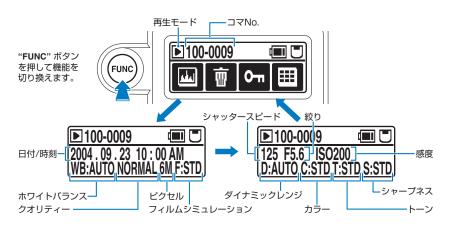
1コマ再生

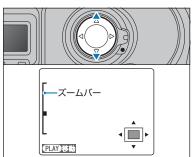
❶画像を見るには“PLAY”ボタンを押します。
❷十字ボタンのロックを解除します。
❸“▶”順送り、“◀”逆送りで画像を見ることができます。

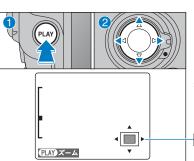
“PLAY”ボタンを押したときは、最後に撮影した画像が再生されます。

画像の選択

再生中に“◀”または“▶”を約1秒間押し続けると、一覧表示画面で画像の選択ができます。

■撮影データの表示について

再生時に“FUNC”ボタンを押すと再生しているコマの撮影データを確認できます。

◆再生できる静止画について◆

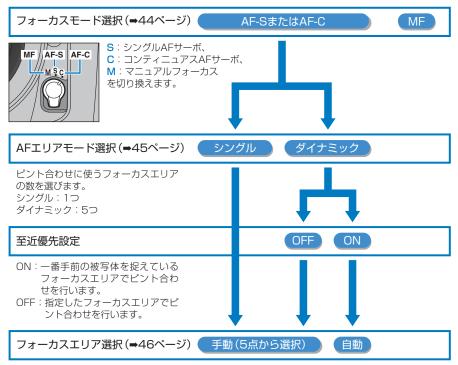
本機で記録した静止画、または xD-ピクチャーカード およびCF/マイクロドライブ対応の弊社製デジタルカメラで記録した静止画（一部非圧縮画像を除く）が再生できます。なお本機以外のカメラで撮影した静止画はきれいに再生できない場合や、再生ズームができない場合があります。

再生ズーム

1コマ再生中に“▲”、“▼”を押すと静止画をズーム（拡大）します。このとき“ズームバー”が表示されます。
1コマ再生に戻るには“BACK”ボタンを押します。

❶見える範囲を移動するには“PLAY”ボタンを押します。
❷“▲▼◀▶”を押すと、見える範囲を移動できます。
このときナビゲーション画面に現在の表示位置が表示されます。
ズームに戻るには“PLAY”ボタンを押します。

■ズーム倍率

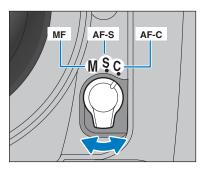
ピクセル	最大ズーム倍率
12M（4256×2848ピクセル）	約26.6倍
6M（3024×2016ピクセル）	約18.9倍
3M（2304×1536ピクセル）	約14.4倍
1M（1440×960ピクセル）	約9.0倍

フォーカス設定 フォーカス設定について

43〜47ページでは、フォーカス機能の使用方法・設定方法、関連項目について説明しています。以下にページマップを示しますので、詳細は各ページをご覧ください。

手動：ピント合わせに使うフォーカスエリアを1つ選びます。
自動：至近優先設定が“ON”のときは、選択できません。

■フォーカス関連のカスタムセッティング

CSM 3：フォーカスエリア照明	ファインダー内のフォーカスエリア自動照明の設定	➡109ページ
CSM 4：フォーカスエリア選択の循環	フォーカスエリア選択の方法を設定	➡109ページ
CSM 7：AF-Sでの至近優先ダイナミックAF	至近優先ダイナミックAFに関する設定	➡109ページ
CSM 8：AF-Cでの至近優先ダイナミックAF	至近優先ダイナミックAFに関する設定	➡109ページ
CSM 9：AE-L/AF-Lボタンの機能選択	AE/AF同時ロック、単独ロック、維持の切り換え	➡109ページ

フォーカスモードの選択

フォーカスモードレバーで、フォーカスモードを選びます。

■フォーカスモードについて

	AF-S （S：シングルAFサーボ）	AF-C （C：コンティニュアスAFサーボ）	MF （M：マニュアルフォーカス）
特徴	フォーカス優先モードです。“●”ピント表示がないときは、シャッターは切れません（予測駆動フォーカス作動時を除く）。	レリーズ優先モードです。“●”ピント表示がないときでも、シャッターを切れます。	いつでもシャッターを切ることができます。
AF動作の開始	シャッターボタンを半押しします（工場出荷設定）。	シャッターボタンを半押しします（工場出荷設定）。	AF動作しません。
フォーカスロック	シャッター半押しを続けると、“●”ピント表示が点灯した状態で、フォーカスロックします。	シャッター半押しを続け、いったん“●”ピント表示が点灯しても、フォーカスロックせず、ピントを合わせ続けます。AE-L/AF-Lボタンを押してフォーカスロックします。	フォーカスロックしません。
予測駆動フォーカス（動く被写体のピントを追い続ける機能）	AF動作の開始時から動いている被写体にのみ作動します。作動中、ピントが合っているとカメラが判断したときは、シャッターが切れます。	途中から動き始めた被写体にも作動します。	作動しません。

CSM 9：AF動作の開始をシャッターボタンの半押しではなく、AE-L/AF-Lボタンの操作でオートフォーカスが作動するように変更できます（➡109ページ）。

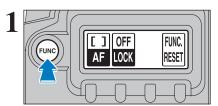
フォーカス設定 AFエリアモードの選択

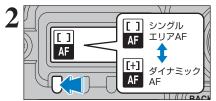
オートフォーカス（フォーカスモードレバーが、SまたはC）での、ピント合わせをする方法を変更できます。

シングルエリアAF	●指定したフォーカスエリアを使って、ピント合わせを行います。 ●動きの少ない被写体に対して正確なピント合わせを行いたい場合などに便利です。
ダイナミックAF	●指定したフォーカスエリアから被写体が外れてしまった場合でも、他のフォーカスエリアを利用してピント合わせします。 ●動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。
至近優先AF	●一番手前の被写体を捉えているフォーカスエリアを使って、ピント合わせを行います。

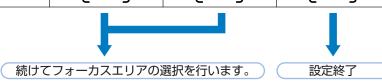
＊至近優先AFモードで、スポット測光する場合、測光は、常に画面中央のフォーカスエリアで行われます。
＊望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低いときには、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。

CSM 7、8：至近優先AFのON/OFFは、フォーカスモードで決定されます。工場出荷設定では、S（シングルAFサーボ）では“ON”、C（コンティニュアスAFサーボ）では“OFF”となっています。この設定は、カスタムセッティングで変更できます（➡109ページ）。

1

“FUNC”ボタンを押してこの画面を表示します。

2

シングルエリアAFかダイナミックAFを選びます。

■この時点でファインダー内の表示、上面表示パネルは次のようになっています。

	シングルエリアAF	ダイナミックAF 至近優先AF OFF	ダイナミックAF 至近優先AF ON
フォーカスエリア			
上面表示パネル/ ファインダー内表示			

3 機能編 撮影

フォーカスエリアの選択

1

十字ボタンのロックを解除します。

2

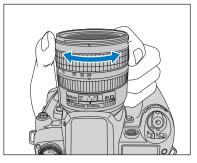
❶"▲▼◀▶" でフォーカスエリアを選びます。
❷選択が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

● 選択されたフォーカスエリア表示は、被写体の明るさに応じて赤色で自動的に照明します。

CSM 3：選択されたフォーカスエリア表示は、自動的に照明しますが、この照明を禁止したり、被写体の明るさに関係なく照明したりするように変更できます（➡109ページ）。

CSM 4：通常、十字ボタンを押した方向のフォーカスエリアしか選択することはできませんが、右側のフォーカスエリアが選択されているときに、十字ボタンの "▶" を押すと左側のフォーカスエリアが選択されるような操作が可能となります。これにより、十字ボタンの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります（➡109ページ）。

フォーカス設定 マニュアルフォーカスについて

マニュアルフォーカスは、オートフォーカスの苦手な被写体（➡37ページ）を撮影するときや、AFニッコール以外のレンズ（➡18ページ）を装着しているときにご使用ください。

レンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるようにピントを合わせます。

- A-M切り換え方式のレンズを装着して、マニュアルフォーカスでピントを合わせる場合は、レンズ側もMにセットしてご使用ください。また、M/A（マニュアル優先オートフォーカス）モード機能を搭載しているレンズを装着する場合は、レンズ側はM/AまたはMのどちらにセットしてもマニュアルフォーカスは可能です。詳細はご使用になる各レンズの使用説明書をご覧ください。

フォーカスエイド

1

ファインダー内表示の“●”ピント表示によって合焦状態を確認できます。
フォーカスエイドは、開放絞りがf/5.6以上明るいレンズを装着しているときに利用できます。
❶ピントを合わせたいものに選択しているフォーカスエリアを重ねます。
❷レンズの距離リングを回します。

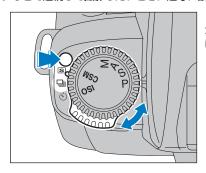
2

シャッターボタンを半押しします。ピントが合っていると、“●”ピント表示が点灯します。

◆ピント表示について◆

本機では、合焦のしやすさを考慮して、“●”ピント表示が点灯する範囲に一定の幅を設けてあります。これにより、フォーカスリングのわずかな動きに敏感に反応して“●”ピント表示がチラつくことがないようにしています。
しかし、このため近距離側からピントを合わせた場合と遠距離側からピントを合わせた場合で、ピント位置が微妙に異なり、“●”ピント表示が点灯した場合でも、最適の合焦状態になっていない場合があります。このような場合は“●”ピント表示が点灯する範囲の中間の位置にフォーカスリングを合わせることで、より良好な合焦状態にすることができます。

レリーズモード S 1コマ、 連写

通常は1コマに設定します。動きのある被写体を連続して撮影したいときや、オートブラケティングなどで連続して撮影したいときに連写に設定します。

レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを“S”1コマまたは“ ”連写に合わせます。

S 1コマ

シャッターボタンを押すごとに1コマずつ撮影できます。1コマずつ確実に撮影するときに使用します。

! 1コマずつ速く撮影すると連写のように撮影可能枚数が反転表示されることがあります。このときは撮影できませんので、反転表示が解除されるまでお待ちください。

連写

シャッターボタンを押し続けると、最短約0.4秒間隔で最大12コマ連写できます。

● 最大連写枚数まで撮影すると、背面表示パネルの撮影可能枚数が反転表示されます。そのときは連続して撮影することはできません。反転表示が解除されるまでお待ち下さい。

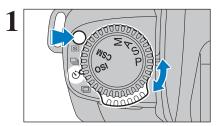
! 内蔵ストロボを使用すると連写になりません。
! 撮影画像表示（➡101ページ）が“ON”または“確認”のとき連写すると、最後のコマの撮影結果のみ表示され、自動的に記録されます。
! 撮影可能枚数が少ないときに連写すると、一時的に撮影可能枚数が0になることがあります。

最短撮影間隔と最大連写枚数はSET-UPのD-レンジとクオリティーの設定によって変わります。

SET-UPのD-レンジ設定	ワイド		スタンダード	
クオリティー	HIGH	FINE、NORMAL	HIGH	FINE、NORMAL
	RAW	JPEG	RAW	JPEG
最短撮影間隔	約0.7秒	約1秒	約0.4秒	
最大連写枚数	3	6	7	12
多重露出撮影時の最短撮影間隔	約0.7秒		約0.4秒	
多重露出撮影時の最大連写枚数	3		7	

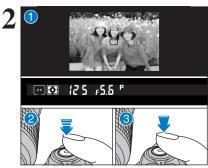
レリーズモード ⏲ セルフタイマー

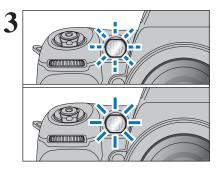
セルフタイマーは記念写真など、撮影者自身も一緒に写りたいときなどに便利です。三脚などを使用し、カメラを安定させてから行ってください。

1

レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーをセルフタイマーに合わせます。

◆撮影する前に◆

- AF-S（シングルAFサーボ）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターが切れない状態では、セルフタイマーは作動しません。
- "M" マニュアル以外の露出モードでは、適正露出を得るために接眼部からの逆入光を防ぐ必要があります。シャッターボタンを押す前に、手または付属のアイピースキャップで接眼部を覆ってください。アイピースキャップは、接眼目当てを取り外し、ファインダー接眼部の上から差し込むように取り付けます。
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させるときにレンズを体で覆わないように注意してください。

2

❶フォーカスエリアを被写体に合わせます。
❷シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
❸そのまま、シャッターボタンを全押しするとセルフタイマーが開始されます。

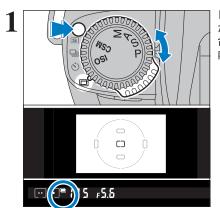
3

セルフタイマーが8秒間点滅したのち、2秒間点灯し撮影されます。

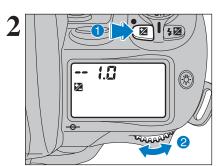
- セルフタイマー撮影は、"MENU/OK"、"FUNC"、"PLAY" ボタンなどで中止できます。
- セルフタイマーの作動時間を10秒から、2/5/20秒のいずれかに変更できます（➡110ページ）。

3 機能編 撮影

レリーズモード 多重露出

撮影した画像が重なって表現される撮影方法です。通常得られない画像を撮影できます。

1

レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを“ ”多重露出に合わせます。多重露出を設定するとファインダー内表示に“ ”が点灯します。

2

撮影状況に応じて、1“ ”露出補正ボタンを押しながら、2メインコマンドダイヤルで補正量を設定します。

◆多重露出撮影時の露出補正について◆

多重露出は同一コマ上に何度も撮影をします。そのため背景や被写体が重なり合うときは、撮影前に露出補正を設定する必要があります。

■一般的な補正量の目安

多重露出の回数	補正量のセット
2回	-- 1.0
3回	-- 1.5
4回	-- 2.0

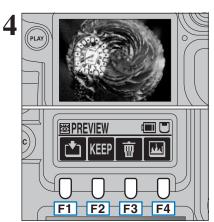
- 実際の補正量は条件によって変わりますので、テスト撮影をおすすめします。
- 背景が完全に黒く、被写体が画面内で重ならないような場合は、露出補正を行わず、各露出ごとに適正露出で撮影するのが基本です。

3

❶構図を決めピントを合わせて撮影すると、プレビュー画面が液晶モニターに表示されます。
❷"F2" ボタンを押して、次の撮影に移行します。

●撮影画像表示（SET-UP）の設定にかかわらず、必ずプレビューされます。
●多重露出の途中でレリーズモードを切り換えると、画像は記録されません。

多重露出撮影中の設定変更は、ファンクションメニューからのみ可能です。このとき最後に設定した内容が有効になります。

4

次の撮影（多重露出）を行うと、画像が重なってプレビュー表示されます。

●画像を記録するには：
"F1" ボタンまたは、"MENU/OK" ボタン
●さらに多重露出するには："F2" ボタン
●多重露出しないで撮り直すには：
もう一度シャッターをきります
●記録しないでやめるには：
"F3" ボタンまたは "BACK" ボタン
●輝度分布を確認する："F4" ボタン

PLAY
PREVIEW
KEEP
F1 F2 F3 F4

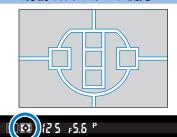
CSM 11：多重露出撮影はシャッターボタンを押すごとに1回撮影される1コマ撮影ですが、連続撮影に変更できます（➡109ページ）。このとき連写した画像が重なってプレビュー表示されます。"F1"、"F3"、"F4" ボタンを選んでください。
連続撮影では "KEEP" は選べません。

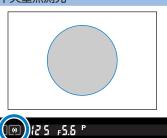
❗連続撮影で1コマだけ撮影した場合は多重露出できません。
❗内蔵ストロボを使用すると、連続撮影できません。
❗多重露出撮影時の最大連続撮影枚数については、48ページをご覧ください。

測光モード

通常はマルチパターン測光で最適な露出を得ることができます。意図的に露出値をかえて撮影(AEロックや露出補正)するときや、撮影シーン(逆光やコントラストの激しいときなど)に応じて3つの測光モードから選ぶことができます。

測光モードダイヤルを、使用する測光モードに合わせます。
ファインダー内に、選んだ測光モードの表示が点灯します。

：10分割マルチパターン測光

撮影画面を10分割し、それぞれを独立して測光した情報(最大輝度、輝度差情報)に基づいて、最適な露出値を決定します。
DタイプまたはGタイプニッコールレンズを装着したときは、画面内の最大輝度、輝度差情報に加え、カメラから被写体までの距離情報を加味して測光の精度を高めた、「3D-10分割マルチパターン測光」になります。

：中央重点測光

撮影画面の中央部(ファインダーで直径12mmの円内)を重点的に測光して露出値を決定します。

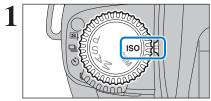
：スポット測光

フォーカスエリアの重なる部分(ファインダーで直径4mm相当、撮影画面の約2%)を測光して露出値を決定します。
測光範囲はフォーカスエリアに連動して移動します。ただし、至近優先ダイナミックAFモードでは、常に画面中央のフォーカスエリアで測光が行われます。

ISO感度

1

露出モードダイヤルを “ISO” に合わせます。

2

メインコマンドダイヤルを回して、ISO感度を設定します。

●設定できるISO感度
　100、160、200（工場出荷設定）、400、800、1600

薄暗いシーンを低感度設定でストロボを使用せずに撮影すると、画像全体の色味がずれる場合があります。

高感度撮影時（ISO400以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

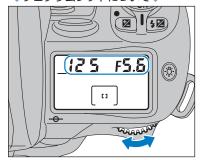
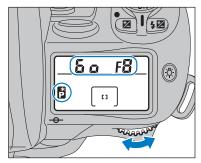
露出モード P マルチプログラムオート

撮影シーンに応じて最適露出になるように、シャッタースピード、絞り値をカメラが自動的に制御します。スナップ写真などシャッターチャンスを優先して気軽に撮影したいときに便利です。

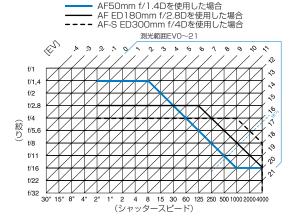
1 露出モードダイヤルを“P”に合わせます。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。以下のように対応してください。
  - HI：ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
  - Lo：ストロボを使用してください。

◆プログラムシフトについて◆

マルチプログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、マルチプログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや絞り優先オートのような使いかたができます。プログラムシフト中は表示パネルにプログラムシフトマーク P* が点灯します。
解除するには、プログラムシフトマーク P* が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源レバーを“OFF”にする、内蔵ストロボを使用する（➡68ページ）、ツーボタンリセット（➡107ページ）をするなどの操作を行ってください。

プログラム線図について

プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです（ISO100の場合）。

●ISO感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。

●マルチパターン測光では、ISO100のとき16 1/3を越えるEV値では、すべて16 1/3として制御されます。したがって高輝度の被写体を撮影すると露出オーバーとなることがあります。

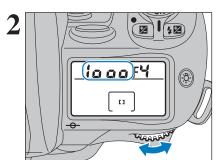
CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、**露出モード“P・S・A”では**上面表示パネルとファインダー内に“F- -”が点滅して、撮影できません。
そのときは**露出モードを“M”**にして、絞りをレンズの“絞りリング”で設定することにより、**撮影できます**。ただし、カメラの露出計は使用できません。

露出モード S シャッター優先オート

シャッタースピード（30秒～1/4000秒）を設定すると、カメラが自動的に絞りを制御するオートモードです。動きの一瞬をとらえる（高速側シャッター）、動きを表現する（低速側シャッター）など、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。

1 露出モードダイヤルを“S”に合わせます。

●露出モードの“M”マニュアルで“bulb”に設定した後、“bulb”を解除しないで“S”シャッター優先オートに合わせると、“bulb”表示が点滅してシャッターを切れません。そのときは“bulb”以外のシャッタースピードに設定して下さい。

2

メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒～1/4000秒）を設定します。

長時間露出時（約4秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

●次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。以下のように対応してください。

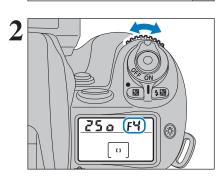
- ●HI：シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
- ●Lo：シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えないときは、ストロボを使用してください。

! シャッタースピードが低速の場合（1/8秒以上）は、シャッターが閉じたあと、ノイズ除去処理によりアクセスランプが点灯するまで数秒かかり、撮影間隔が長くなります。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、**露出モード“P・S・A”では**上面表示パネルとファインダー内に“F- -”が点滅して、**撮影できません**。
そのときは**露出モードを“M”**にして、絞りを**レンズの“絞りリング”で設定する**ことにより、**撮影できます**。ただし、カメラの露出計は使用できません。

露出モード A 絞り優先オート

絞り（最小絞り～開放絞り）を設定すると、カメラが自動的にシャッタースピードを制御するオートモードです。遠くまでピントを合わせる（最小絞り側）、背景をぼかす（開放絞り側）など、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を重視した撮影に最適です。

1 露出モードダイヤルを “A” に合わせます。

2 サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り～開放絞り）を設定します。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

●次の警告が表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合は、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。以下のように対応してください。

- ●HI：より大きい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えないときは、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
- ●Lo：より小さい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えないときは、ストロボを使用してください。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、**露出モード“P・S・A”では**上面表示パネルとファインダー内に “F- -” が点滅して、**撮影できません**。
そのときは**露出モードを“M”**にして、絞りを**レンズの“絞りリング”で設定する**ことにより、**撮影できます**。ただし、カメラの露出計は使用できません。

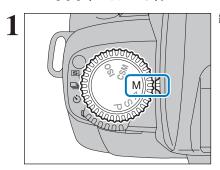
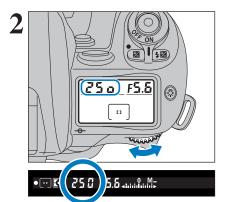
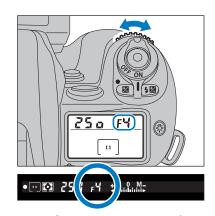
露出モード M マニュアル

シャッタースピード（“bulb”および30秒～1/4000秒）と絞り（最小絞り～開放絞り）を自由に設定できるモードです。ファインダー内の露出インジケーター表示を参考に、撮影シーンや目的に合わせた露出設定を行えます。

CSM 6：“bulb”（バルブ：長時間露出）を使用するには、カスタム設定を変更する必要があります（➡109ページ）。

1

露出モードダイヤルを“M”に合わせます。

2

露出インジケーターを確認しながら、メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（“bulb”および30秒～1/4000秒）を、サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り～開放絞り）を設定します。

- 露出補正（➡61ページ）を設定したときは、露出インジケーター表示が変わるのみで、撮影者が設定したシャッタースピード、絞り値は変わりません。

長時間露出時（約4秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

◆露出インジケーターについて◆

長時間露出（バルブ）撮影時を除いて、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値の組み合わせによる露出値と、カメラが測光した露出値との差が表示されます。
カメラの測光限界を超えると、露出インジケーターが点滅警告します。
露出インジケーターの見方は以下のとおりです。

適正露出の状態	1/2段アンダーの状態	3段以上オーバーの状態
+. . . 0 . . . –	+. . . 0 . . . –	+. . . 0 . . . –

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

CPU内蔵ニッコール以外のレンズを装着したときは、絞りを**レンズの"絞りリング"で設定する**ことにより、**撮影できます**。ただし、カメラの露出計は使用できません。また、上面表示パネルとファインダー内に "F- -" が点灯します。

bulb バルブ撮影

バルブ撮影は任意のシャッタースピードで撮影したいときに便利です。シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになりますので三脚などを使用し、カメラを安定させてから撮影して下さい。

長時間露出時（約4秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。

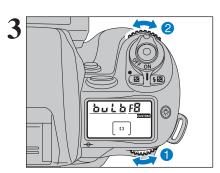
1

CSM 6："bulb"（バルブ：長時間露出）を使用するには、カスタム設定を変更する必要があります（➡109ページ）。

❶露出モードダイヤルを "CSM" に合わせます。
❷メインコマンドダイヤルで項目「6 Mモードでバルブ撮影」を選びます。
❸サブコマンドダイヤルで設定値「1：する」に設定します。

3 機能編 撮影

次ページにつづく

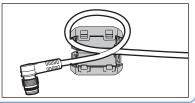
2 露出モードダイヤルを“M”に合わせます。
- ●バルブ撮影（bulb）は露出モードがマニュアル以外では使用できません。
- ●バルブ撮影では三脚の使用をおすすめします。

3 ❶メインコマンドダイヤルでシャッタースピードを“bulb”に設定し、❷サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り～開放絞り）を設定します。

4 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。
- ●シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになります。
- ●シャッターボタンを指で押し続ける代わりに、ケーブルレリーズ（別売）やリモートレリーズ（別売）を使用すると手ブレを軽減することができます。

◆リモートレリーズに対応◆

本機は10ピンのリモートレリーズを使用できます。
三脚（別売）とリモートレリーズ（別売）を使用すると手ブレを防止できます。
10ピンターミナルへの接続は、10ピンターミナルとアクセサリコードの指標を合わせて接続します。

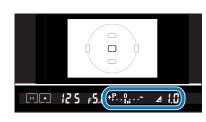
10ピンターミナルで使用可能なニコン製アクセサリ：
- ●リモートコードMC-20
- ●延長コードMC-21
- ●リモートコードMC-22
- ●リモートコードMC-30
- ●ルミコントロールセットML-3
- ●変換コードMC-25

- 使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをして下さい。ゴミなどが入ると、誤動作の原因になる場合があります。
- オートパワーオフしている場合、アクセサリからカメラを起動させることはできません（カスタムセッティングでオートパワーオフするまでの時間は設定可能です）。
- 接続コードMC-23は、使用できません。
- 手押しあるいはケーブルレリーズでの使用中に、電池が消耗すると画像が保存できません。10ピンのリモートコードを使った場合には、電池残量がなくなった時点での画像を保存します。
- リモートレリーズは、付属のクランプフィルタを付けてご使用ください（右図のように端子側でコードをひと巻きして留めてください）。

露出補正

カメラが制御する適正露出値を意図的に変えることができます。たとえば、ハイキー（全体に明るいトーン）、ローキー（全体に暗いトーン）など、作画意図に応じた露出表現をしたい場合などに使用します。測光モードは中央重点測光またはスポット測光をおすすめします。いずれの露出モードでもセットできます（ただし露出モードが“M”のときは、インジケーター表示が変わるのみで、撮影者がセットしたシャッタースピードと絞り値は変わりません）。

1

①“”露出補正ボタンを押しながら、②メインコマンドダイヤルで補正量（1/2段ステップで±3段）を設定します。

- 補正量をセットすると、上面表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク“”が点灯します。補正量は露出補正ボタンを押すと確認できます。さらに、ファインダー内表示の露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示されます。その際、露出インジケーターの“0”が点滅します。
- 補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。
- ストロボの光量のみを補正するストロボ調光補正については71ページをご覧ください。

＜露出補正インジケーターの表示例＞

－0.5段補正

＋2段補正

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 露出補正を解除する場合は、補正量を“0.0”にセットするか、ツーボタンリセット（➡107ページ）を行ってください（電源レバーを“OFF”にしても解除されません）。

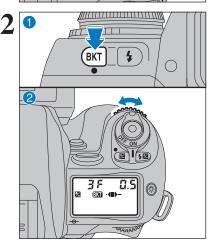
BKT オートブラケティング（自動段階露出）

同じ画像を露出を変えて撮影したいときに使用します。カメラが表示する適正露出値（露出モード“M”のときは設定した値）を基準に、自動的に露出を設定値（露出補正なしで最大±2段）きざみでずらした撮影が行えます。

1

❶“BKT”オートブラケティングボタンを押しながら、❷メインコマンドダイヤルで上面表示パネルに“BKT”を点灯させます。

●オートブラケティング使用中は“±”が点滅を続け、オートブラケティング撮影中であることを示します。

2

❶“BKT”オートブラケティングボタンを押しながら、❷サブコマンドダイヤルで撮影枚数（最大3枚）と補正量（1/2段ステップで±2段）を設定します。

撮影可能枚数を確認のうえ撮影枚数を設定してください。

■撮影枚数と補正量の組み合わせ一覧表

撮影枚数と補正ステップ	ブラケティングバーグラフ	撮影順序
3F 0.5	+◀▮▶−	0／−0.5／+0.5
3F 1.0	+◀▮▶−	0／−1.0／+1.0
3F 1.5	+◀▮▶−	0／−1.5／+1.5
3F 2.0	+◀▮▶−	0／−2.0／+2.0
+2F 0.5	+◀▮	0／+0.5
+2F 1.0	+◀▮	0／+1.0
+2F 1.5	+◀▮	0／+1.5
+2F 2.0	+◀▮	0／+2.0
--2F 0.5	▮▶−	0／−0.5
--2F 1.0	▮▶−	0／−1.0
--2F 1.5	▮▶−	0／−1.5
--2F 2.0	▮▶−	0／−2.0

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。撮影するごとに上面表示パネルに撮影状況がブラケティングバーグラフに示されます。

- 3枚撮影するときの撮影状況は、開始前 " +◀■▶- "、1枚撮影後 " +◀ ▶- "、2枚撮影後 " +◀ "、と撮影の終わった露出が消えます。
- レリーズモードが " ▭ " 連写のときにシャッターボタンを押し続けると、設定した枚数の撮影が終わると自動的に停止します。ただし内蔵ストロボを使用すると1コマずつの撮影になります。
- オートブラケティングと露出補正（➡61ページ）や調光補正（➡71ページ）が同時にセットされている場合、両方の補正値が加算されたオートブラケティング撮影が行えます。±2段を超えるオートブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- 解除するには、"BKT" オートブラケティングボタンを押しながらメインコマンドダイヤルで上面表示パネルのブラケティング表示 "BKT" を消灯させるか、またはツーボタンリセット（➡107ページ）を行います。メインコマンドダイヤルで解除し、再度オートブラケティングをセットする場合は、前回セットした撮影枚数と補正ステップは保持されます。ツーボタンリセットで解除し、再度オートブラケティングをセットする場合は、撮影枚数と補正ステップは「3F　0.5」に自動的にリセットされます。

CSM 1：マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます（➡109ページ）。

! スルー画を表示した場合、オートブラケティングの設定が解除されます。オートブラケティングの設定は、スルー画表示終了後に設定してください。

ストロボ撮影

ストロボ撮影の設定について

ストロボ撮影の設定で、直接指定できる項目には、

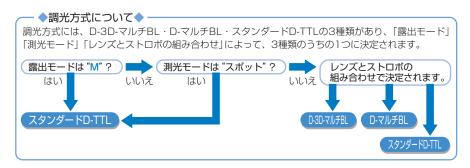
シンクロモード（発光のタイミングとシャッタースピード）
ストロボ調光補正（発光量の調整）

があります。
その他の項目として、

ストロボ調光方式（測光して発光量を決めるまでの方式）
撮影可能距離（ストロボ光の届く範囲）

があります。
ストロボ撮影の基本的な設定については、65ページ～71ページで説明します。必要に応じて「使用可能なニコン製ストロボについて」もご参照ください（➡72ページ）。

◆調光方式について◆

調光方式には、D-3D-マルチBL・D-マルチBL・スタンダードD-TTLの3種類があり、「露出モード」「測光モード」「レンズとストロボの組み合わせ」によって、3種類のうちの1つに決定されます。

◆ストロボ撮影可能距離を長くするには◆

項　目	対　処
レンズの明るさ	明るいものを使う
ガイドナンバー	大きいものを使う
絞り	開く
ISO感度	高くする

ストロボ撮影 内蔵ストロボについて

このカメラは20mmレンズの画角をカバーする、ガイドナンバー12(ISO100・m)のストロボを内蔵しており、モニター発光を行う専用TTLモード(D-TTLモード)によって制御され、D-3D-マルチBL調光やD-マルチBL調光による自然な感じのストロボ写真が撮影できます。暗いところではもちろん、昼間の屋外撮影などでも、逆光の場合や主要被写体の陰影を弱めたいとき、人物の目にキャッチライトを入れたいときなどに、補助光としても使用できます。また、通常のストロボ撮影の先幕シンクロに加え、スローシンクロ、後幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロと5つのシンクロモードを備えています。

■内蔵ストロボで利用できる調光方式

装着するレンズ	調光方式
DタイプまたはGタイプニッコールレンズ	D-3D-マルチBL調光※1
DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵 ニッコールレンズ(F3AF用を除く)	D-マルチBL調光※1
すべてのニッコールレンズ	スタンダードD-TTL調光

※1 露出モードを"M"にセットするか、測光モードをスポット測光にセットするとスタンダードD-TTL調光となります。

D-3D-マルチBL調光

DタイプまたはGタイプニッコールレンズ装着時に可能です。マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL(バランス)調光を行います。
シャッターボタンを押すと、ストロボがシャッター開口直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時にモニターし、さらにレンズから得られた被写体までのレンズ情報も加味して、主被写体と、背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。

- 測光モードをスポット測光、もしくは露出モードを"M"にすると、内蔵ストロボはスタンダードD-TTL調光になります。

D-マルチBL調光

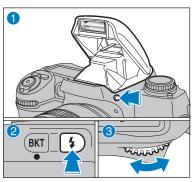
DタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズを装着すると、D-3D-マルチBL調光のレンズからの距離情報が省略された、D-マルチBL調光になります。

D-3D-マルチBL調光とD-マルチBL調光を総称してD-マルチエリアBL調光と呼びます。

スタンダードD-TTL調光

ニッコールレンズの種類に関係なく使用可能です。背景の明るさは考慮されず、主要被写体が適正露出となるように調光されます。主要被写体を強調する場合や、調光補正を行うときに適しています。

ストロボ撮影 シンクロモードの種類と特長

5つのシンクロモードから、撮影目的や意図に合わせて希望するシンクロモードを選びます。

❶ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。
❷“⚡”シンクロモードボタンを押しながら、
❸メインコマンドダイヤルでシンクロモードを選びます。
上面表示パネルのアイコン表示は、次のように変わります。

ストロボを使用しないときは、電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください。

露出モードとシンクロモードの組み合わせによっては、選択した後に、シンクロモードが自動的に切り換わる場合があります。

露出モード	シンクロモード	選択中の表示	選択後の表示	動　作
P・A	後幕シンクロ	REAR	SLOW REAR	自動的にスローシンクロがセットされます。
S・M	赤目軽減スローシンクロ	SLOW		スローシンクロは解除されます（シャッタースピードは変更されません）。
	スローシンクロ	SLOW		

先幕シンクロモード

すべての露出モードで使用できます。
通常のストロボ撮影ではこのモードにセットします。

SLOW スローシンクロモード

露出モード“P・A”で使用できます。
スローシャッターとなるので、背景を描写しながらストロボを発光させ、夕景や夜景の雰囲気を生かした撮影ができます。

REAR 後幕シンクロモード

すべての露出モードで使用できます。露出モード"P・A"では、スローシャッターとなります。シャッターが閉じる直前にストロボを発光させます。被写体の動きを想像させる光の流れなどを自然な形で表現できます。

- スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

赤目軽減モード

すべての露出モードで使用できます。
ストロボが発光する前に約1秒間ランププリ照射を行い、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減します。

SLOW 赤目軽減スローシンクロモード

露出モード"P・A"で使用できます。
スローシャッターの赤目軽減モードになります。

- ニコン製ストロボSB-80DX、28/28DX、27、26使用時は外部ストロボ側の赤目軽減ランプが発光します。
- シャッターが切れるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください。
- 装着するレンズの種類によっては、赤目軽減ランプの光が人物に届かないため、赤目軽減効果が損なわれることがあります。

■シャッタースピードについて

同調シャッタースピードは1/180秒です。
設定できるシャッタースピードは、シンクロモードと露出モードの組み合わせで次のように変わります。

露出モード / シンクロモード	P/A	S	M
先幕シンクロ	1/180秒～1/60秒 (カメラが自動的にセット＊1)	1/180秒～30秒	1/180秒～30秒 bulb
SLOW スローシンクロ	1/180秒～30秒 (カメラが自動的にセット＊2)	—	—
REAR 後幕シンクロ	自動的にスローシンクロになります。 1/180秒～30秒 (カメラが自動的にセット＊1＊2)	1/180秒～30秒	1/180秒～30秒 bulb
赤目軽減	1/180秒～1/60秒 (カメラが自動的にセット)	1/180秒～30秒	1/180秒～30秒 bulb
SLOW 赤目軽減スローシンクロ	1/180秒～30秒 (カメラが自動的にセット＊2)	—	—

＊1 ニコン製ストロボSB-26、25、24使用時は外部ストロボのシンクロセレクターで、シャッタースピードをセットします。
＊2 スローシャッターになりますので、手ブレ防止のため三脚の使用をおすすめします。

ストロボ撮影 内蔵ストロボを使用した撮影

ここでは、内蔵ストロボを使用し、カメラにDタイプまたはGタイプAFニッコールレンズを装着して行う撮影の方法をご説明します。

1

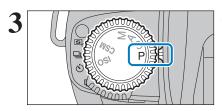
測光モードダイヤルを“ ”マルチパターン測光または“ ”中央重点測光にセットします。

“●”スポット測光に合わせると、調光方式は“スタンダードD-TTL調光”になります。

2

❶ストロボポップアップボタンを押して、ストロボをポップアップします。
❷“ ”シンクロモードボタンを押しながら、
❸メインコマンドダイヤルでシンクロモードを選びます。

ストロボを使用しないときは、電池の消耗を防ぐため、常に収納状態にしてください。

3

露出モードをセットし、シャッタースピードと絞りを確認します。

4

ファインダー内表示に“ ”レディライトが点灯していることを確認します。

ストロボ撮影を連続して行うと“ ”レディライトが点灯するまで時間がかかることがあります。

“ ”レディライトが点灯しないとシャッターは切れません。

5 構図・ピント・ストロボ撮影可能距離を考慮して撮影します。

シャッターを切った後“ ”レディライトが約3秒間点滅した場合は、ストロボがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。画像を再生して確認し、撮影し直す場合は撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

被写体が暗い場合は、自動的にAF補助光を照射してピント合わせを行います。詳細については36ページをご覧ください。

ストロボ撮影時は、レリーズモードが連写にセットされていても、連続撮影にはなりません。

内蔵ストロボ充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。

露出モード	シャッタースピード	絞り	調光方式
P	同調シャッタースピード：1/180秒 詳細は67ページをご参照ください	カメラが自動的にセット	D-3D-マルチBL調光
S			
A		任意の絞り	
M			スタンダードD-TTL調光

＊同調スピード（1/180秒）より速いシャッタースピードは設定できません。ファインダー内表示に“180”が点灯し、表示パネルにセットしたシャッタースピードが点滅しているとき、実際のシャッタースピードは1/180秒になります。
＊撮影距離はISO感度と絞りによって決まります。露出モードが“A・M”のときは下表を参考にしてください。
＊露出モードが“P”のときは、カメラが自動設定する開放側の限界絞り値は使用するISO感度により異なります。73ページをご覧ください。

ISO感度	100	160	200	400	800	1600
開放側の限界絞り（内蔵ストロボ）	2.8	3.3	3.3	4	4.8	5.6

■内蔵ストロボの調光範囲について

ストロボは使用するISO感度と絞りによって調光範囲（光の届く範囲）が異なります。
下表を参考にしてください。

撮像感度（ISO）および絞り値						調光範囲
100	160	200	400	800	1600	
1.4	1.8	2	2.8	4	5.6	2~8.5m
2	2.5	2.8	4	5.6	8	1.4~6m
2.8	3.5	4	5.6	8	11	1~4.2m
4	5	5.6	8	11	16	0.7~3m
5.6	7.1	8	11	16	22	0.6~2.1m
8	10	11	16	22	32	0.6~1.5m
11	14	16	22	32	–	0.6~1.1m
16	20	22	32	–	–	0.6~0.8m

＊内蔵ストロボで調光できる最短撮影距離は0.6mです。

ストロボ撮影 内蔵ストロボに使用可能なレンズについて

■内蔵ストロボに使用可能なレンズについて

●内蔵ストロボには、20mmから300mmまでのCPU内蔵ニッコールレンズが使用できます。
●ケラレを防止するためレンズフードは取り外して使用してください。
●撮影距離0.6m未満では使用できません。
●マクロ付きズームレンズは、マクロ領域では使用できません。
●下記のズームレンズではケラレが発生し、写真の周辺光量が低下しますので、使用できる焦点距離や撮影距離に制限があります。

制限のあるAFズームレンズ	注意していただきたいこと
AF-S ED 17～35mm f/2.8	焦点距離24mmの撮影距離0.8m以上で使用可能
AF 20～35mm f/2.8	焦点距離20mmの撮影距離1m以上で使用可能
AF ED 28～70mm f/2.8	焦点距離28mmの撮影距離2m以上、焦点距離35mmの撮影距離0.7m以上で使用可能

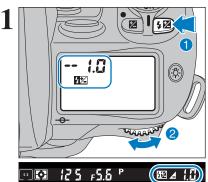
※内蔵ストロボ撮影時に使えるCPU内蔵ニッコール以外のレンズは、焦点距離が20mmから200mmまでのニッコール（Ai-S,Ai,改造Ai）、ニコンレンズシリーズEが使用できます。ただし以下のレンズは使用に制限があります。Ai改 50～300mm f/4.5（200mmで使用可能）、Ai 50～300mm f/4.5（200mmで使用可能）、Ai改 85～250mm f/4（135mm以上で使用可能）、Ai ED 50～300mm f/4.5（135mm以上で使用可能）、Ai-S ED 50～300mm f/4.5（135mm以上で使用可能）

■内蔵ストロボ使用時のご注意

●内蔵ストロボ撮影時は、レリーズモードが“ ”連写にセットされても、連写になりません。
●内蔵ストロボの充電中は、VRレンズのシャッターボタン半押し中の手ブレ補正を行いません。

ストロボ撮影 ストロボ調光補正

ストロボ調光補正とは、ストロボとカメラが行う適正な調光を意図的に変えることをいいます。たとえば、発光量をより多くして主要被写体を一段と明るく照らしたいとき、あるいは発光量をより少なくして、主要被写体に光が強く当たり過ぎないようにしたいときに使用します。

1

❶“ ”ストロボ調光補正ボタンを押しながら、❷メインコマンドダイヤルで補正量をセットします。

上面表示パネルとファインダー内表示に“ ”が点灯します。

補正範囲：−3段〜+1段、1/2段ステップ

補正の目安：被写体に対して、背景が明るい場合は+側に、背景が暗い場合は−側に補正します。

2 以降の手順は、通常のストロボ撮影と同じです（➡68ページ）。

補正量を確認するには

“ ”ストロボ調光補正ボタンを押します。

■ストロボ調光補正量の表示例

補正量	上面表示パネル	ファインダー内表示
“0.0”	0.0	0.0
“+0.5”	+ 0.5	0.5
“−0.5”	-- 0.5	0.5

調光補正を解除するには

●補正量を“0.0”に戻します。

電源を切っても、ストロボ調光補正は解除されません。

3 機能編 撮影

ストロボ撮影 使用可能なニコン製ストロボについて

このカメラには、次のニコン製ストロボが使用できます。装着レンズ欄の①はDタイプまたはGタイプニッコールレンズ（IXニッコールを除く）、②はDタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（F3AF用を除く）、③はCPU内蔵ニッコール以外のレンズを示します。

ストロボ	装着レンズ	D-TTL			AA	A	M		REAR	
		D-3D-マルチBL調光	D-マルチBL調光	スタンダードD-TTL調光	絞り連動自動調光	外部自動調光	マニュアル	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	赤目軽減発光
SB-28DX SB-80DX SB-800	①	○ ※1		○ ※2	○		○	○	○	○
	②		○ ※1	○ ※2	○		○	○	○	○
	③			○		○	○	○	○	○
SB-50DX	①	○ ※1		○ ※2			○		○	
	②		○ ※1	○ ※2			○		○	
	③			○			○		○	
SB-600	①	○ ※1		○ ※2			○		○	○
	②		○ ※1	○ ※2			○		○	○
	③			○			○		○	○

次のニコン製ストロボを使用する場合、外部自動調光（A）あるいはマニュアル発光撮影となります。TTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影できません。装着レンズ欄の①はDタイプまたはGタイプニッコールレンズ（IXニッコールを除く）、②はDタイプおよびGタイプ以外のCPU内蔵ニッコールレンズ（F3AF用を除く）、③はCPU内蔵ニッコール以外のレンズを示します。

ストロボ	装着レンズ	A	M		REAR	
		外部自動調光	マニュアル	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	赤目軽減発光
SB-28 SB-26 ※3	①	○	○	○	○	○
	②	○	○	○	○	○
	③	○	○	○	○	○
SB-27 ※4	①	○	○		○	○
	②	○	○		○	○
	③	○	○		○	○
SB-25 SB-24	①	○	○	○	○	
	②	○	○	○	○	
	③	○	○	○	○	
SB-23 ※5 SB-29 ※6、※5 SB-21B ※6、※5 SB-29s ※6、※5	①		○		○	
	②		○		○	
	③		○		○	
SB-30 SB-22s SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	①	○	○		○	
	②	○	○		○	
	③	○	○		○	
SB-11 ※7 SB-14 ※7	①	○	○		○	
	②	○	○		○	
	③	○	○		○	

※1：測光モードをスポット測光以外にセットしてください。
※2：測光モードをスポット測光にしてください。
※3：SB-26はスレーブ発光が行えます。ワイヤレススレーブセレクターをDにした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/180秒より低速側に切り換わります。
※4：SB-27を組み合わせると自動的にTTLモードにセットされますが、TTLモードでは使用できませんので、SB-27を強制Aモードへセットし直してください。
※5：マニュアル発光撮影のみのため、おすすめしません。
※6：SB-29s/29、SB-21B使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm・70〜180mm）レンズ装着時のみ可能です。
※7：SB-11・14を使用して、AモードまたはMモードを使用する場合、SC-13にSU-2を併用して、それぞれ接続します。SB-11・14とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合、カメラのファインダー内表示のレディライトは使用できません。また、シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

■ニコン製ストロボ使用時の注意

- 詳細はご使用になる各ストロボの使用説明書をご覧ください。
  D-TTLが可能な別売ニコン製ストロボの使用説明書にカメラ分類表が記載されている場合は、デジタル一眼レフに該当する箇所をお読みください。
- ストロボ使用時の同調シャッタースピードは1/180秒以下の低速シャッタースピードです。
- D-TTLモード時の撮像感度連動範囲は、ISO100〜1600です。

- SB-26・25・24使用時、後幕シンクロモードの設定はストロボ側の設定が優先されます（ただし、カメラ側が「赤目軽減モード」または「赤目軽減スローシンクロモード」時を除きます）。
- カメラのシンクロモードを「赤目軽減モード」または「赤目軽減スローシンクロモード」にセットし、赤目軽減発光機能を持つニコン製外部ストロボを使用すると、外部ストロボ側の赤目軽減ランプが発光します。
- フォーカスモードがAF-SでAFニッコールレンズを装着し、被写体が暗く、フォーカスエリアが中央に選択された状態か、または至近優先ダイナミックAF時以外は、アクティブ補助光を備えた別売りストロボを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。
- パワーブラケットSK-6とSB-24の組み合わせでは、ストロボ側のアクティブ補助光も、カメラ側のAF補助光も発光しません。
- 露出モードが“P”マルチプログラムオートのとき、カメラが自動設定する開放側の限界絞りは、使用するISO感度によって下表のように制御されます。

ISO感度	100	160	200	400	800	1600
開放側の限界絞り（別売りストロボ）	4	4.8	4.8	5.6	6.7	8

※制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます。

- D-TTLモード時に、調光コードSC-17を使用してカメラからストロボを離して撮影する場合、スタンダードD-TTL調光以外のD-TTLモードでは、適正露出を得られない場合があります。この場合はスタンダードD-TTL調光に切換えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- D-TTLモード時に、発光面に内蔵パネル以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露出とならない場合があります。
- D-TTLモード時には、TTL増灯撮影ができません。

◆ニコン製以外のストロボについて◆

ニコン製以外のストロボ（カメラのX接点に40V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびストロボのシンクロ回路を破損することがあります。

■アクセサリーシュー（カバー付き）への取り付け方

ニコン製ストロボSB-80DX・800・600・50DX・27・23・22s・29sなどを使用する場合は、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。
このカメラのアクセサリーシューはセーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのニコン製ストロボ（SB-80DX・27など）を取り付けると、ストロボが不用意に外れるのを防止できます。

! 外部ストロボを使用しないときは、必ずアクセサリーシューカバーを取り付けてください。

■シンクロターミナル（キャップ付き）

シンクロコードを必要とする外部ストロボ撮影時に、シンクロコードをシンクロコードターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。

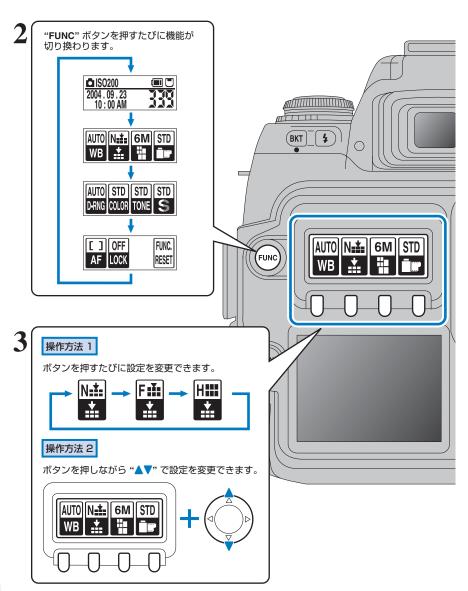
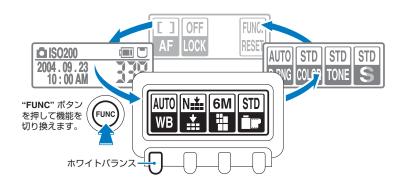
! シンクロターミナルを使用しないときは、必ずキャップを取り付けてください。

撮影時のファンクションメニューの操作

保存する画像の画質（ホワイトバランス、クオリティー、ピクセル、フィルムシミュレーション、ダイナミックレンジ、カラー、トーン、シャープネス）と、AFエリアの設定を変更できます。

1 電源を入れ撮影モードにします。オートパワーオフした場合は、シャッターボタンを半押しして電源を入れます。

2

3

ホワイトバランス

ホワイトバランス

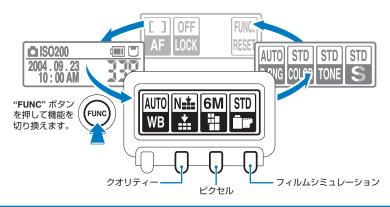
撮影時の環境・照明光に合わせ、ホワイトバランスを固定して撮影を行いたい場合に設定を変更します。
AUTO時は、人物の顔アップなどの被写体や特殊な光源下では、正しいホワイトバランスが得られない場合があります。その場合は光源に合わせたホワイトバランスを選択してください。

●工場出荷設定：AUTO WB オート

表　示	モード	説　明
AUTO WB	オート	その場の光量や色情報を自動的に判断し、自然なホワイトバランスで撮影できます。
CUS.1 WB	カスタム1	撮影者がセットアップメニューで設定（➡102ページ）したホワイトバランスになります。
CUS.2 WB	カスタム2	
☀ WB	晴れ	晴れた日の屋外など、太陽を光源とする撮影のときに設定します。
WB	日陰	日陰や曇った日の撮影のときに設定します。
1 WB	蛍光灯1	光源が昼光色蛍光灯のときに設定します。
2 WB	蛍光灯2	光源が昼白色蛍光灯のときに設定します。
3 WB	蛍光灯3	光源が白色蛍光灯のときに設定します。
WB	電球	光源が電球や白熱灯のときに設定します。

●ストロボ発光時のホワイトバランス（カスタムホワイトバランスを除く）は、ストロボ用の設定になりますので、意図した撮影の場合ストロボを発光禁止にしてください。

撮影ファンクションメニュー

クオリティー、ピクセル、フィルムシミュレーション

クオリティー

撮影する画質を設定します。撮影目的に合わせた設定をしてください。
画質を優先する場合は “FINE” を、CCD-RAWで撮影する場合は “HIGH” を選んでください。
通常は “NORMAL” で十分な画質が得られます。

●工場出荷設定： NORMAL（ノーマル）

表　示	名　称	説　明
N	NORMAL ノーマル	記録できる画像の枚数は最も多くなります。
F	FINE ファイン	HIGHについで高い画質で記録します。記録できる画像の枚数はHIGHよりも多くなります。
H	HIGH ハイ	CCD-RAW（➡138ページ）：カメラで画像処理を行わず、パソコンで画像処理を施すときに設定します。

◆CCD-RAWで撮影するには...◆

CCD-RAW画像は、カメラで画像処理を行わないため必ずパソコンで付属のソフトウェアまたは、別売のハイパーユーティリティーソフト HS-V2（➡121ページ）を使って画像処理を行う必要があります。

●CCD-RAW撮影を行なうにはクオリティーを “HIGH” に設定します。自動的にピクセル設定が “RAW” になり変更できなくなります。

AUTO WB　H　RAW　STD

CCD-RAW画像は再生時のコマNo.が反転します。

ピクセル

撮影する画像サイズを設定します。

●工場出荷設定：6M 3024×2016

表　示	名　称	説　明
1M	1M	画像サイズを1440×960ピクセル（約138万画素）に設定します。 記録できる画像の枚数は最も多くなります。
3M	3M	画像サイズを2304×1536ピクセル（約354万画素）に設定します。
6M	6M	画像サイズを3024×2016ピクセル（約610万画素）に設定します。
12M	12M	画像サイズを4256×2848ピクセル（約1210万画素）に設定します。 記録できる画像枚数は最も少なくなります。

●クオリティーが“HIGH”に設定されているとピクセルの設定はできません。

プリント時の画像サイズの目安

名　称	説　明
1M	Lサイズ程度でプリントする場合。
3M	2L、HV、A5サイズ程度でプリントする場合。
6M	六切、四切、A4サイズ程度でプリントする場合。
12M	半切、A3サイズ程度でプリントする場合。

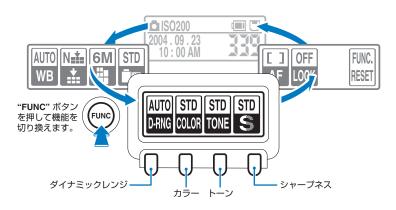
フィルムシミュレーション

撮影する画像の画作りを設定します。

●工場出荷設定：STD スタンダード

表　示	名　称	説　明
STD	STANDARD スタンダード	人物、風景など幅広い被写体に適した標準的な画作りのモードです。
F1	STUDIO PORTRAIT スタジオポートレート	ストロボ撮影時のハイライトのトビを抑え、さらに肌色再現の階調のつながりを重視し、プロネガ調をイメージしたスタジオでのポートレート撮影に適したモードです。
F2	FUJICHROME フジクローム	空の青さなどをリバーサルフィルムのように色鮮やかに再現する風景写真、自然写真に適したモードです。

●SET-UPのD-レンジが“ワイド”でカラースペースが“sRGB”に設定されていないと変更できません。

ダイナミックレンジ、カラー、トーン、シャープネス

ダイナミックレンジ

撮影する画像のダイナミックレンジを設定します。

●工場出荷設定：AUTO D-RNG AUTO

表　示	名　称	説　明
AUTO D-RNG	AUTO オート	カメラが撮影シーンに応じて自動的にダイナミックレンジを100%～400%に可変させて撮影します。コントラストの強いシーンでは、白トビ、黒つぶれを抑え、広いダイナミックレンジを必要としない曇天や室内での撮影でもコントラストのある画像が得られます。
WIDE1 D-RNG	WIDE1 ワイド1	どのような撮影シーンでも、ダイナミックレンジを230%にして撮影します。
WIDE2 D-RNG	WIDE2 ワイド2	どのような撮影シーンでも、ダイナミックレンジを400%にして撮影します。

●SET-UPのD-レンジが "ワイド" に設定されていないと変更できません。

カラー

画像を撮影するときの、色の濃さを設定します。

●工場出荷設定：STD COLOR STANDARD（スタンダード）

表　示	名　称	説　明
STD COLOR	STANDARD スタンダード	色の濃さを標準に設定します。
HIGH COLOR	HIGH ハイ	色の濃さを標準よりも濃くするときに設定します。
ORG COLOR	ORIGINAL オリジナル	色の濃さを標準よりも薄くするときに設定します。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。
B/W COLOR	BLACK & WHITE ブラックアンドホワイト	撮影した画像の色を黒白にするときに設定します。

●画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は［オリジナル］は選択しないでください。

トーン（階調）

画像を撮影するときの、コントラストについて設定します。

●工場出荷設定：STD TONE STANDARD（スタンダード）

表　示	名　称	説　明
STD TONE	STANDARD スタンダード	撮影された画像のコントラストを標準に設定します。
HARD TONE	HARD ハード	画像のコントラストを標準より強くし、メリハリのある画像にするときに設定します。
ORG TONE	ORIGINAL オリジナル	標準よりもコントラストを低く設定します。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

●画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は［オリジナル］は選択しないでください。

シャープネス

輪郭をソフトにしたり強調したり、撮影画質を調整するときに使用します。

●工場出荷設定：STD S STANDARD（スタンダード）

表　示	名　称	説　明
STD S	STANDARD スタンダード	通常の撮影に最適なシャープネス処理をします。
HARD S	HARD ハード	輪郭を強調します。建物、文字などを鮮明にしたい撮影に最適です。
OFF S	OFF オフ	シャープネス処理をかけていません。 商業印刷向けで画像加工を前提にしたときに適しています。

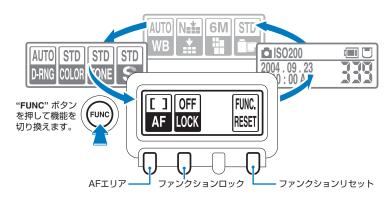
●画像データをそのまま観賞、またはプリントする場合は［OFF］は選択しないでください。

◆ダイナミックレンジ、カラー、トーン、シャープネスを変更できない◆

フィルムシミュレーション（➡77ページ）が“F1”または“F2”に設定されていると変更できません。フィルムシミュレーションをSTDに設定してください。

3 機能編 撮影

撮影ファンクションメニュー

AFエリア、ファンクションロック、ファンクションリセット

AFエリア

オートフォーカスで、選択したフォーカスエリアでピント合わせを行うシングルエリアAFモード、複数のフォーカスエリアを活用してピント合わせを行うダイナミックAFモードの切り換えができます。AFエリアモードの詳しい内容は、45ページをご参照ください。

●工場出荷設定：[ ] AF シングルエリアAF

表　示	名　称	フォーカスエリア	ファインダー内表示・上面パネルの表示	説　明
[ ] AF	シングルエリアAF			動きの少ない被写体に対して、正確なピント合わせを行いたい場合などに便利です。
[+] AF	ダイナミックAF	または	または	動いている被写体を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。

ファンクションロック

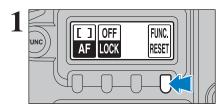
ファンクションメニューの設定を変更できないようにロックできます（誤操作防止）。

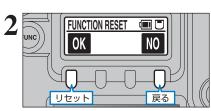
●工場出荷設定：OFF LOCK OFF

表　示	名　称	説　明	
OFF LOCK	OFF オフ	ファンクションロックは解除されています。	[ ] AF / OFF LOCK / FUNC. RESET
ON LOCK	ON オン	ファンクションロックは設定されています。この状態では設定を変更できません。設定を変更するには、“F2” ボタンを押してファンクションロックを解除します。	[ ] AF / ON LOCK / FUNC. RESET

ファンクションリセット

撮影ファンクションメニューを工場出荷設定にリセットできます。

1

“F4” ボタンを押して、リセット確認画面を表示します。

2

リセット確認画面では次の操作ができます。

リセット：“OK”（“F1” ボタン）
戻る　　：“NO”（“F4” ボタン）

再生ファンクションメニュー

再生時のファンクションメニューの操作

表示されている画像の操作（ヒストグラム表示、消去、プロテクト）やマルチ再生と1コマ再生の切り換えが行えます。

1 電源を入れ **“PLAY”** ボタンを押して再生モードにします。オートパワーオフしているときは、シャッターボタンを半押しすると、電源が入ります。

2 **“FUNC”** ボタンを押すたびに機能が切り換わります。

3

ヒストグラム

ボタンを押すたびにヒストグラム表示を切り換えます。

1コマ消去

画像を消します。

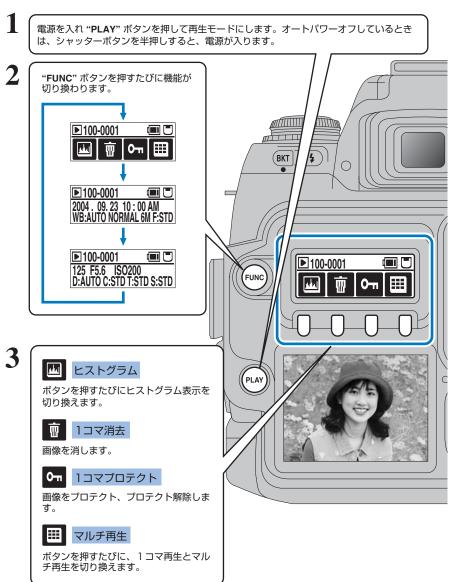
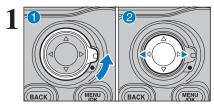
1コマプロテクト

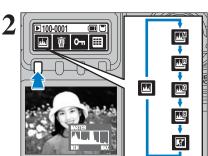
画像をプロテクト、プロテクト解除します。

マルチ再生

ボタンを押すたびに、1コマ再生とマルチ再生を切り換えます。

ヒストグラム

1

❶十字ボタンのロックを解除し、❷“◀▶”でヒストグラムを表示するコマを選びます。

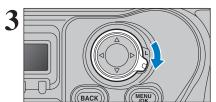
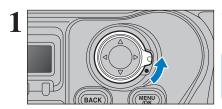
2

“F1”ボタンを押すたびに、ヒストグラム表示が切り換わります。
ヒストグラムは、プレビュー画像と再生画像に対して、下記の5パターンを表示できます。

- ：画像の輝度のヒストグラムを表示します。
- ：画像の赤色のヒストグラムを表示します。
- ：画像の緑色のヒストグラムを表示します。
- ：画像の青色のヒストグラムを表示します。
- ：白トビの箇所を黒く点滅して表示します。（高輝度警告表示）

高輝度警告：露出オーバーして、白トビした箇所を黒く点滅して表示します。

- ❗高輝度警告は、再生時と撮影画像確認時とで表示が異なる場合があります。
- ❗背面表示パネルに“ ”が表示されない場合は、“FUNC”ボタンを押して、画面を切り換えてください。
- ❗ヒストグラムとは画像の明るさの分布をグラフに表したものです。

■ヒストグラム表示について

表　示	モード	平均的な分布	右に偏り	左に偏り
		ピクセル　明るさ　シャドー　ハイライト		
	MASTER 輝度	適正露出	露出オーバー	露出アンダー

3

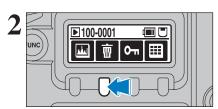
操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

1コマ消去

1

十字ボタンのロックを解除します。

誤ってコマ（ファイル）を消去すると、元に戻せません。ご注意ください。消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

2

“F2” ボタンを押して消去確認画面を表示します。

! 背面表示パネルに“ ”が表示されない場合は、“FUNC” ボタンを押して、画面を切り換えてください。

! 表示中のコマがプロテクトされていると、“ ”ではなく、“ ”が表示され液晶モニター右上に“ ”が表示されます。

3

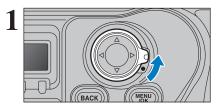
消去確認画面では次の操作ができます。

コマを選ぶ：“◀▶”

表示中のコマを消去する：“OK”（“F4” ボタン）

1コマ再生に戻る：“NO”（“F1” ボタン）または“BACK” ボタン

! “プロテクトされています”が表示されたコマは、プロテクトされています。そのコマのプロテクトを解除してから、消去してください。

“予約があります”が表示された場合、ファイルを消去するには“OK”（“F4” ボタン）を押します。

4

操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

1コマプロテクト

1

十字ボタンのロックを解除します。

プロテクトとは、コマ(ファイル)を誤って消去しないように設定することです。ただし“フォーマット”するとすべての画像が消去されます(➡104ページ)。

2

“F3”ボタンを押して、プロテクト画面を表示します。

背面表示パネルに“ ”が表示されない場合は、“FUNC”ボタンを押して、画面を切り換えてください。

表示中のコマがプロテクトされていると、“ ”ではなく、“ ”が表示されます。

3

プロテクト画面では次の操作ができます。
コマを選ぶ：“◀▶”
プロテクトする：“ON”(“F1”ボタン)
プロテクトを解除する：“OFF”(“F4”ボタン)
1コマ再生に戻る：“BACK”ボタン

■プロテクトを確認するには

	液晶モニター	背面表示パネル(プロテクト画面)	背面表示パネル(1コマ再生中)
プロテクトされている	[鍵アイコン]	100-0001 √ON OFF	100-0001 ON
プロテクトされていない	表示なし	100-0001 ON √OFF	100-0001

4

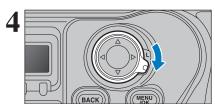
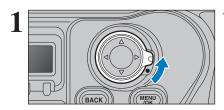
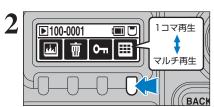
操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

4 機能編 再生

マルチ再生

1

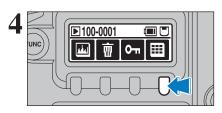
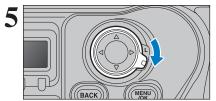
十字ボタンのロックを解除します。

2

“F4” ボタンを押します。

背面表示パネルに “▦” が表示されない場合は、“FUNC” ボタンを押して、画面を切り換えてください。

3

“▲▼◀▶” でカーソル（橙色の枠）を動かして、コマを選べます。数回 “▲” か “▼” を押すと次のページに切り換わります。

4

もう一度 “F4” ボタンを押すと、選んだ画像を大きく表示することができます。

5

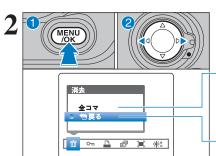
操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

再生メニュー 🗑 消去（全コマ）

1

❶“PLAY” ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。

誤ってコマ（ファイル）を消去すると、元に戻せません。ご注意ください。消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

2

❶“MENU/OK” ボタンを押してメニューを表示します。
❷“◀▶” で “🗑” 消去を選びます。

全コマ

プロテクトされていないすべてのコマ（ファイル）を消去します。消去したくない重要なコマ（ファイル）は、パソコンなどにコピーしてください。

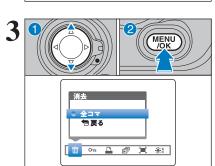
戻る

消去せずに再生に戻ります。

3

❶“▲▼” で “全コマ” を選びます。
❷“MENU/OK” ボタンを押します。

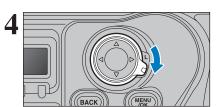
4 機能編 再生

次ページにつづく

全コマ

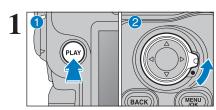
“MENU/OK” ボタンを押すとすべてのコマ（ファイル）を消去します。

プロテクトされたコマ（ファイル）は消去できません。プロテクトを解除してから消去してください（➡85ページ）。

“ 予約があります ” が表示された場合、コマ（ファイル）を消去するには “MENU/OK” ボタンをもう一度押します。

4

操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

◆操作を途中でやめたいときは◆

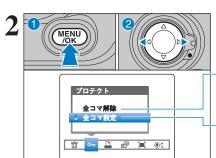
全コマ消去中に “BACK” ボタンを押すと処理を中止できます。プロテクトされていないコマ（ファイル）の中で、いくつかのコマ（ファイル）が消去されずに残ります。

すぐに中止した場合でも、いくつかのコマ（ファイル）は消去されます。

再生メニュー O┳ プロテクト（全コマ設定、全コマ解除）

1

❶“PLAY” ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。

プロテクトとは、コマ（ファイル）を誤って消去しないように設定することです。ただし “フォーマット” するとすべての画像が消去されます(➡104ページ)。

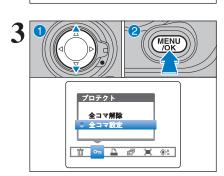
2

❶“MENU/OK” ボタンを押してメニューを表示します。
❷“◀▶” で “O┳” プロテクトを選びます。

全コマ解除

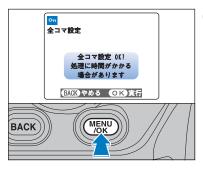
すべてのコマ（ファイル）のプロテクトを解除します。

全コマ設定

すべてのコマ（ファイル）をプロテクトします。

3

❶“▲▼” で “全コマ設定” か “全コマ解除” を選びます。
❷“MENU/OK” ボタンを押します。

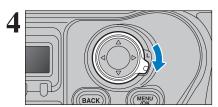
4 機能編 再生

次ページにつづく

全コマ設定

“MENU/OK” ボタンを押すとすべてのコマ（ファイル）をプロテクトします。

全コマ解除

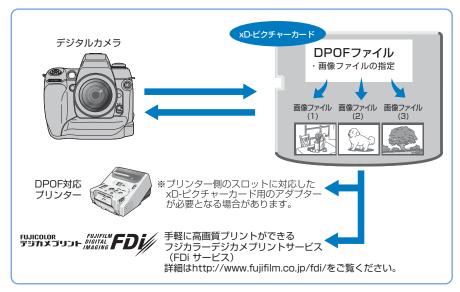
“MENU/OK” ボタンを押すとすべてのコマ（ファイル）のプロテクトを解除します。

4

操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

◆操作を途中でやめたいときは◆

撮影した画像が大量にあると、全コマ設定、全コマ解除に時間がかかる場合があります。
操作の途中で静止画の撮影をしたい場合は “BACK” ボタンを押してください。その後、全コマ設定、全コマ解除をし直す場合は、89ページの手順**1**から操作し直してください。

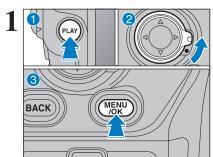
再生メニュー プリント予約（DPOF）について

DPOF（ディーポフ）とはDigital Print Order Format（デジタルプリントオーダーフォーマット）のことで、デジタルカメラで撮影した画像の中から、プリントしたいコマやその枚数、日付の有無などの指定情報を **xD-ピクチャーカード** などに記録するときの形式です。

- DPOF対応デジタルカメラ（本機）では上記の情報をカメラの操作で **xD-ピクチャーカード** に記録することができます。
- DPOF情報を記録した **xD-ピクチャーカード** を、フジカラーデジカメプリントサービス（FDiサービス）取扱店にお持ちいただき、お店で「DPOF指定でプリント」とお伝えいただくだけで、指定情報どおりの高画質プリントサービスが受けられます。一回のDPOF指定でプリントできるサイズは1種類です。一部の店舗では、DPOF指定をお受けしていませんので、ご注文時にご確認ください。
- DPOF対応プリンターでは、DPOF情報があれば、指定コマ（画像ファイル）を指定枚数だけ自動的にプリントできます。

◆デジカメプリントのご注文について◆

DPOF指定しなくてもフジカラーデジカメプリントサービス取扱店でプリントしたいコマやその枚数、日付の有無などの指定が可能です（お店のプリント受付機をご利用いただくと画像を見ながら簡単にできます）。詳しくはお店にご確認ください。

DPOF指定する場合も、お店で日付ありを指定する場合も撮影時にカメラの日時が正しく設定されていることが必須です。撮影前にカメラの日時が正しく設定されていることをご確認ください。

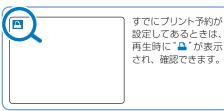
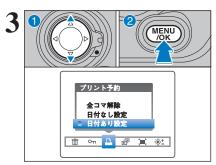
プリント予約（1コマ設定、解除、日付の有無）

1

❶"PLAY" ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。
❸"MENU/OK" ボタンを押してメニューを表示します。

2

"◀▶" で "🖶" プリント予約を選びます。

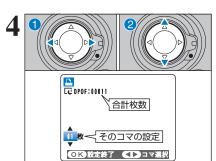
すでにプリント予約が設定してあるときは、再生時に "🖶" が表示され、確認できます。

3

❶"▲▼" で "日付あり設定" か "日付なし設定" を選びます。"日付あり設定" にすると、プリントに日付が印字されます。
❷"MENU/OK" ボタンを押します。

"日付あり設定" にするとプリントサービスかDPOF対応プリンターなどで日付を入れてプリントできます（プリンターの仕様によっては日付が入らないことがあります）。

◆他の機種でプリント予約が設定してあるとき◆

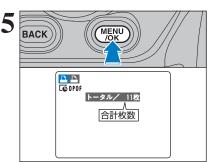
他の機種でプリント予約されたコマ（ファイル）がある場合は "（🖶予約再設定ＯＫ？）" と表示されます。"MENU/OK" ボタンを押すと、すでにプリント予約された設定はすべて消去されます。新たにプリント予約をやり直す必要があります。

"BACK" ボタンを押すと設定を変更しません。

4

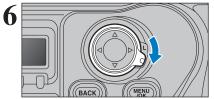
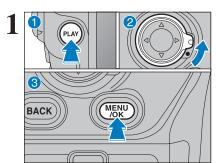
❶"◀▶"で設定するコマ(ファイル)を選びます。
❷"▲▼"でプリントするコマ(ファイル)にプリント枚数を99枚まで設定できます。プリントしないコマ(ファイル)はプリント枚数を0枚に設定します。
続けて設定するには❶❷を繰り返します。

- 同一メディア内で999コマの画像にプリント予約できます。
- CCD-RAWはプリント予約できません。

設定中に"BACK"ボタンを押すと、新規設定がすべてキャンセルされます。すでにプリント予約されていたときは、修正のみキャンセルします。

5

設定が終了したら、必ず"MENU/OK"ボタンを押します。
"BACK"ボタンを押すとプリント予約されません。

◆1コマ解除について◆

プリント予約したコマ(ファイル)の設定を解除(1コマ解除)するには、手順**1**〜**3**までの操作を行います。
❶"◀▶"でプリント予約を解除したいコマ(ファイル)を選びます。
❷プリント枚数を0枚に設定します。
続けて解除するには❶❷を繰り返します。
設定が終了したら、必ず"MENU/OK"ボタンを押してください。

6

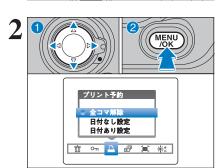
操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

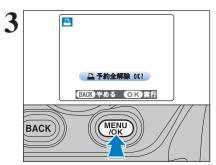
4 機能編 再生

プリント予約（全コマ解除）

1

❶"PLAY" ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。
❸"MENU/OK" ボタンを押してメニューを表示します。

2

❶"◀▶" で "🖶" プリント予約を選びます。
"▲▼" で "全コマ解除" を選びます。
❷"MENU/OK" ボタンを押します。

3

実行を確認する画面が表示されます。
プリント予約をすべて解除するには"MENU/OK" ボタンを押します。

4

操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

再生メニュー 🔁 オートプレイ（自動再生）

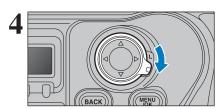
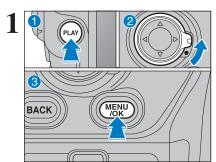
1

❶"PLAY" ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。
❸"MENU/OK" ボタンを押してメニューを表示します。

2

"◀▶" で "🔁" オートプレイを選びます。

3

❶"▲▼" を押して自動再生の間隔と画像の切り換えかたを選びます。
❷"MENU/OK" ボタンを押します。画像が自動的にコマ送りされて再生されます。
途中でやめる場合は "F1" ボタンを押してください。

4

操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

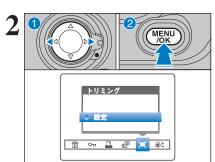
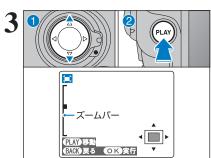
トリミング

1

❶"PLAY" ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。
❸"MENU/OK" ボタンを押してメニューを表示します。

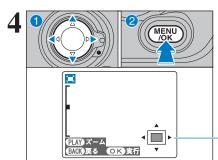
2

❶"◀▶" で "⌗" トリミングを選びます。
❷"MENU/OK" ボタンを押します。

3

❶"▲"、"▼" を押すと静止画をズーム（拡大）します。このとき "ズームバー" が表示されます。
❷移動するときは "PLAY" ボタンを押します。

❗"BACK" ボタンを押すと、1コマ再生に戻ります。

ズーム倍率によって保存される画像サイズが変わります。保存される画像サイズは "1M" までです。

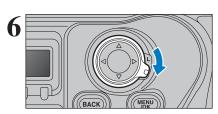
4

❶"▲▼◀▶" を押すと、見える範囲を移動できます。
このときナビゲーション画面に現在の表示位置が表示されます。
❷画像を保存するときは "MENU/OK" ボタンを押します。

ナビゲーション画面

❗"PLAY" ボタンを押すと、ズームに戻ります。

5 保存される画像サイズを確認し、“MENU/OK”ボタンを押します。トリミングした画像は最後のコマに別ファイルで追加されます。

■画像サイズについて

6M	六切、四切、A4サイズ程度でプリントする場合。
3M	2L、HV、A5サイズ程度でプリントする場合。
1M	Lサイズ程度でプリントする場合。

6 操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

4 機能編 再生

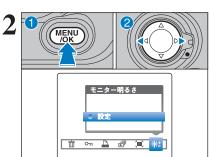
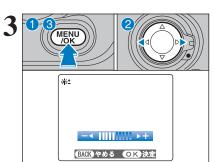
☀± モニター明るさ

1

❶"PLAY" ボタンを押して再生モードにします。
❷十字ボタンのロックを解除します。

2

❶"MENU/OK" ボタンを押してメニューを表示します。
❷"◀▶" で "☀±" モニター明るさを選びます。

3

❶"MENU/OK" ボタンを押すと、モニター明るさ設定画面になります。
❷"◀▶" でモニターの明るさを調整します。
❸設定が終了したら、必ず "MENU/OK" ボタンを押します。

メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

◆明るさ調節確認バー◆

明るさ設定画面で明るさ調節確認バーの表示をON/OFFすることができます。

SET-UP（セットアップ）

セットアップ画面の操作

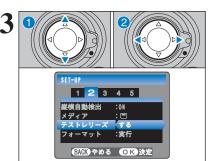
1

❶電源を入れ、撮影モードにします。
❷“MENU/OK” ボタンを押すと、SET-UP画面が表示されます。

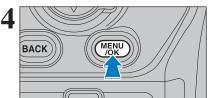
電池を交換するときは、必ず電源を切ってください。電源を切らずに電池ホルダーを引き出したりACパワーアダプターを抜くと、各種設定が工場出荷設定に戻ることがあります。

2

“◀▶” で見出し番号1～5を切り換えます。

3

❶“▲▼” で項目を選びます。
❷“◀▶” で設定を変更します。
“カスタムWB設定” “フォーマット” “日時設定” “充電池放電” “SET-UPリセット” “スルー画表示” は “▶” を押します。

4

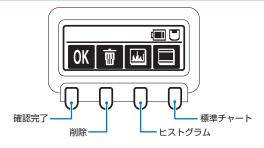
変更後 “MENU/OK” ボタンを押して決定します。

メニュー操作が終わったら、誤操作を防ぐため十字ボタンをロックします。

■SET-UPメニュー一覧

	項　目	表　示	工場出荷時	内　　容	ページ
1	撮影画像表示	OFF/ON/確認	OFF	撮影後にプレビュー画面（撮影結果）を表示するかどうか設定できます。	101
	カスタムWB設定	設定	—	光源に対して正確にホワイトバランスを合わせたいときに使用します。	102
	カラースペース	sRGB/AdobeRGB	sRGB	カラースペース（色空間）をsRGBにするか、Adobe RGB（1998）にするかを設定します。	103
	D-レンジ	ワイド/スタンダード	ワイド	ダイナミックレンジを標準（100%）で使うか、拡大（最大400%）して使うかを設定します。	103
2	縦横自動検出	ON/OFF	ON	縦位置自動検出を行うかどうかを設定します。	104
	メディア	/		**xD-ピクチャーカード** とCF/マイクロドライブが入っているときに、使用するメディアを設定します。	—
	テストレリーズ	する/しない	する	メディアがセットされていなくても、シャッターを切りたいときに“ON”にします。ただし、画像は記録されません（メディアが入っていると記録されます）。	—
	フォーマット	実行	—	すべてのファイルを消去します。	104
3	ビープ	LOW/HIGH/OFF	LOW	操作したときの音量を設定できます。	—
	日時設定	設定	—	日付、時刻を修正できます。	25
	USB設定	⇆/⇆	⇆	⇆：カードリーダー メディアから簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェース接続により、高速にファイル転送が行えます。	113
				⇆：ピクトブリッジ PictBridge（ピクトブリッジ）対応のプリンターがあれば、パソコンを使わないでカメラとプリンターを直接つないでプリントできます。	115
	1394設定	⇆/1394⇆	⇆	⇆：カードリーダー メディアから簡単に画像の読み出し、書き込みができます。IEEE1394インターフェース接続により、高速にファイル転送が行えます。	113
				1394⇆：1394撮影 パソコンでカメラを制御して撮影できます。撮影した画像をパソコンに自動保存できます。	112
4	コマNO.	連番/新規	連番	コマNO.を連番にするか新規にするかを設定します。	104
	言語/LANG.	日本語/ENGLISH/FRANCAIS/DEUTSCH/ESPAÑOL/ITALIANO/中文	日本語	液晶モニターに表示する言語を設定できます。	—
	ビデオ出力	NTSC/PAL	NTSC	ビデオ出力をNTSCにするかPALにするかを設定します。日本国内で使用する場合はNTSCを選択してください。	—
	充電池放電	実行	—	ニッケル水素電池を放電します。	105
5	SET-UPリセット	実行	—	カスタムWB設定、フォーマット、日時設定、言語/LANG、ビデオ出力、スルー画表示以外のすべての設定を工場出荷設定にリセットします。 “▶”を押すと確認画面が表示されます。リセットするには“MENU/OK”ボタンを押します。	—
	スルー画表示	実行	—	液晶モニターにスルー画像を表示させます。	106

撮影画像表示

撮影後に撮影結果を表示するかしないか設定できます。
OFF：撮影結果は表示されず、自動的に記録されます。
ON　：撮影結果が約2秒間表示され、自動的に記録されます。
確認：撮影結果が表示され、自動的に記録されます。
画像が表示されている状態で“F2”ボタン（削除）を押すと記録された画像は削除されます。“F1”ボタン（確認完了）、“MENU/OK”ボタン、“BACK”ボタン、シャッターボタンを押すと表示が消え、次の撮影が可能になります。

“確認”設定時の操作

プレビューズーム

十字ボタンのロックを解除し、“▲▼”でズームします。
見える範囲を移動するには、“PLAY”ボタンを押してから、“▲▼◀▶”を押します。ズームに戻るにはもう一度“PLAY”ボタンを押します。

ヒストグラム

ボタンを押すとヒストグラムが表示されます。
ボタンを押すたびにマスター→R→G→Bの順に表示が切り換わります。

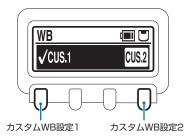
ヒストグラムについて（➡83ページ）。

高輝度警告、標準チャート

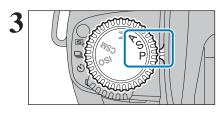
ボタンを押すたびに高輝度警告表示、標準チャート表示に切り換わります。
画像の輝度や色合いを確認するときに使用します。

カスタムWB設定

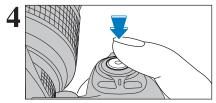
1 光源に対して正確にホワイトバランスを合わせたいときに使用します。特殊な効果を出したいときにも使用できます。
“F1”ボタン（カスタムWB設定1）または“F4”ボタン（カスタムWB設定2）を押し、設定したいカスタムホワイトバランスを選びます。

2

フォーカスモードレバーを“M”マニュアルフォーカスに合わせ手動でピントを合わせます。

❗白い紙などはオートフォーカスでピントを合わせることができず、シャッターが切れないことがあります。

3

露出モードを“P・S・A”のいずれかに合わせます。

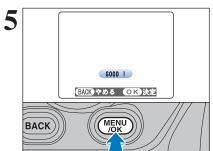
❗露出モード“M”マニュアルでもカスタムWBの測定はできますが、極端にアンダーまたはオーバーでは最適な測定がされないことがあります。

4

設定したい光源下で白い紙などをファインダーいっぱいにとらえ、シャッターボタンを押すと設定されます。

●カスタムWB設定可能範囲
　色温度 約2800K～約9500K

◆外部ストロボ使用のカスタムホワイトバランスの合わせ方◆

外部ストロボを使って露出モードを“M”に合わせて使用する場合は、白い紙の代わりに市販の18%グレーの標準チャートを使用すると撮影時の条件（絞り値、ストロボ光量など）で、ホワイトバランスが合わせ易くなります。

5

適正な露出で測定されると、“GOOD !”と液晶モニターに表示されます。
“MENU/OK”ボタンを押して決定します。

撮影後、画像の色味（ホワイトバランス）を確認することをおすすめします。
- SET—UP画面で撮影画像表示（➡101ページ）を“確認”にします。
- “PLAY”ボタンを押します（➡41ページ）。
ホワイトバランス設定が終わったら、使用するフォーカスモードに合わせてください。

■適正な露出で測定されないときは

	処　置
OVER	被写体が明るすぎます。－側に露出補正してもう一度設定しなおしてください。
UNDER	被写体が暗すぎます。＋側に露出補正してもう一度設定しなおしてください。
OUT OF RANGE	カスタムWB設定可能範囲を超えているため、最大値（または最小値）が設定されます。 ●カスタムWB設定可能範囲：色温度 約2800K～約9500K

カラースペース

撮影時のカラースペースを選択します。通常の撮影ではsRGBに設定します。
Adobe RGB（1998）は商用印刷用途などに適しています。

D-レンジ

ワイド：スーパーCCDハニカムSRの特性を活かしたダイナミックレンジの広い撮影が可能です。
連写速度、速写の間隔はスタンダードのときよりも長くなり（約2倍）、連続撮影枚数が約半分になります。

スタンダード：ダイナミックレンジは従来のデジタルカメラ（FinePix S2 Pro）同様の100%になりますが、連写速度、連続撮影枚数がアップし軽快な撮影が可能です。

縦横自動検出

縦位置撮影を検出して別売の専用ソフト「ハイパーユーティリティーソフトHS-V2 Ver3.0」で画像を開いたときに自動的に回転して表示されます。

- カメラを上向き・下向きで撮影する場合や流し撮りする場合など、誤った縦横位置情報が記録されることがあります。その際は“OFF”を選択してください。
- 再生画像には回転した表示は反映されません。

フォーマット（メディアの初期化）

メディアをカメラ用に初期化（フォーマット）します。
プロテクトされているファイルを含むすべてのファイルを消去しますので、消去したくない重要なファイルはパソコンなどにコピーしてください。

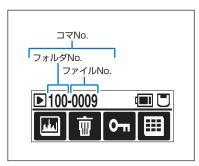
❶“◀▶”で“実行”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押すとすべてのファイルが消去され、メディアが初期化されます。

- フォーマットするメディアを必ず画面で確認してから実行してください。
  - フォーマットするメディア
    - （フォーマットOK?）：xD-ピクチャーカード
    - （フォーマットOK?）：CF/マイクロドライブ
- フォーマットする前に“カードエラー”“記録できませんでした”“再生できません”“フォーマットされていません”が表示された場合は、132ページを参照し対処してください。

コマNO.（コマNO.メモリー）

A、Bともにフォーマットされたメディアを使用した場合

コマNO.を連番にするか新規にするかを設定します。
連番：最後に使用したメディアの「最終ファイルNo.」から続けて撮影
新規：メディアごとに「ファイルNo. 0001」から撮影
“連番”は、パソコンなどに画像を取り込んだときにファイル名が重複しないので、ファイルの管理に便利です。

- “SET-UPリセット”を実行した場合、コマNO.の設定（“連番”または“新規”）は“連番”になりますが、コマNO.自体は“0001”に戻りません。
- 記憶した「最終ファイルNo.」より、大きいファイルNo.の画像がメディアにあった場合、大きいファイルNo.の続きから撮影されます。

画像を再生するとファイルNo.を確認できます。コマNo.の7けたの数字のうち下4けたがファイルNo.で、上3けたはフォルダNo.です。

- メディアを交換するときは、必ず電源を切ってからスロットカバーを開けてください。電源を切らずにスロットカバーを開けると、コマNO.の連番が機能しないことがあります。
- ファイルNo.は0001から9999までで、それを超えるとフォルダNo.が1つ繰り上がります。最大で999－9999までカウントされます。
- 他のカメラで撮影した画像は、コマNO.表示が異なる場合があります。
- “コマNO.の上限です”が表示されたときは132ページを参照してください。

充電池放電

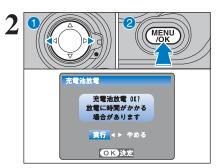
充電池放電機能は、ニッケル水素電池のみでご使用ください。

以下のようなときに充電池放電をご使用ください。
- 充電後の使用可能時間が短くなったとき
- 長期間使用しなかったとき
- 新しくニッケル水素電池を購入したとき

カメラにACパワーアダプターを使用しているときは、充電池放電はできません。外部から電源供給されるためカメラ内のニッケル水素電池は放電されません。

1

❶“◀▶”で見出し番号4に切り換え、“▲▼”で“充電池放電”を選びます。
❷“▶”を押します。

2

❶“◀▶”で“実行”を選びます。
❷“MENU/OK”ボタンを押します。
画面が切り換わり放電が開始されます。電池残量表示が赤点灯から赤点滅になり放電が終了すると、カメラの電源が切れます。

- 放電中に操作を中止したいときは“BACK”ボタンを押します。

スルー画表示

マニュアルでピントをより正確に合わせたいときや画角の確認のために、液晶モニター上でモノクロ画像を確認しながらピントを合わせることができます。スルー画像の表示時間には30秒の制限があります。この間にマニュアルでピント合わせを行ってください。スルー画表示は、実絞りで表示されます。

❗“M” マニュアルフォーカスで使用してください。

1

フォーカスモードレバーを “M” に合わせます。

2

SET-UP画面から “スルー画表示” を選択して、“▶” を押します。確認画面で “MENU/OK” ボタンを押します。

❗内蔵ストロボをポップアップしたり、外部ストロボを接続してスルー画表示すると、ストロボが発光します。

3

30秒間、スルー画が表示されます。“◀▶” で明るさ調整をします。スルー画表示では、“▲” を押すと中央部を拡大し、“▼”を押すと元に戻ります。途中で中止する場合は、“BACK” ボタンを押します。

❗スルー画表示する場合は別売のACアダプターAC-5VXをお使いください。
スルー画表示を連続的に使用するとCCDの発熱によりその後の撮影画像がザラついたり、白点などのノイズが生じる場合があります。その場合はしばらく電源を切って冷めるのをお待ちください。

❗スルー画表示を連続して使用した場合、初回の明るさの設定を2回目以降も保持します。電源オフ、またはオートパワーオフすると、リセットされます。再度設定し直してください。

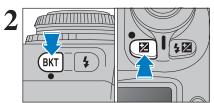
❗スルー画を表示した場合、オートブラケティングの設定が解除されます。オートブラケティングの設定は、スルー画表示終了後に設定してください。

ツーボタンリセット

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。

1 露出モードダイヤルを “P・S・A・M” または “CSM” に合わせて、リセットする内容を選びます。

露出モードダイヤル	リセットされる内容
“P・S・A・M”	撮影機能が次のようにリセットされます。
	機　能 / **状　態**
	フォーカスエリア / 中央
	プログラムシフト / 解除
	露出補正 / 解除
	オートブラケティング / 解除
	AEロック / 解除
	シンクロモード / 先幕シンクロ
	調光補正 / 解除
“CSM”	●カスタムセッティングのすべてがリセットされます。 ●ISO感度が200にリセットされます。

2

“BKT” と “±” を同時に2秒以上押し続けます（近くに緑色の目印があります）。
上面表示パネルが一瞬点滅しリセットされます。

3 リセットが完了したら、露出モードダイヤルを “CSM” 以外に合わせます。

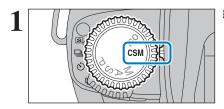
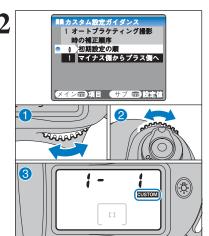
5
各種設定編

カスタムセッティング（CSM）

カスタムセッティングにより、ボタンの働きやファインダー内の表示方法などの、カメラの各機能を変更できます。

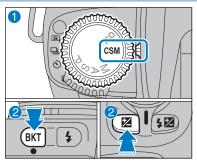
1

露出モードダイヤルを“CSM”に合わせます。

2

❶メインコマンドダイヤルで項目を選択します。
❷サブコマンドダイヤルで設定を変更します。
❸上面表示パネルに“CUSTOM”が表示されます。

3 設定が終わったら、露出モードダイヤルを“CSM”以外に合わせます。

電源を切っても設定した内容は保持されます。

カスタムセッティングを解除するには

❶露出モードダイヤルを“CSM”に合わせます。
❷“BKT”と“☒”を同時に2秒以上押し続けます（近くに緑色の目印があります）。
上面表示パネルが一瞬点滅しリセットされます。

●カスタムセッティングはすべて解除され、初期値に戻ります。
●ISO感度が200にリセットされます。

■カスタムセッティング一覧

番号	項　目	表　示	内　容
1	オートブラケティング撮影時の補正順序の変更	0：初期設定の順（工場出荷設定） 1：マイナス側からプラス側へ	オートブラケティング撮影時の補正順序を変更できます。
2	構図用格子線表示	0：OFF（工場出荷設定） 1：ON	構図用格子線を表示させると、主要な被写体を縦横の交点に配置したり、横のラインに地平線や水平線を合わせたりして使用できます。被写体の大きさやバランスを見ながら、意図的な構図に撮影できます。
3	フォーカスエリア照明	0：AUTO（工場出荷設定） 1：OFF 2：ON	ファインダー内のフォーカスエリアの照明の設定をします。
4	フォーカスエリア選択の循環	0：しない（工場出荷設定） 1：する	フォーカスエリア選択の循環をすると、十字ボタンの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択ができます。
5	シャッターボタン半押しAEロック	0：しない（工場出荷設定） 1：する	1に設定すると、シャッターボタンを半押ししたときにAEロックできます。
6	Mモードでのバルブ撮影	0：しない（工場出荷設定） 1：する	露出モードが“M”でバルブ撮影するときは、1に設定します。
7	AF-Sでの至近優先ダイナミックAF	0：する（工場出荷設定） 1：しない	1に設定すると、AF-Sでは至近優先ダイナミックAFになりません。
8	AF-Cでの至近優先ダイナミックAF	0：しない（工場出荷設定） 1：する	1に設定すると、AF-Cでは至近優先ダイナミックAFになります。
9	AE/AFロックボタンの機能選択	0：AE・AFの同時ロック（工場出荷設定） 1：AEロックのみ 2：AFロックのみ 3：AEロックの維持 4：AF作動	通常、“AE-L/AF-L”ボタンを押したときにAEロック（露出の記憶）とAFロック（フォーカスロック）が同時に行われますが、AEロックのみ行われる、AFロックのみ行われる、またはAEロック状態を維持するように変更できます。「AEロック状態の維持」にセットしてAE/AFロックを行った場合は、再度“AE-L/AF-L”ボタンを押すか、シャッターを切ると解除されます。 また、オートフォーカス（AF）は、通常、シャッターボタンの半押しにより作動しますが、“AE-L/AF-L”ボタンを押すとAFが作動するように変更できます（この場合、シャッターボタンの半押しではAFは作動しません）。
10	コマンドダイヤルの機能変更	0：しない（工場出荷設定） 1：する	撮影時のメインコマンドダイヤルとサブコマンドダイヤルの動作を入れかえます。 0：メイン→シャッタースピードの変更 　　サブ　→絞りの変更 1：メイン→絞りの変更 　　サブ　→シャッタースピードの変更
11	多重露出撮影時の撮影方法の変更	0：1コマ撮影（工場出荷設定） 1：連続撮影	変更すると、多重露出撮影時に連続撮影できます。
12	オートパワーオフ	0：連続 15：15秒（工場出荷設定） 2：2分 5：5分	オートパワーオフするまでの時間を設定します。

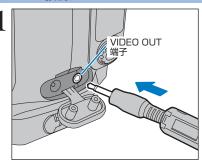
5 各種設定編

次ページにつづく

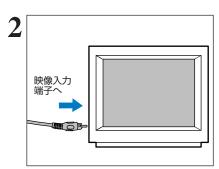
番号	項　目	表　示	内　容
13	セルフタイマーの作動時間の変更	2：2秒 5：5秒 10：10秒 （工場出荷設定） 20：20秒	セルフタイマーの作動時間を設定します。
14	各ボタン操作によるイルミネーター点灯	0：OFF （工場出荷設定） 5：5秒する 15：15秒する	各ボタンの操作によってイルミネーターが点灯するように変更できます。
15	AF補助光	0：ON （工場出荷設定） 1：OFF	内蔵AF補助光を照射しないように変更できます。ただし、オートフォーカスでのピント合わせができなくなる場合があります。

テレビに接続する/ACパワーアダプター（別売）を使う

テレビに接続する

1

カメラとテレビの電源を切ります。端子カバーを開け、カメラの“VIDEO OUT”端子にビデオケーブル（付属品）のプラグを接続します。

コンセントが近くにある場合は、ACパワーアダプターAC-5VXを接続することをおすすめします。

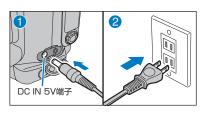
2

テレビの映像入力端子にピンプラグを接続し、カメラとテレビの電源を入れて通常どおり撮影、再生を行ってください。

テレビの映像入力については、テレビの説明書をご参照ください。

ACパワーアダプター（別売）を使う

ACパワーアダプターを接続すると、電池の消耗を気にせず撮影・再生（テレビ接続時など）・PC接続も可能ですので、旅行先などで便利です。

●使用可能なACパワーアダプター
　型名：AC-5VX

AC-5VXは海外で使用できます。

カメラの電源が切れていることを確認します。端子カバーを開け、ACパワーアダプターの接続プラグを“DC IN 5V”端子に奥まで差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

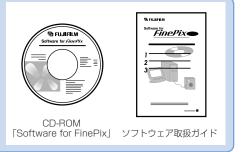
必ず上記の弊社製品をご使用ください。

ACパワーアダプターについてのご注意は128ページをご参照ください。

パソコンと接続する

USB接続およびIEEE1394接続で利用できる機能の概要と接続方法を説明します。

カメラをパソコンに初めて接続する際は、接続する前に、付属のCD-ROMを使ってパソコンにソフトウェアをすべてインストールする必要があります。インストールする前にカメラをパソコンに接続すると正常に接続できなくなる場合があります。
別冊のソフトウェア取扱ガイドをご覧になって、正しくソフトウェアをインストールしてください。

CD-ROM「Software for FinePix」　ソフトウェア取扱ガイド

● ご使用のパソコンがUSB2.0（High-Speed USB）対応のときは、従来より高速のファイル転送が行えます。

Windows XPでは、USB2.0（High-Speed USB）に対応していないパソコンにカメラを接続すると警告が表示されます。メッセージに従ってパソコンを操作してください。
IEEE1394b（FireWire 800）には対応していません。IEEE1394（FireWire 400）にてお使いください。

カードリーダー機能について

メディアから簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェース接続またはIEEE1394インターフェース接続（FireWireインターフェース）により、高速にファイル転送が行えます（➡113ページ）。
IEEE1394ポートを使って接続する場合は、OHCI準拠のインターフェースであることをご確認のうえ、下記の表をご参照になって、ご自分のお使いのOSが対応しているかどうか、お調べください。

■Windows対応表

○：接続可能　×：接続不可

接続方法 ＼ OS	Windows 98	Windows 98 SE (Second Edition)	Windows Me (Millennium Edition)	Windows 2000 (Professional)	Windows XP
IEEE1394接続	×	○*2	○	○	○
USB接続	○*1	○	○	○	○

＊1 付属のCD-ROMでドライバーをインストールすることにより使用できます。
＊2 スタートボタンからWindows Updateを選択し、1394デバイスドライバの更新をしてください（インターネット接続ができる環境が必要です）。

■Macintosh対応表

○：接続可能　×：接続不可

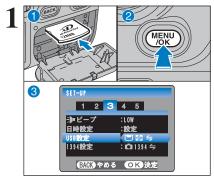
接続方法 ＼ OS	Mac OS 9.2.2*1	Mac OS X*2
IEEE1394接続	○	○
USB接続	○	○

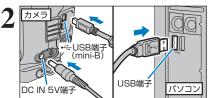
＊1 アップデートに関してはアップルコンピュータ株式会社（http://www.apple.co.jp）にお問い合わせください。
＊2 バージョン10.2.6～10.3.5対応 2004年11月現在。対応OSについては、ホームページをご覧ください。
（http://www.fujifilm.co.jp/またはhttp://www.finepix.com/）

IEEE1394撮影機能について

IEEE1394での撮影については別売のハイパーユーティリティーソフト HS-V2 Ver.3.0以後のインストールガイドをご覧ください。

カードリーダー接続方法

1

❶撮影したメディアをカメラにセットします。
❷電源を入れ、“MENU/OK”ボタンを押します。
❸SET−UPの“USB設定”(“1394設定”)を“⇋”にしてから(➡99ページ)、電源を切ります。

ACパワーアダプターAC-5VX(別売)を使った接続をおすすめします(➡111ページ)。通信中に電源が切れると、メディア内のファイルなどが壊れることがあります。

xD-ピクチャーカード とCF/マイクロドライブを同時にセットした場合は、設定されているメディアが使用されます(➡100ページ)。

2

❶パソコンの電源を入れます。
❷USBケーブル(mini-B)またはIEEE1394ケーブルでカメラとパソコンを接続します。
❸カメラの電源を入れます。

ケーブルは同梱品をお使い下さい。同梱品以外のケーブルを使った場合には正常に動作しない場合があります。

通信中はUSBケーブル(mini-B)またはIEEE1394ケーブルを取り外さないでください。通信中に電源が切れると、メディア内のファイルなどが壊れることがあります。

Windows XPおよびMac OS Xでは、初回接続時に自動起動の設定が必要です(➡別冊のソフトウェア取扱ガイド)。

USBケーブル(mini-B)またはIEEE1394ケーブルは向きに気をつけて、接続端子に奥までしっかりと差し込んでください。

USBケーブル(mini-B)とIEEE1394ケーブルは同時に接続しないでください。

カメラを取り外すとき、電源を切るときは、必ず所定の手順で行ってください(➡114ページ)。

Windowsパソコンをお使いの場合、インストールが完了しているとドライバの設定が自動的に行われますので、そのままお待ちください。
＊パソコンがカメラを認識しない場合は、ソフトウェア取扱ガイドをご参照ください。

カメラの動作

●カメラとパソコンが通信中のときは、アクセスランプが点滅します。
●背面表示パネルには“⇋カードリーダー”と表示されます。
●カードリーダー接続時はオートパワーオフしません。

メディアの交換は、必ず114ページの手順でカメラとパソコンの接続を切ったあとに行ってください。

パソコンと接続を切るには（必ず行ってください）

1 カメラを利用しているアプリケーション（FinePixViewerなど）をすべて終了します。

2 カメラの電源を切る前の作業を行います。この手順は、ご使用のOS（パソコン）によって違います。

アクセスランプが消灯していること（パソコンと通信していないこと）を確認します。

パソコンで“コピー中”の表示が消えても、カメラと通信中の場合があります。必ずカメラのアクセスランプが消灯していることを確認してください。

■Windows 98/98 SE（USB接続）
パソコンでの操作は必要ありません。

■Windows 98 SE（IEEE1394接続）/Me/2000 Professional/XP

❶マイコンピュータの中の“リムーバブルディスク”アイコンを右クリックし、取り出しをクリックします。この操作はWindows Meのみ必要です。

❷タスクバー上の取り外しアイコンを左クリックします。

＊Windows XPの画面です。

❸下図のメニューが表示されますので、メニュー上をクリックします。

USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ (F:) を安全に取り外します

＊Windows XPの画面です。

❹“ハードウェアの取り外し”ダイアログが表示されますので、“OK”ボタンかクローズボタンをクリックしてください。

■Macintosh
デスクトップの“リムーバブルドライブ”アイコンを、ゴミ箱にドラッグ&ドロップします。

ゴミ箱にドラッグ＆ドロップすると、カメラの背面表示パネルに“トリハズシOK”と表示されます。

3 カメラの電源を切り、専用USBケーブル（mini-B）またはIEEE1394ケーブルを取り外します。

カメラとプリンターを直接つないでプリントする(PictBridge機能)

PictBridge (ピクトブリッジ) 対応のプリンターがあれば、パソコンを使わないでカメラとプリンターを直接つないでプリントできます。

- PictBridge機能は、カメラで撮影した画像以外ではプリントできない場合があります。
- USBケーブルを抜き差しするときは、必ずカメラの電源を "OFF" にしてください。カメラの電源を入れたままプリンターと接続すると、メディアが壊れる場合があります。

カメラでプリント予約 (DPOF) の設定をしてプリントする

1

❶電源レバーを "ON" に合わせ、電源を入れます。
❷SET-UPの "USB設定" を "🖶⇋" にします (➡99ページ)。
❸電源レバーを "OFF" に合わせ、電源を切ります。

- USB設定が "🖶⇋" のまま、パソコンと接続しないでください。誤ってパソコンと接続した場合は、135ページをご参照ください。

2

❶カメラとプリンターをUSBケーブル (mini-B) で接続します。
❷プリンターの電源を入れます。

- 本機では用紙サイズ設定や印字品質などプリンターの設定はできません。
- カメラにACパワーアダプター AC-5VXを接続することをおすすめします。
- 本機でフォーマットしたメディアをご使用ください。

3

電源レバーを "ON" に合わせ、電源を入れます。

4

背面表示パネルに "🖶⇋カクニンチュウ" と表示され、しばらくすると、液晶モニターにメニュー画面が表示されます。

- メニュー画面が表示されない場合は、USB設定が "🖶⇋" になっているか確認してください。
- プリンターによっては使えない機能があります。

次ページにつづく

5

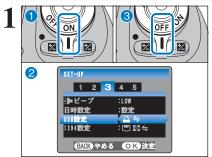
❶"▲▼"で"🖶"予約プリントを選びます。
❷"MENU/OK"ボタンを押します。

❗"🖶予約がありません"と表示された場合はプリント予約されていません。
❗予約プリントでプリントする場合は、あらかじめ本機でプリント予約する必要があります（➡92ページ）。
❗プリント予約で"日付あり設定"に設定しても、日付プリントに対応していないプリンターの場合、日付が印字されません。

6

"MENU/OK"ボタンを押すとデータが転送され、プリント予約したコマが連続してプリントされます。
"BACK"ボタンを押すと手順**5**に戻ります。

❗"BACK"ボタンを押すとプリントを中止できます。プリンターによってはすぐにプリントを中止できない場合や、プリントの途中で停止する場合があります。動作の途中で動かなくなった場合は、カメラの電源をいったん切って、もう一度入れ直してください。

プリント予約（DPOF）を使わず、コマを指定してプリントする（1コマプリント）

1

❶電源レバーを"ON"に合わせ、電源を入れます。
❷SET-UPの"USB設定"を"🖶⇋"にします（➡99ページ）。
❸電源レバーを"OFF"に合わせ、電源を切ります。

❗USB設定が"🖶⇋"のまま、パソコンと接続しないでください。誤ってパソコンと接続した場合は、135ページをご参照ください。

2

❶カメラとプリンターをUSBケーブル(mini-B)で接続します。
❷プリンターの電源を入れます。

- 本機では用紙サイズ設定や印字品質などプリンターの設定はできません。
- カメラにACパワーアダプター AC-5VXを接続することをおすすめします。
- 本機でフォーマットしたメディアをご使用ください。

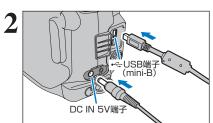
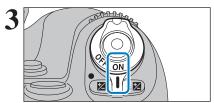
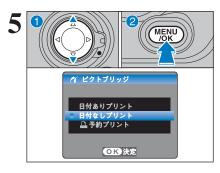
3

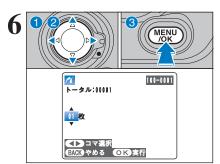
電源レバーを "ON" に合わせ、電源を入れます。

4

背面表示パネルに "⇋カクニンチュウ" と表示され、しばらくすると、液晶モニターにメニュー画面が表示されます。

- メニュー画面が表示されない場合は、USB設定が "⇋" になっているか確認してください。
- プリンターによっては使えない機能があります。

5

❶"▲▼" で "日付なしプリント" か "日付ありプリント" を選びます。"日付ありプリント" にすると、プリントに日付が印字されます。
❷"MENU/OK" ボタンを押します。

- 日付プリントに対応していないプリンターに接続した場合は、"日付ありプリント" が選択できません。

6 接続編

次ページにつづく

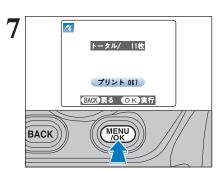
6

❶“◀▶”で設定するコマ（ファイル）を選びます。
❷“▲▼”でプリントするコマ（ファイル）にプリント枚数を99枚まで設定できます。プリントしないコマ（ファイル）はプリント枚数を0枚に設定します。
続けて設定するには❶❷を繰り返します。
❸“MENU/OK”ボタンを押します。

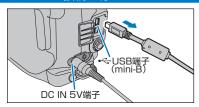
7

設定が終了したら、必ず“MENU/OK”ボタンを押します。

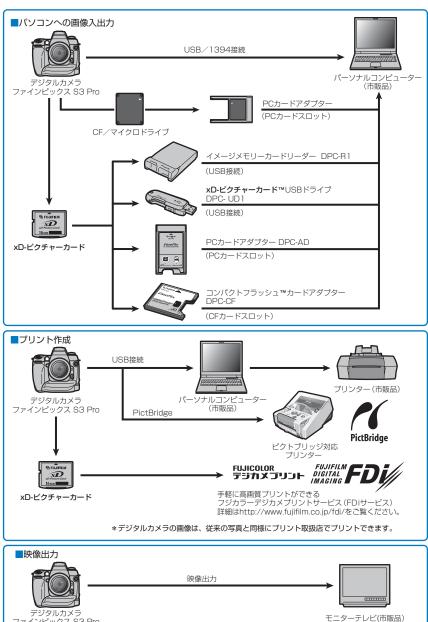
“BACK”ボタンを押すと手順**5**に戻ります。

8

“MENU/OK”ボタンを押すとデータが転送され、指定された枚数のプリントが開始されます。

“BACK”ボタンを押すとプリントを中止できます。プリンターによってはすぐにプリントを中止できない場合や、プリントの途中で停止する場合があります。動作の途中で動かなくなった場合は、カメラの電源をいったん切って、もう一度入れ直してください。

プリンターと接続を切るには

❶カメラの液晶モニターに“プリント中”と表示されていないことを確認します。
❷カメラの電源を切り、USBケーブル（mini-B）を取り外します。

システムアップ機器（別売）（平成16年11月現在）

▶別売のフジフイルム製品と組み合わせることにより、様々な用途向けにシステムアップすることができます。

その他 別売アクセサリーの紹介（平成16年11月現在）

▶使いかたについては、お使いになるアクセサリーの「使用説明書」をご覧ください。
※最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。http://www.fujifilm.co.jp/ または http://www.finepix.com/
※価格はメーカー希望小売価格、消費税別です。

●イメージメモリーカード（ xD-ピクチャーカード ）
以下の種類がお使いいただけます。
- DPC-16（16MB）
- DPC-32（32MB）
- DPC-64（64MB）
- DPC-128（128MB）
- DPC-256（256MB）
- DPC-512（512MB）

※すべてオープン価格

●マイクロドライブキット MK-2
IBM製の小型のハードディスクドライブで、容量が1GBあり、大量の画像を保存することができます。
専用PCカードアダプターが付属しています。

※オープン価格

●ACパワーアダプター AC-5VX
長時間の撮影、再生時、パソコンとの接続時にお使いください。
（AC100〜240V、50/60Hz対応）

※4,000円（税込み 4,200円）

●単3形ニッケル水素電池「ニッケル水素2300」（FNH HR AA 4B E）
高容量の単3形ニッケル水素電池です。
4本パック「型名 FNH HR AA 4B E」をお買い求めください。

※1,980円（税込み 2,079円）

●ニッケル水素／ニカド超急速充電器デジチャージプロ（FNW PRO 1 BX D）
単3形ニッケル水素電池「ニッケル水素2300」2本を約70分で充電できます。同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です。
海外でも使用可能な電圧（AC100V〜240V）、周波数（50/60Hz）対応です（各国のプラグに対応した変換プラグは別途用意してください）。
※6,300円（税込み 6,615円）

●放電機能付きニッケル水素／ニカド急速充電器デジチャージリフレッシュ（FNW RFR 1 BX E）
充電前に本体のリフレッシュボタンを押して電池を放電させることができます。単3形ニッケル水素電池「ニッケル水素2300」2本を約115分で充電できます。同時に4本までのニッケル水素/ニカド電池の充電が可能です。
海外でも使用可能な電圧（AC100V〜240V）、周波数（50/60Hz）対応です（各国のプラグに対応した変換プラグは別途用意してください）。
※6,300円（税込み 6,615円）

●イメージメモリーカードリーダー DPC-R1
イメージメモリーカード（ xD-ピクチャーカード 、スマートメディア）からパソコンに、簡単に画像の読み出し、書き込みができます。USBインターフェースにより高速なファイル転送を行います。
- Windows 98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- iMac、iBookおよびUSBインターフェースを標準装備するPower Macintosh（Mac OS 8.6〜9.2/X（10.1.2〜10.1.5））

※オープン価格

●PCカードアダプター DPC-AD
 xD-ピクチャーカード あるいはスマートメディアをPC Card Standard ATA（PCMCIA2.1）に準拠したPCカード（TYPE Ⅱ）として使えます。2種類のメディアのうちどちらか一方を使用できます。
- Windows 95/98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- Mac OS 8.6〜9.2/X（10.1.2〜10.1.5）

※オープン価格

●コンパクトフラッシュ™カードアダプター DPC-CF
 xD-ピクチャーカード を挿入するとコンパクトフラッシュ™カード（TYPE Ⅰ）として使用できます。
- Windows 95/98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- Mac OS 8.6〜9.2/X（10.1.2〜10.1.5）

※オープン価格

●xD-ピクチャーカード™USBドライブ DPC-UD1
 xD-ピクチャーカード 専用の小型カードリーダーです。USBポートに差し込むだけでデータの読み込み、書き込みが可能です。（Windows 98/98 SEを除いてドライバーのインストールが不要です）。
- Windows 98/98 SE/Me/2000 Professional/XP
- Mac OS 9.0〜9.2/X（10.0.4〜10.2.6）

※オープン価格

● ハイパーユーティリティー　HS-V2 Ver.3.0

- デジタルカメラで撮影した画像をパソコン上で「閲覧」、「2画面比較」、「マーカー機能による分類・整理」、「ヒストグラム/ハイライト警告表示による画像の解析」をすることができます。
- CCD-RAWファイルを展開条件指定（トーンカーブ、ホワイトバランス、シャープネス、カラー、ダイナミックレンジ）、出力画像サイズ指定し、汎用画像ファイル（16bit/8bit TIFF、Exif-JPEG）に変換できます。
- パソコンとIEEE1394インターフェースで接続してFinePix S3 Proで撮影したデータを、記録メディアを介さずに直接パソコンに転送することができます。（撮影機能）
- その他プリント機能、コンタクトシートファイル作成機能、スライドショー機能など撮影データの利用に必要な機能を用途に応じて使用できます。
- 詳細仕様および動作環境については、製品のパッケージでご確認ください。

使用上のご注意

▶ご使用の前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をお読みの上、正しくご使用ください。

■避けて欲しい場所

次のような場所での本機の使用および保管は避けてください。

- ●雨天下、湿気やゴミ、ほこりの多いところ
- ●直射日光の当たるところや夏場の密閉した自動車内など、高温になるところ。
- ●極端に寒いところ
- ●振動の激しいところ
- ●油煙や湯気の当たるところ
- ●強い磁場の発生するところ（モーター、トランス、磁石のそばなど）
- ●防虫剤などの薬品やゴム、ビニール製品に長時間接触するところ

■冠水・浸水、砂かぶりにご注意

水や砂は本機の大敵です。海辺・水辺などでは、水や砂がかからないようにしてください。また、水でぬれた場所の上に、本機を置かないでください。水や砂が本機の内部に入りますと、故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

■結露（つゆつき）にご注意

本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときなどに、本機内外部やレンズなどに水滴がつくこと（結露）があります。このようなときは電源を切り、水滴がなくなってからお使いください。また、メディアに水滴がつくことがあります。このようなときはメディアを取り出し、しばらくたってからお使いください。

■長時間お使いにならないときは

本機を長時間お使いにならないときは、電池、メディアを取り外して保管してください。

■カメラのお手入れ

- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどの汚れはブロアーブラシなどでほこりを払い、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。それでも取れないときは、フジフイルムのレンズクリーニングペーパーにレンズクリーニングリキッドを少量つけて軽くふいてください。
- ●レンズ、液晶モニター表面やファインダーなどは傷つきやすいので、固いものでこすったりしないでください。
- ●カメラ本体は、乾いた柔らかい布などでふいてください。シンナー、ベンジンおよび殺虫剤など揮発性のものをかけないでください。変質・変形したり、塗料がはげるなどの原因になります。
- ●本機には撮像素子としてCCDが搭載されています。このCCDはシャッター幕の奥にあります。
  このCCDの表面にゴミなどが付着することがあり、そのまま撮影を行うと撮影条件や被写体によってはこのゴミが画像に写り込むことがあります。この場合、CCDのクリーニングが必要となります。CCDの表面はとても傷つきやすいので、クリーニングが必要なときはできるだけ弊社サービスステーションにお申し付けください（有償）。万一、クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

⚠ CCDにゴミやほこりを付着させないために、次のことを守ってください。

- ●レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- ●レンズを外したときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。このときレンズやボディキャップにゴミやほこりが付着していないことを確認してください。

■海外で使うとき

- ●このカメラは国内仕様です。付属している保証書は、国内に限られています。旅行先で万一、故障・不具合が生じた場合は、持ち帰ったあと国内の弊社サービスステーションにご相談ください。
- ●海外旅行などでチェックインする旅行カバンにカメラを入れないでください。空港での荷扱いによっては、大きな衝撃を受けて、外観には変化がなくても内部の部品の故障の原因になることがあります。

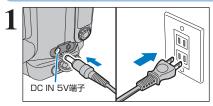
CCDのクリーニングについて

本機には撮像素子としてCCDが搭載されています。このCCDはシャッター幕の奥にあります。
このCCDの表面にゴミなどが付着することがあり、そのまま撮影を行うと撮影条件や被写体によってはこのゴミが画像に写り込むことがあります。この場合、CCDのクリーニングが必要となります。CCDの表面はとても傷つきやすいので、クリーニングが必要なときはできるだけ弊社サービスステーションにお申し付けください（有償）。万一、クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

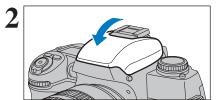
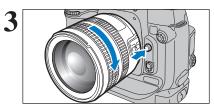
◆CCDにゴミやほこりを付着させないために◆

- レンズ交換は、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- レンズを外したときは、必ず付属のボディキャップを装着してください。このときレンズやボディキャップにゴミやほこりが付着していないことを確認してください。

CCD表面の状態をチェックする

1

カメラの電源が切れていることを確認します。
端子カバーを開け、ACパワーアダプター（別売）の接続プラグを “DC IN 5V” 端子に奥まで差し込み、次に電源コンセントに差し込みます。

- クリーニング中にミラーダウンしたり、シャッターが閉じたりして、カメラが破損するのを防ぐため、ACパワーアダプター（別売）を必ず使ってください。
- ACパワーアダプターについてのご注意は128ページをご参照ください。

2

内蔵ストロボを押し下げて、収納します。

3

レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印方向に回して外します。

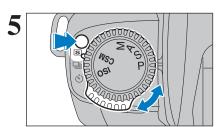
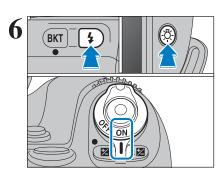
4

露出モードダイヤルを “M” に合わせます。

次ページにつづく

5

レリーズモードレバーロック解除ボタンを押しながら、レリーズモードレバーを“S”1コマに合わせます。

6

“⚡”シンクロモードボタンと“☼”イルミネーターボタンを押しながら、電源を入れます。

7

シャッターボタンを押すと、ミラーアップして、シャッター幕が開いたままの状態になります。

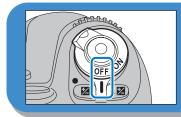
! シャッターボタンから指を離しても、ミラーアップしたままとなります。

8 CCDに光が当たるようにカメラを持って、表面をチェックします。

ゴミが付着していない

ゴミが付着している

弊社サービスステーションにCCDクリーニングを依頼する

自分でクリーニングする

電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。

CCDクリーニングを開始する

クリーニング作業中にCCDに傷を付けたり、破損した場合、弊社サービスステーションでの（交換）修理は有償（高額）となりますので、十分ご注意ください。

1 CCDの表面にあるゴミをブロアー（ブラシの付いていないもの）で取り除きます。

ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブロアーのブラシでCCDのゴミを取り除くと、表面にキズをつけることがあります。

2 CCD表面のゴミが取り除けたか確認します。

ゴミをブロアーで取り除くことができた（油脂や指紋などの汚れもない）

油脂や指紋などのブロアーでは取り除けない汚れが残っている

手順 **3**へ

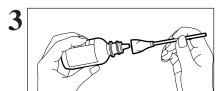
電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。

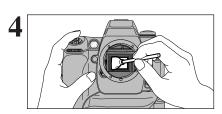
CCDのクリーニングについて

◆クリーニング用具をご用意ください◆

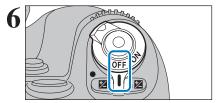
●クリーニングスティック
センサースワブ（フォトグラフィックソリューション製
＊日本販売代理店：銀一株式会社　海外商品課　TEL：03-5550-5036
http://www.ginichi.com/）
●クリーナー液
無水エタノール、EEクリーナー（オリンパス製）または、エクリプス（フォトグラフィックソリューション製）
＊エクリプスは劇薬扱いのため購入には、身分証明書の提示と押印が必要となります。

3

センサースワブの下辺から5mm程度の範囲にまんべんなくクリーナーをしみ込ませます。

! クリーナー液をしみ込ませない状態での乾拭きは行わないでください。

4

センサースワブの片面で、1回だけ、CCDの左端から右端へゆっくりと拭きます。

5 センサースワブの反対側の面で、1回だけCCDの左端から右端へゆっくりともう一度拭きます。使用済みのセンサースワブは、再使用しないでください。

汚れが落ちない場合には、必ず新しいセンサースワブを使って、**3**～**5**の手順を行うか、弊社サービスステーションにお問い合わせください。

6

電源を切り、カメラにレンズまたはボディキャップを装着します。

! 電源を切ると同時にミラーダウンします。シャッター幕が閉じますので、指などが挟まれないように注意してください。

CCDのクリーニングは必ずこの操作手順で行い、絶対にバルブ撮影モードでクリーニングを行わないでください。
バルブ撮影モードはCCDに通電されており、故障の原因になります。

電源についてのご注意

使用できる電池

- 本機には、単3形ニッケル水素電池を使用してください。単3形アルカリ乾電池、単3形マンガン乾電池、単3形リチウム電池や単3形ニカド電池は、使用できません。

電池についてのご注意

電池の使いかたを誤ると、液もれ、発熱、発火、破裂の恐れがあります。以下の事項をお守りください。

- 火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- プラス極とマイナス極を針金などの金属で接続したり、ネックレスやヘアピンなどの金属類と一緒に持ち運んだり保管しないでください。
- 水や海水につけたり、端子部分をぬらさないでください。
- 変形させたり、分解、改造をしないでください。
- 外装チューブをはがしたり、傷をつけないでください。
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えないでください。
- 液もれしている、変形、変色、その他異常に気づいたときは使用しないでください。
- 高温、多湿の場所に保管しないでください。
- 幼児やお子様の手の届く範囲に放置しないでください。
- カメラに電池を入れるときは、極性（⊕と⊖）に注意して表示どおりに入れてください。
- 新しい電池と使用した電池（充電式電池の場合：充電済みの電池と、放電した電池）、あるいは種類やメーカーの異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- 長い間使用しないときは、電池を取り出しておいてください（電池を取り外して放置した場合、各種設定がクリアされます）。
- 使用直後の電池は高温になることがあります。電池の取り外しはカメラの電源を切り、電池の温度が下がるのを待ってから行ってください。
- 電池を交換するときは、4本すべてを新しい電池にお取り換えください。新しい電池とは、ニッケル水素電池では「最近同時にフル充電した電池」のことです。
- 寒冷地（＋10℃以下）では電池の性能が低下し、使用可能時間が極端に短くなります。電池をポケットの中などで温めてからお使いください。また、カイロをお使いの場合は直接電池に触れないようにご注意ください。
- 電池の電極に皮脂などの汚れがあると撮影枚数が極端に少なくなることがあります。電池をセットする前に電極を乾いた柔らかい布で丁寧に清掃してください。

⚠ 万一、液もれが起こったときは、電池挿入部についた液をよくふき取ってから、新しい電池を入れてください。

⚠ 電池の液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。また、液が目に入った場合には失明の恐れがあります。こすらずに、きれいな水で洗ったあと、医師の診療を受けてください。

単3形ニッケル水素電池を正しくお使いいただくためのご注意

- デジタルカメラで使用する電池として単3形ニッケル水素電池（以下ニッケル水素電池）は、アルカリ乾電池に比べてカメラで撮影できる枚数が多いなど優れていますが、ニッケル水素電池の本来の電池性能を発揮させるために使用方法にはご注意が必要です。
- お買い上げ時や長い間使用しなかったニッケル水素電池は「不活性」状態になっている可能性があります。また、まだ十分に使用できる状態で充電を繰り返すと「メモリー効果」が生じる可能性があります。
  「不活性」状態や「メモリー効果」が発生したニッケル水素電池では、充電後の使用可能時間が短くなる症状が出てきます。この症状を防ぐにはカメラに内蔵している充電池放電機能を使っての放電と充電を数回繰り返すことにより、「不活性」や「メモリー効果」によって一時的に低下した電池性能を回復させ、ニッケル水素電池本来の性能を発揮させることができます。
  「不活性」や「メモリー効果」はニッケル水素電池固有のもので、故障ではありません。
  「充電池放電」操作は105ページを参照ください。
- ニッケル水素電池の充電は、付属の急速充電器を使用し、19ページおよび急速充電器の「使用説明書」の指示に従って正しく行ってください。
- 付属の急速充電器では、指定外の電池を充電しないでください。
- 充電直後の電池は高温になっていることがありますので、ご注意ください。
- カメラの機構上、電源を切っても微小電流が流れています。ニッケル水素電池を長期間カメラに入れたままにすると過放電状態になり、充電しても使えなくなることがありますので特にご注意ください。
- ニッケル水素電池は使わなくても自然放電しており、使用可能時間が短くなることがあります。
- ニッケル水素電池は、放電し過ぎると急速に劣化します（懐中電灯などでの放電）。放電はカメラの「充電池放電」機能をご使用ください。
- ニッケル水素電池にも寿命があります。放電と充電を繰り返しても使用可能時間が短い場合は、寿命の可能性があります。

■電池の破棄について

電池を捨てるときは、地域の条例に従って処分してください。

■小形充電式電池のリサイクルについて

ニッケル水素電池はリサイクル可能な貴重な資源です。ご使用済みの電池は、端子を絶縁するためにセロハンテープなどをはるか、個別にポリ袋に入れて最寄りのリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。

詳細は、「有限責任中間法人JBRC」のホームページをご参照ください。
［ホームページ］http://www.JBRC.com/

電源についてのご注意

急速充電器についてのご注意

- 充電式電池や急速充電器は、内部で電力を消費するため温かくなりますが異常ではありません。できるだけ通気の良いところで使用してください。
- ご使用中、内部で発信音がする場合がありますが、故障ではありません。
- 充電中の急速充電器にラジオを近づけると、放送に雑音が入ることがあります。その場合は、急速充電器をラジオから離してご使用ください。
- 充電式電池の接続部や接点部に他の金属が触れないようにしてください。ショートすることがあります。
- 次のような場所には、置かないでください。
  暖房器具の近くや直射日光の当たるところなど、温度の高いところ/湿気の多いところ/ほこりの多いところ/振動の激しいところ
- 海外旅行でも使用可能な、入力AC100～240V、50/60Hz仕様です。ただし、電源コンセントの形状は、各国・各地で異なりますので国に合ったコンセント変換プラグが必要です。詳しくは、旅行代理店にご相談ください。

急速充電器の主な仕様

定格入力	AC 100V～240V　50/60Hz
入力容量	AC 100V　16VA、AC 240V　21VA
定格出力	DC1.2V　565mA（×4）
適合電池	FUJIFILM 単3形ニッケル水素電池2300
充電時間	約255分
外形寸法	105mm×65mm×27.5mm （長さ×幅×厚さ）
質量	約95g（電池含まず）
使用周囲温度	0℃～＋40℃

ACパワーアダプターについてのご注意

極性統一形プラグ

必ず専用のACパワーアダプターAC-5VX（JEITA規格・極性統一形プラグ付き）をお使いください。弊社専用品以外のACパワーアダプターをお使いになるとカメラが故障する原因となることがあります。

- 室内専用です。
- カメラのDC入力端子へ、接続コードのプラグをしっかり差し込んでください。
- カメラのDC入力端子から接続コードを抜くときは、カメラの電源を切って、プラグを持って抜いてください（コードを引っ張らないでください）。
- ACパワーアダプターは、指定の機器以外には使用しないでください。
- 使用中、ACパワーアダプターが熱くなるときがありますが故障ではありません。
- 分解したりしないでください。危険です。
- 高温多湿のところでは使用しないでください。
- 落としたり、強いショックを与えないでください。
- 内部で発信音がすることがありますが、異常ではありません。
- ラジオの近くで使用すると、雑音が入る場合がありますので、離してお使いください。

メディアについてのご注意

■ xD-ピクチャーカード について

デジタルカメラ用に開発された、新しい画像記録媒体xD-Picture Card（xD-ピクチャーカード）です。
xD-ピクチャーカード の中には、半導体メモリー（NAND型フラッシュメモリー）が内蔵されており、このメモリーにデジタル化された画像ファイルが記録されます。
記録は電気的に行われますので、一度記録した画像ファイルを消去したり、再び記録することができます。

■マイクロドライブについて

Microdrive（マイクロドライブ）は小型/軽量のハードディスクでCF+TypeⅡに準拠しています。大量の画像ファイルが記録でき、1MB当たりの記録コストも低減するため、高画質な画像をより経済的に保存することができます。

■ファイル保持について

以下の場合、記録したファイルが消滅（破壊）することがあります。記録したファイルの消滅（破壊）については、弊社は一切その責任を負いませんのであらかじめご了承ください。
＊お客様または第三者がメディアの使いかたを誤ったとき
＊カメラやパソコンなどからメディアへアクセス中（データ通信中など）にカードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
＊その他、誤った使いかたをしたとき

大切なファイルは別のメディア（MOディスク、CD-R、CD-RW、ハードディスクなど）にコピーして、バックアップ保存されることをおすすめします。

■メディアに共通の取扱上のご注意

- メディアをカメラに入れるときは、まっすぐに挿入してください。
- メディアの記録中、消去（フォーマット）中は、絶対にメディアを取り出したり、機器の電源を切ったりしないでください。メディアが破壊されることがあります。
- メディアは精密電子機器です。曲げたり、強い力やショックを加えたり、落としたりしないでください。
- 強い静電気、電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください。
- 高温多湿の場所、または腐食性のある環境下でのご使用、保管は避けてください。

■ xD-ピクチャーカード の取扱上のご注意

- xD-ピクチャーカード は、小さいため乳幼児が誤って飲み込む可能性があります。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。万一、乳幼児が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
- 指定以外の xD-ピクチャーカード はお使いになれません。無理にご使用になるとカメラの故障の原因になります。
- xD-ピクチャーカード の接触面（金色の部分）がゴミや皮脂などで汚れた場合は、乾いた柔らかい布などでふいてください。
- 保管や持ち運びする場合は専用ケースか専用キャリングケースに入れることをおすすめします。
- 静電気を帯びた xD-ピクチャーカード をカメラに入れると、カメラが誤作動する場合があります。このような場合はいったん電源を切ってから、再び電源を入れ直してください。
- ズボンのポケットなどに入れないでください。座ったときなどに大きな力が加わり、壊れる恐れがあります。
- 長時間お使いになったあと、取り出した xD-ピクチャーカード が温かくなっている場合がありますが、故障ではありません。
- xD-ピクチャーカード には寿命があり、長期間使用するうちに書き込みや消去ができなくなります。このときは新しいものをお買い求めください。
- xD-ピクチャーカード にはラベル類は一切はらないでください。 xD-ピクチャーカード の出し入れの際、故障の原因になります。
- 万一、弊社の製造上の原因による初期品質不良がありました場合には、同数の新しい xD-ピクチャーカード とお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

■マイクロドライブの取扱上のご注意

- マイクロドライブのラベルにボールペンなどの硬いペンで記入しないでください。
- マイクロドライブのラベルをはがさないでください。
- マイクロドライブにラベルを重ねてはらないでください。
- マイクロドライブの持ち運びや保管時は、マイクロドライブ同梱の専用保護ケースに入れてください。
- マイクロドライブ使用時、撮影データ記録中に振動や衝撃を与えると撮影データが正常に記録されない場合があります。机の上などにカメラを置くときは静かに置いてください。
- 取り出し機能のないCF+TypeⅡスロットでは使用しないでください。
- 長時間使用すると熱くなることがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 強い磁気のそばに近づけないでください。
- ぬらさないでください。
- カバーを強く押さないでください。

■メディアをパソコンで使用する場合のご注意

- パソコンで使用したあとのメディアを使って撮影する場合、メディアのフォーマットはカメラで行ってください。
- メディアをカメラでフォーマットして撮影、記録すると、自動的にフォルダが作成されます。画像ファイルは、このフォルダ内に記録されます。
- パソコンでメディアのフォルダ名、ファイル名の変更、消去などの操作を行わないでください。メディアがカメラで使用できなくなることがあります。
- メディア上の画像ファイルの消去はカメラで行ってください。
- 画像ファイルを編集する場合は、画像ファイルをハードディスクなどにコピーし、コピーした画像ファイルを編集してください。

■コンパクトフラッシュの取扱上のご注意

コンパクトフラッシュの機能、動作の詳細、動作環境などについては、コンパクトフラッシュメーカーにご確認ください。
FinePix S3 Proの動作確認済みのメディアをホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/）に紹介していますので、ご覧ください。またはサポートセンター（➡裏表紙）にお問い合わせください。

- カメラの使用直後はコンパクトフラッシュが熱くなっていることがありますので、取り扱いには十分注意してください。
- 端子部に手や金属を触れないでください。
- 未使用のコンパクトフラッシュは、フォーマットしてから使用してください。

xD-ピクチャーカード™の主な仕様

形　式	デジタルカメラ用イメージメモリーカード xD-Picture Card（xD-ピクチャーカード）
動作電圧	3.3V
使用条件	温度 0℃～+40℃ 湿度 80%以下（結露しないこと）
外形寸法	25mm×20mm×2.2mm（幅×高さ×厚み）

マイクロドライブの主な仕様

形　式	CF+™ TypeⅡ
動作電圧	3.3V、5V
使用条件	温度 +5℃～+40℃ 湿度 8%～90%以下（結露しないこと）
外形寸法	42.8mm×36.4mm×5mm （幅×高さ×厚み）

警告表示

▶上面表示パネル、ファインダー内に表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示		警告内容	処　置
上面表示パネル	ファインダー内表示		
FEE（点滅）	FEE（点滅）	●レンズの絞りリングが最小絞りになっていない。 ●カメラの露出モードが"P"モードで外部ストロボがTTLモード以外にセットされている。	●レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。 ●露出モードを"P"モード以外にセットするか、外部ストロボをTTLモードにセットしてください。
（点滅/点灯）	表示なし	電池が消耗している。	充電済みの電池と交換してください。
F--（点滅）	F--（点滅）	CPU内蔵ニッコール以外のレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない。	CPU内蔵ニッコール（IXニッコールを除く）を使用してください。ただし、"M"モードにセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます。
表示なし	●（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができない。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。
HI（点灯）	HI（点灯）	被写体が明るすぎて、カメラの露出制御範囲を超えている。	●"P"モード時はND（光量調節用）フィルターを使用してください（"S"、"A"モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●"S"モード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ●"A"モード時はより大きい数値の絞りにしてください。
Lo（点灯）	Lo（点灯）	被写体が暗すぎて、カメラの露出制御範囲を超えている。	●"P"モード時はストロボを使用してください（"S"、"A"モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ●"S"モード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ●"A"モード時はより小さい数値の絞りにしてください。
表示なし	露出インジケーター（点滅）	被写体が明るすぎたり、暗すぎたりして、カメラの露出制御範囲を超えている。	明るすぎる場合はND（光量調節用）フィルターを使用してください。暗すぎる場合はストロボを使用してください（露出インジケーターは点滅した状態のままとなります）。
bulb（点滅）	bulb（点滅）	露出モードが"S"モード時にシャッタースピードが"bulb"にセットされている。	シャッタースピードを"bulb"以外にセットするか、"M"モードにセットしてください。
セットしたシャッタースピード（点滅）	180（点灯）	露出モードが"S"、"M"モード時にシャッタースピードが同調スピードより高速にセットされている。	シャッタースピードは自動的に1/180秒に切り換わりますので、そのまま撮影が行えます。
表示なし	ϟ（点滅）	発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがある。	撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出した。	"M"モードにセットし、再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、弊社サービスステーションにご相談ください。

警告表示		警告内容	処　置
上面表示パネル	ファインダー内表示		
Err（点灯）	表示なし	電池の電池容量が低下もしくはなくなっている。	電源レバーをいったんOFFにして電池を交換した後、電源レバーをONにして再び使用してください。
Err（点滅）	表示なし	電池の電池容量が低下している場合や低温時はメカが停止し、撮影ができません。	電源レバーをいったんOFFにして電池を交換した後、電源レバーをONにして再び使用してください。それでも復帰しないときは、“M”モードにセットし、フォーカスモードをM（マニュアルフォーカス）にセットした後、シャッターを切って電源レバーをいったんOFFにしてください。

きわめて稀なケースとして、上面表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路内部に侵入したことが考えられます。万一このような状態になったときは、電源レバーを“OFF”にして電池を入れ直し、電源レバーを“ON”にしてカメラを作動させてみてください。この場合、カメラの設定が初期化される場合があります。必要な状態を確認のうえ、使用してください。

警告表示

▶液晶モニターに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示 液晶モニター	警告内容	処　置
カードがありません	メディアが入っていない。	メディアをセットしてください。
フォーマットされていません	●メディアがフォーマット（初期化）されていない。 ●メディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●カメラが故障している。	●メディアをカメラでフォーマットしてください。 ●メディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合はメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
カードエラー	●メディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●メディアが壊れている。 ●メディアのフォーマットが異常。 ●カメラが故障している。	●メディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合はメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
空き容量がありません	メディアに空き容量がなく、これ以上記録できない。	画像を消去するか、空き容量のあるメディアを使用してください。
再生できません	●正常に記録されていないファイルを再生しようとした。 ●メディアの接触面（金色の部分）が汚れている。 ●カメラが故障している。	●再生することはできません。 ●メディアの接触面を、乾いた柔らかい布などでよくふいてください。また、フォーマットが必要な場合があります。それでも警告表示が消えない場合はメディアを交換してください。 ●弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。
コマＮＯ．の上限です	コマNO.が999―9999に達している。	① フォーマットしたメディアをカメラにセットします。 ② SET-UPメニューでコマNO.を「新規」にします。 ③ 撮影します（コマNO.が「100-0001」より開始されます）。 ④ SET-UPメニューでコマNO.を「連番」にします。
記録できませんでした	●メディアと本体の接触異常またはメディアの異常のため記録できない。 ●撮影した画像がメディアの空き容量を超えて記録できない。	●メディアを入れ直すか電源のON/OFFを繰り返してください。それでも復帰できないときは、弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。 ●新しいメディアを使用してください。
プロテクトされています	プロテクトされているファイルを消去しようとした。	プロテクトしたファイルは消去できません。プロテクトを解除してください。
これ以上予約できません	DPOFのコマ設定で1000コマ以上のプリント指定をした。	同一メディア内でプリント指定できるコマ数は999コマまでです。別のメディアにプリント予約したい画像をコピーして、プリント予約してください。
接続できませんでした	パソコンまたはプリンターとの通信ができなかった。	●FinePix S3 Pro専用USBケーブルの接続を確認してください。 ●プリンターの電源が入っているか確認してください。

警告表示 液晶モニター	警告内容	処　置
プリンターエラー	PictBridgeに関する表示。	●プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。 ●プリンターの電源をいったん切ってから、再度入れてください。 ●お使いのプリンターの使用説明書をお読みください。
プリンターエラー 再開しますか？	PictBridgeに関する表示。	プリンターの用紙切れやインク切れがないか確認してください。プリンターエラーを解消すると自動的にプリントが再開されます。確認後もエラーメッセージが消えない場合は“MENU/OK”ボタンを押して、プリントを再開してください。
プリントできません	PictBridgeに関する表示。	●お使いのプリンターの使用説明書をご覧になり、プリンターがJFIF-JPEG、Exif-JPEG形式の画像フォーマットに対応しているかご確認ください。対応していない場合はプリントできません。 ●本機で撮影したデータですか？ 本機で撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。
プリントできない コマです	PictBridgeに関する表示。	本機で撮影したデータですか？ 本機で撮影したデータ以外はプリントできないことがあります。
プリンター優先操作中 （ 予約プリント中）	PictBridgeに関する表示。	PictBridge対応の弊社製プリンターからプリント操作を行ったときに表示されます。詳しくはプリンターの使用説明書をご覧ください。
RAW 設定できません	RAW設定で撮影した画像をプリント予約しようとした。	RAW設定で撮影した画像はプリント予約できません。
1M トリミングできません RAW トリミングできません	1Mの画像、RAW設定で撮影した画像をトリミングしようとした。	トリミングはできません。
トリミングできません	●本機以外で撮影した画像をトリミングしようとした。 ●画像が壊れている。	トリミングはできません。

▶背面表示パネルに表示される警告には、以下のものがあります。

警告表示 背面表示パネル	警告内容	処　置
（点灯）	電池の電池容量がわずかになった。	予備の電池を用意してください。
（点滅）	電池が消耗している。	電池を交換してください。

困ったときは

▶故障とお考えになる前に、もう一度お調べください。処置を行っても改善されない場合は弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
電源が入らない。	●電池が消耗している。 ●電池の向きが逆に入っている。 ●ACパワーアダプターが正しく接続されていない。	●充電済みの電池と交換してください。 ●電池を正しい方向に入れてください。 ●正しく接続しなおして、電源プラグをコンセントに差し込んでください。
電源が途中で切れる。	電池が消耗している。	充電済みの電池と交換してください。
電池の消耗が早い。	●気温が極端に低いところで使っている。 ●電池の端子が汚れている。 ●電池の端子が汚れている状態で充電した。 ●長期間使用していなかった充電式電池を、充電してから使った。 ●充電式電池の寿命です。 ●電池が不活性化している、またはメモリー効果により電池の能力が落ちている。	●電池をポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前にカメラに入れてください。ただし、アルカリ乾電池は使用できません。 ●電池をカメラから取り出して、電池の端子部分を乾いたきれいな布でふいてから入れ直してください。 ●電池の端子部分を乾いたきれいな布でふいてから充電してください。 ●電池の特性により、十分に充電されないことがあります。充電して使用することを数回繰り返してください。 ●新しい充電式電池と交換してください。 ●充電池放電機能を用いて、充電式電池の能力を回復させてください。
シャッターボタンを押しても撮影できない。	●AF-Sでピントが合っていない（“●ピント表示”なし）。 ● **xD-ピクチャーカード** あるいはCF/マイクロドライブが入っていない。 ● **xD-ピクチャーカード** あるいはCF/マイクロドライブに空き容量がなく、これ以上記録できない。 ● **xD-ピクチャーカード** あるいはCF/マイクロドライブがフォーマットされていない。 ● **xD-ピクチャーカード** の接触面（金色の部分）が汚れている。 ● **xD-ピクチャーカード** あるいはCF/マイクロドライブが壊れている。 ●電池が消耗している。 ●ピントを合わせられない。 ●エラーが発生している。	●AFロックでピントを合わせ“●ピント表示”を確認してから撮影してください。 ● **xD-ピクチャーカード** あるいはCF/マイクロドライブを入れてください。 ●新しい **xD-ピクチャーカード** あるいはCF/マイクロドライブを入れるか、不要なコマを消去してください。 ●カメラでフォーマットしてください。 ● **xD-ピクチャーカード** の接触面（金色の部分）を乾いたきれいな布でふいてください。 ●新しい **xD-ピクチャーカード** あるいはCF/マイクロドライブを入れてください。 ●充電済みの電池と交換してください。 ●フォーカスモードを“M”マニュアルにしてピントを合わせて撮影してください。 ●130〜133ページの警告表示を参照して処置してください。
ストロボ撮影ができない。	●ストロボ発光禁止になっている（ストロボが閉じている）。 ●ストロボ充電中にシャッターボタンを押した。	●ストロボをポップアップしてください。 ●充電が完了してからシャッターボタンを押してください。
ストロボが発光したのに再生画面が暗い。	●被写体が遠い。 ●ストロボに指がかかっている。 ●ストロボに遮蔽物がかかっている。	●被写体に近づいてください。 ●カメラを正しく構えてください。 ●レンズフードを外してください。
画像がぼやけている。	●レンズが汚れている。 ●ピントが合っていない。 ●絞りすぎている。	●レンズを清掃してください。 ●ピントを正しく合わせてください（➡32ページ）。 ●絞りを少し開いて撮影してください。
xD-ピクチャーカード あるいはCF/マイクロドライブのフォーマットができない。	メディアがこわれている。	新しいメディアと交換してください。
全コマの消去で、すべてのコマが消せない。	コマがプロテクトされている。	プロテクトを解除してください。
カメラのスイッチやダイヤルを操作しても作動しない。	●カメラの誤作動。 ●電池が消耗している。	●電源（電池）をいったん取り外して、再び取り付け直してから操作してください。 ●新しい電池と交換してください。

困ったときは	ここをチェック	こうしてください
“PLAY” ボタンを操作しても液晶モニターに画像が表示されない。	●メディアが入っていない。 ●メディアに撮影データが記録されていない。	●撮影データの入っているメディアを入れてください。
テレビに画像が出ない。	●カメラとテレビの接続が間違っている。 ●テレビの入力が「テレビ」になっている。	●正しく接続してください。 ●テレビの入力を「ビデオ」にしてください。
フィルムシミュレーションモードが選択できない。	D-レンジがスタンダードでカラースペースがAdobeRGBになっている。	D-レンジをワイド、カラースペースをsRGBにしてください。
PictBridgeでプリントできない。	SET-UPのUSB設定が “🖶⇋” になっていない。	SET-UPのUSB設定を “🖶⇋” にしてください。
USB設定が “🖶⇋” のままパソコンに接続した。		下記手順に従いカメラをパソコンから取り外してください。 ●Windowsの場合 ①「新しいハードウェア」(または「スキャナとカメラ」) ウィザードが表示されます。 ウィザードが表示されない場合は、③に進んでください。 ②[キャンセル] ボタンをクリックします。 ③パソコンからカメラを取り外します。 ●Macintoshの場合 ①ドライバを探す画面などが表示されます。 画面が表示されない場合は、③に進んでください。 ②[キャンセル] ボタンをクリックします。 ③パソコンからカメラを取り外します。

主な仕様

システム

型番	FinePix S3 Pro
有効画素数	1234万画素（S画素：617万画素、R画素：617万画素）
撮像素子	大型（23.0mm×15.5mm）スーパーCCDハニカム SRⅡ　原色フィルター採用 総画素数1290万画素（S画素：645万画素、R画素645万画素）
記録メディア	xD-ピクチャーカード（16MB～512MB）/CFおよびマイクロドライブ ダブルスロット搭載（FAT32対応）
記録方式	DCF準拠　圧縮：Exif Ver2.21 JPEG準拠/DPOF対応　非圧縮：CCD-RAW※1
最大記録画素数	4256×2848（1210万画素）
記録画素数	4256×2848ピクセル/3024×2016 ピクセル/2304×1536 ピクセル/ 1440×960 ピクセル
レンズマウント	ニコンFマウント対応（AFカップリング、AF接点付き）
焦点距離	焦点距離の約1.5倍（35mmフィルム換算）
撮影感度	ISO100/160/200/400/800/1600※2
測光方式	TTL開放測光方式、3D-10分割マルチパターン測光/中央部重点測光/スポット測光
露出制御	プログラムAE/シャッター優先AE/絞り優先AE/マニュアル露出
露出補正	−3.0EV～+3.0EV　　1/2EVステップ
シャッター	電子制御上下走行式フォーカルプレーンシャッター
シャッタースピード	30秒～1/4000秒(バルブ撮影可能)※3
連写※4	最短約0.4秒間隔　最大連続12コマまで(D-レンジ：スタンダード、JPEGモード時) 最大連続7コマまで（D-レンジ：スタンダード、RAWモード時） 最短約1秒間隔　最大連続6コマまで（D-レンジ：ワイド、JPEGモード時） 最短約0.7秒間隔　最大連続3コマまで（D-レンジ：ワイド、RAWモード時）
オートブラケティング	±0.5EV、±1.0EV、±1.5EV、±2.0EV
フォーカス	モード：シングルAFサーボ/コンティニュアスAFサーボ/マニュアルフォーカス AF方式：TTL位相差検出方式、AF補助光付き AFフレーム選択：シングルエリアAF/ダイナミックAF（至近優先ダイナミックAF機能付き）
ホワイトバランス	シーン自動認識オート/プリセット（晴天/日陰/昼光色蛍光灯/昼白色蛍光灯/ 白色蛍光灯/電球）/カスタム（2ポジション）
セルフタイマー	約20秒/約10秒/約5秒/約2秒
ストロボ	手動ポップアップ式　D-3D-マルチBL調光/D-マルチBL調光/スタンダードD-TTL調光/ガイドナンバー12（ISO100·m）同調シャッタースピード：1/180秒以下
ストロボ発光モード	先幕シンクロ/スローシンクロ/後幕シンクロ/赤目軽減/赤目軽減スローシンクロ/ 発光禁止
アクセサリーシュー	シンクロ接点、レディ信号接点、TTL調光ストップ信号接点、モニター信号接点、 GND付き
シンクロ接点	X接点のみ、同調シャッタースピード：1/180秒以下
シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO519）標準装備、外れ防止ネジ付き
ファインダー	アイレベル式ペンタプリズム使用（視野率 上下約93%、左右約95%）、 視度調節機構付き、ファインダー倍率約0.8倍
液晶モニター	2.0型（対角5.1cm）低温ポリシリコンTFTカラー液晶モニター 約23.5万画素（再生時視野率 約100%）
リモートレリーズ	シャッターボタンにレリーズソケット装備、 ボディ側面に10ピンリモートレリーズ端子装備
撮影時機能	カラースペース選択、ダイナミックレンジ選択、フィルムシミュレーションモード選択、ベストフレーミング（格子線表示）、コマNo.メモリー、多重露出撮影※4、 縦位置撮影用シャッターボタン、スルー画表示機能
再生時機能	トリミング、オートプレイ、マルチ再生、ヒストグラム表示、高輝度警告表示
その他の機能	PictBridge対応、Exif Print対応、PRINT Image MatchingⅡ対応、 言語設定（日/英/仏/独/西/伊/中）、放電機能

■メディア標準撮影枚数

撮影枚数は被写体により多少の増減があります。かつ、撮影枚数はメディアの容量が大きくなるほど、標準枚数との差が大きくなる場合があります。

ピクセル（記録画素数）	RAW RAW		12M 4256×2848（約1210万）		6M 3024×2016（約610万）		3M 2304×1536（約354万）		1M 1440×960（約138万）	
クオリティー	HIGH		FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL	FINE	NORMAL
	D-レンジワイド	D-レンジスタンダード								
画像1枚のファイルサイズ	約25MB	約13MB	約4.7MB	約2.4MB	約3.0MB	約1.5MB	約1.7MB	約880KB	約1MB	約520KB
DPC-16MB（16MB）	0	1	3	6	5	10	8	17	14	29
DPC-32MB（32MB）	1	2	6	13	10	20	17	35	30	59
DPC-64MB（64MB）	2	4	13	26	21	42	36	72	61	120
DPC-128MB（128MB）	5	9	26	53	42	84	72	144	122	241
DPC-256MB（256MB）	10	19	53	107	85	169	146	290	245	484
DPC-512MB（512MB）	20	39	107	214	170	339	292	580	491	967
MK-1（340MB）	13	27	73	146	116	232	200	396	338	671
MK-2（1GB）	41	81	220	437	349	698	597	1173	995	1932

CCD-RAWのとき、ピクセルは“RAW”と表示されます。

入・出力端子

ビデオ出力	NTSC/PAL方式
デジタル入出力	USB2.0 High-Speed、IEEE1394
DC入力端子	専用ACパワーアダプターAC-5VX（別売）

電源部、その他

電源	単3形ニッケル水素電池4本（付属）または専用ACパワーアダプターAC-5VX使用
寸法・質量	本体外形寸法：（幅）147.8mm×（高さ）135.3mm×（奥行き）78.5mm（レンズ、突起部含まず） 本体質量：約815g(レンズ、電池、記録メディア含まず) 撮影時質量：使用レンズによる
動作環境	温度：0℃～40℃　＊マイクロドライブ使用時は5℃～40℃ 湿度：80%以下（結露しないこと）
電池作動可能枚数の目安	（下表参照）

電池の種類	撮影枚数
単3形ニッケル水素電池 HR-AA（ニッケル水素2300）	約400枚

CIPA（カメラ映像機器工業会：Camera & Imaging Products Association）規格による電池寿命測定方法（抜粋）：ニッケル水素電池は付属のものを使用。記録メディアは **xD-ピクチャーカード** を使用。温度（23℃）、30秒毎に1回撮影、50mmAF1.4Dレンズを使用して撮影ごとに1回AF駆動、2回に1回ストロボをフル発光、10回に1回電源OFF/ON、AF補助光をOFFにして撮影。

●注意：バッテリーの充電容量により撮影可能枚数の変動があるため、ここに示す電池作動可能枚数を保証するものではありません。低温時では電池作動可能枚数が少なくなります。

付属品	6ページをご覧下さい。
別売アクセサリー	120、121ページをご覧ください。

※1：CCD-RAWはFinePix S3 Pro専用フォーマットです。画像の復元には、付属のソフトウェア「FinePixViewer」、または別売のHyper-Utility Software「HS-V2 Ver.3.0」が必要です。
※2：高感度撮影時（ISO400以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。
※3：長時間露光時（約4秒以上）には画像がザラつく場合があります。また、白点などのノイズが生じることがあります。
※4：多重露出撮影時の最大連写枚数、撮影間隔については、48ページをご覧ください。

＊仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。
＊液晶モニター、液晶ファインダーは非常に高精密度の技術で作られておりますが、0.01%以下の画素で点灯しないものや、常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。また記録される画像には影響ありません。

用語の解説

EV
: 露出を表す数値で、被写体の明るさとフィルムやCCDなどの感度によって決まります。被写体が明るければ数値は大きくなり、暗ければ数値は小さくなります。デジタルカメラは被写体の明るさの変化に対して、絞りやシャッター速度を調整することによりCCDに与える光量を一定にしています。
CCDに与えられる光量が2倍になるとEV値は＋1、半分になるとEV値は－1変化します。

Exif（イグジフ）ファイル形式
: Exif（イグジフ）は、電子情報技術産業協会（JEITA）にて承認されたデジタルスチルカメラ用のフルカラー静止画像フォーマットです。TIFFやJPEGとの互換性があり、一般的な画像処理ソフトウェアで取り扱うことができます。サムネイル画像やカメラ情報の記録方法も規定されています。さらにフォルダ構造、フォルダ名についての規定を含めて、DCFがJEITA規格になっています。

JPEG（ジェイペグ）
: Joint Photographic Experts Groupの略で、もとは画像圧縮の標準化を推進している組織の名称。そこで標準化したカラー画像を圧縮して保存するためのファイル形式です。圧縮率が高くなるほど伸長（画像の復元）したときの画質は劣化します。

CCD-RAW
: 信号処理（CCDから読み出されたデータを画像として再構成する作業）を行う前のデータ。信号処理をパソコンで行うため、細かい制御が可能です。
※画像を再構成するには、パソコンにFinePixViewer（同梱CD-ROM）、または、ハイパーユーティリティー（別売）がインストールされている必要があります。

色温度
: ローソクの炎のような温度の低いものは赤みが強く、ガスコンロの炎のような温度の高いものは青みが強くなります。この温度に対する光の色を色温度（K=ケルビン）で表します。よく晴れた正午頃の太陽の光は5500Kと言われています。

ホワイトバランス
: 人間の目にはどんな照明のもとでも、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラなどでは、被写体周辺の照明光の色に合わせて調整を行って初めて、白い被写体が白く撮影されます。この調整をホワイトバランスを合わせるといいます。

Adobe RGB（1998）
: Adobe Photoshop 5.0の作業用色空間として導入された色空間です。ほとんどのCMYKプリンタで再現される色を内包しており、主に印刷用途に適しています。Adobe Photoshop 5.0のRGB設定では、「SMPTE-240E」、6.0以降のプロファイル指定では、「Adobe RGB（1998）」として導入されています。

カラースペース（色空間）
: カメラ・モニタ・プリンタなど各装置が表現できる色を2次元または3次元の数値で表現した範囲を示します。xy色度図（明るさを除いた色味を2次元で表現した座標空間）でsRGB色空間とAdobeRGB色空間を示します。このxy色度図上で三角で示した範囲が各色空間で表現できる色の範囲を示しています。xy色度図上では外側になるほど鮮やかな色になります。この色の表し方で全ての実在色を表すことができます。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店で所定事項の記入、および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買上げ日より1年間です。この期間は保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

アフターサービス

■調子が悪いときはまずチェックを

本書の「困ったときは」をご覧ください。
使いかたの問題か、故障か迷うときは、弊社FinePixサポートセンターへお問い合わせください。

■故障と思われるときは

弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。依頼方法は、下記の中からお客様のご都合によりお選びください。
①FinePixクイックリペアサービスをご利用いただく
②弊社サービスステーションにお持ちいただく（持込修理）お急ぎのお客様は「FinePix特急修理30分」をご利用ください。
③弊社サービスステーションに宅配便などで送付いただく（送付修理）
④お買上げ店にお持ちいただく
なお、集配ルートの都合上、④の方法よりは、①もしくは②、③の方法が、お預かりの期間は短くなります。
上記①の場合のサービス料金、②④の場合の交通費、③の場合の送料などの諸費用はお客様にてご負担願います。

■修理ご依頼に際してのご注意

- 保証規定による修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または弊社サービスステーションにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。
- 修理品の持込修理/送付修理を弊社サービスステーションに依頼される場合には、「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上、製品に添付してください。「修理依頼票」は故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理箇所のご指定のないとき、弊社では各部点検をはじめ品質、性能上必要と思われるすべての箇所を修理しますので、料金が高くなることがあります。
- 修理料金のお見積もりをご希望の場合は、「修理依頼票」の「お見積もり」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理をすすめさせていただきます。なお、お見積もりは有料となります。
- 落下、衝撃、砂、泥かぶり、冠水、浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合は、修理をお断りする場合があります。

■修理部品の保有期間

本機の補修用部品は、製造打ち切り後8年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。

■交換した部品について

交換した部品は、今後の品質向上に役立てるため、弊社にて引き取らせていただいております。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

■修理料金の支払い方法について

①FinePixクイックリペアサービスをご利用いただいた場合
修理完了品は、代金引換となりますので、サービス料金とともに、運送業者に直接現金でお支払いください。
②弊社サービスステーションにお持ちいただいた場合（持込修理、特急修理30分）
修理完了品お引き取り時、窓口でお支払いください。
③弊社サービスステーションに宅配便などで送付いただいた場合（送付修理）
修理完了品は、代金引換となりますので、運送業者に直接お支払いください。
④お買上げ店にお持ちいただいた場合
お持ちいただいたお店にご確認ください。

■修理の受付は…

修理品の「FinePix特急修理30分」、「FinePixクイックリペアサービス」、「持込修理」、「送付修理」の申し込み方法、受付場所を記載します。
下記に記載する修理サービスにおける修理品お預かり期間は、お買上げ店へお持ちいただく場合よりも、はるかに短くなります。

●【FinePix特急修理30分】：30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービスです。

・下記7カ所の富士フイルムサービスステーションに直接お越しいただいたお客様を対象に、30分を目安にその場で修理し、お渡しするサービスです。
・専任技術者が対応しますので、迅速な修理を行うことができます。
・特急修理のための特別なサービス料金は不要。ただし有償修理の場合には、別途修理料金が必要です。修理料金は、修理完了品お引き取り時にサービスステーション窓口でお支払いください。
・本書に地図の記載がないサービスステーション所在地は、弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/ss）をご覧ください。
※本サービスの詳細は、弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/faq/fxts30/index.html）をご覧ください。

東　京：富士フイルムサービスステーション	〒105-0022	東京都港区海岸1-9-15 竹芝ビル	TEL（03）3436-1315
札　幌：富士フイルムサービスステーション	〒060-0002	札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館	TEL（011）222-3973
仙　台：富士フイルムサービスステーション	〒980-0811	仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル	TEL（022）265-2149
名古屋：富士フイルムサービスステーション	〒460-0008	名古屋市中区栄1-12-19	TEL（052）202-1851
大　阪：富士フイルムサービスステーション	〒541-0051	大阪市中央区備後町3-2-8 大阪長谷ビル	TEL（06）6260-0915
広　島：富士フイルムサービスステーション	〒732-0816	広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター	TEL（082）256-3511
福　岡：富士フイルムサービスステーション	〒812-0018	福岡市博多区住吉3-1-1	TEL（092）281-4863

●【FinePixクイックリペアサービス】：お預かりからお届けまでが3日の宅配修理サービスです。

・「お預かり」-「梱包」-「修理」-「お届け」までをワンパックにしたサービスです。
・当社指定の宅配業者が、ご指定の日時にお預かりに伺い、修理完了後にご自宅までお届けします。
・全国一律のサービス料金（保証期間内外を問わずお客様にご負担いただきます。また有償修理の場合には、別途修理料金が必要です）。
・料金の支払いは、修理品お届け時に、当社指定宅配業者に直接現金でお支払いください。
・サービスの申し込みは、インターネット、電話、ファクスのいずれかの方法から選択してください。
　＊インターネット：http://repairlt.fujifilm.co.jp/quick/index.php　＊専用電話：03-3436-2224　＊専用ファクス：03-3431-3470

●【持込修理】：サービスステーションに直接お持ちいただく場合

・上記7カ所のサービスステーションで受け付けております。お持ちいただく際には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・有償修理の場合の修理料金は、修理完了品お引き取り時、サービスステーション窓口でお支払いください。

●【送付修理】：サービスステーションに直接送付いただく場合

・上記7カ所のサービスステーションで受け付けております。送付時には、お手数ですが「修理依頼票」を添付してください。
・有償修理の場合の修理料金は、代金引換となりますので、修理完了品運送業者に直接お渡しください。

■修理に関する情報は…

● 修理サービスQ&A

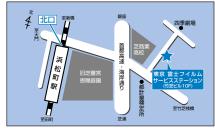
・修理依頼方法、紛失した付属品の購入方法など修理に関するよくある質問と回答をまとめて掲載しています。
※詳細は弊社ホームページ（http://www.fujifilm.co.jp/faq/after/index.html）をご覧ください。

● 修理納期検索サービス

・東京もしくは大阪のサービスステーションに、修理品を送付あるいは持ち込みされた場合に限り、弊社ホームページ（http://repairlt.fujifilm.co.jp/repair/certificate.jsp）で修理完了予定日を検索することができます。

● FinePix修理概算見積もりサービス

・弊社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金が、インターネット上で無料で算出することができます。
※本サービスの詳細は弊社ホームページ（http://repairlt.fujifilm.co.jp/estimate/index.php）をご覧ください。

★東　京：富士フイルムサービスステーション

JR山手線浜松町駅北口下車　徒歩5分
TEL（03）3436-1315
【受付時間】
　月～金　午前 9：00～午後5：40
　土　　　午前10：00～午後5：00

★大　阪：富士フイルムサービスステーション

地下鉄御堂筋線本町駅1番出口下車　徒歩5分
TEL（06）6260-0915
【受付時間】
　月～金　午前 9：00～午後5：40
　土　　　午前10：00～午後5：00

FinePix S3 Pro 修理依頼票

※弊社サービスステーションに故障品の送付あるいはお持込みの際には、お手数をおかけして申し訳ありませんが、迅速、適切な修理をするために必要事項をご記入の上、製品に添付してください。
※下表の□は、該当する項目にチェック(✓)を入れてください。

フ リ ガ ナ		電 話 番 号	
お 名 前		ファクス番号	
ご 住 所	〒 —		
ボディ番号(機番) 保証書あるいは本体底面に記載してある8けたの番号です。 修理お問い合わせ時にご連絡ください。	No.		
修理品への添付	□保証書 □xD-ピクチャーカード(MB) □電池 □( ) □( ) □( ) □( )		
故障内容(故障時の様子や発生頻度、症状など具体的にご記入ください)			
お 見 積 も り	□インターネットでの修理概算見積もりサービスを使用したので不要 (使用結果を下段にご記入ください) □必要(修理金額 円以上見積もり) □不要		
修理概算見積もりサービス使用結果 ※インターネットで見積もりサービスを使用された場合にご記入ください。	故障現象: 修理費用:		
お見積もり連絡方法	□電話 □ファクス		

※本紙は拡大コピーしてお使いください。

★名古屋:富士フイルムサービスステーション

地下鉄東山線伏見駅6番出口下車 徒歩5分
TEL (052) 202-1851
【受付時間】
月～金 午前 9:00～午後5:40
土 午前10:00～午後5:00

FUJIFILM

富士写真フイルム株式会社

●本製品に関するお問い合わせは…

富士フイルムFinePixサポートセンター

ナビダイヤル 0570-00-1060 / 携帯電話・PHSからは 0424-81-1673

市内通話料金でご利用いただけます

月曜日～金曜日　午前9：00～午後5：40　土曜日　午前10：00～午後5：00　日祝祭日　休み

※曜日、時間帯によっては電話がかかりづらい場合がありますのでご了承ください。

FAX 0424-81-0162

受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

●本製品の関連情報は、下記のホームページをご覧ください。

http://www.fujifilm.co.jp/ または http://www.finepix.com/

弊社ホームページの自己解決に役立つ「Q＆A検索」もご利用ください。

●修理の受付は…

富士フイルムサービスステーションでは、お客様の利便性向上のため各種の修理サービスを用意しております。
お気軽にご利用ください。

■お急ぎの場合は、全国どこからでも

【FinePix クイックリペアサービス】：お預かりからお届け迄が3日の宅配修理サービス

■お近くにサービスステーションがあれば

【FinePix 特急修理30分】：30分を目安にその場で修理を行う持込修理サービス

※詳細は本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。

●本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…

お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日　午前9：30～午後5：00）TEL 03-3406-2982

この用紙は、再生紙を使用しています。

FGS-406110-FG